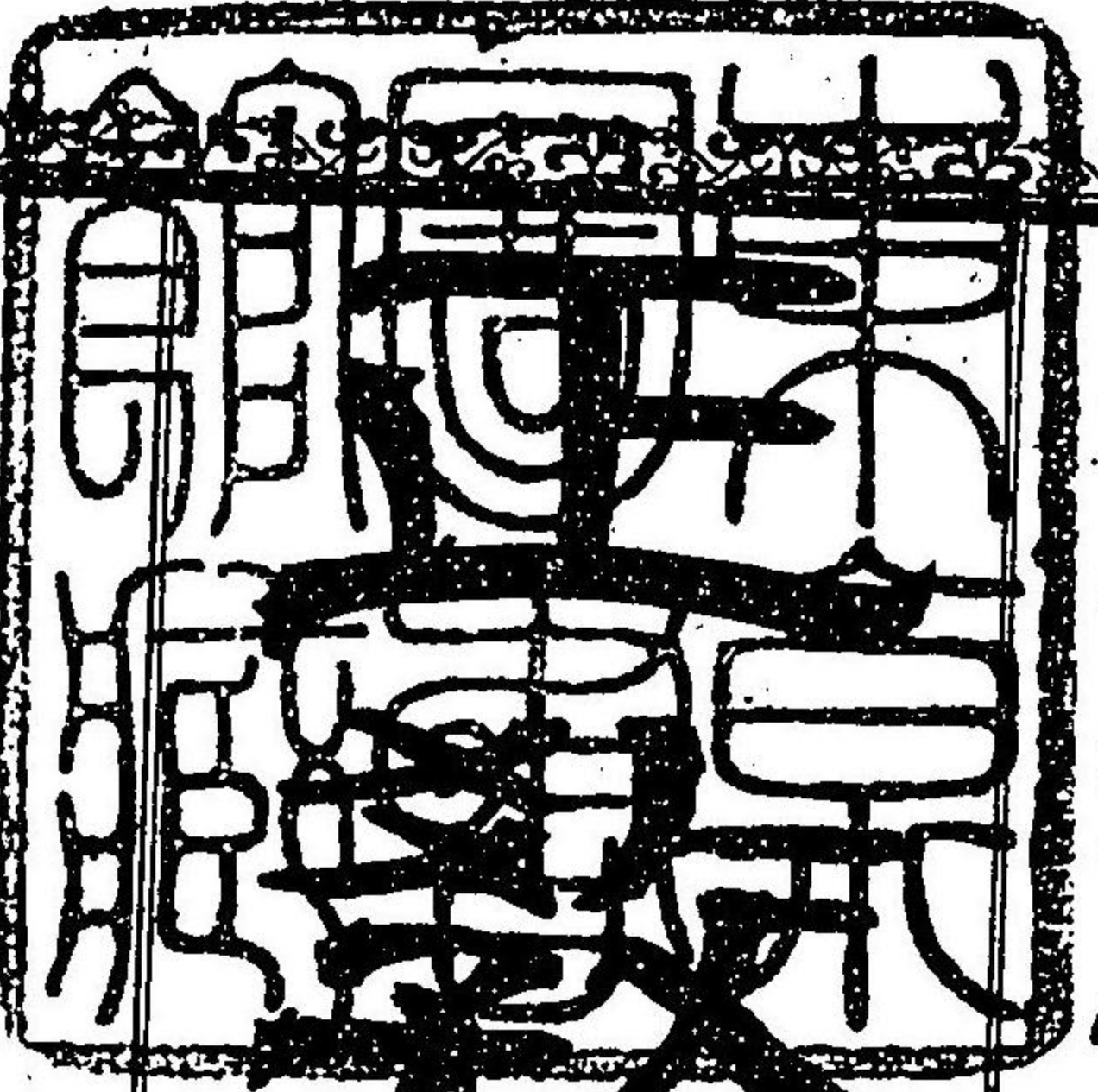


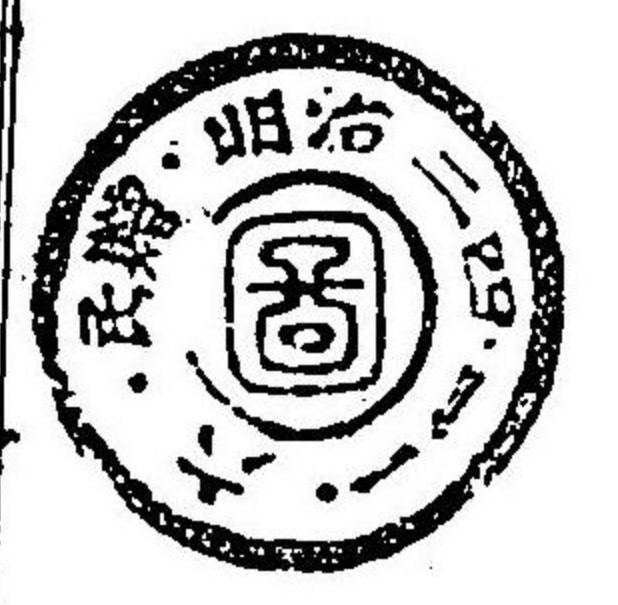
182218/1111

府主教瑪加理
瑪特斐上田
將譯



教定理神學

正教會編輯局印行



三教會編年史

基督教神學

基督教神學

基督教定理神學目次

小引

- 一、基督教定理神學ノ解 壹頁
- 二、定理ガ基督教ノ諸ノ真理ノ間ニ在テ占ムル所ノ位置、基督教定理ノ解及其本性質 二頁
- 三、基督教定理ノ區別 八頁
- 四、基督教定理神學ノ源及模範 十頁
- 五、基督教定理ノ科學的ノ性質及敘述法 十四頁
- 六、基督教定理神學ノ分割及其小區別 十八頁

前編

- 神并ニ神ガ世界及人間ニ對スル總體ノ關係ノ事
- 前部 神ノ事 廿三頁
- 七、吾人ガ神ヲ識ルノ程度 廿三頁
- 八、神ノ事ニ關スル教會ノ教ノ本義及其分割 廿四頁

第一章 神ノ本體惟一ナル事

- 九、本體惟一ナル神ノトニ關スル教會ノ教及此教ノ要領 廿五頁
- 十、神ノ本體ノ解、神ハ乃チ神ナリ 廿六頁
- 十一、神ノ體質ノ解及其分割 廿八頁
- 十二、神ノ本體ノ一般ノ性質 廿九頁
- 十三、神ノ智ノ性質 四十七頁
- 十四、神ノ旨ノ性質 五十三頁
- 十五、神ガ本體ニ因テ惟一ナルノ真理 六十五頁

第二章 神ノ個位三ツアル事

- 十六、至聖三者ノ事ニ關スル教會ノ教及此教ノ編成 六十八頁

第一 神ハ本體惟一ニシテ其個位三ツアル事

- 十七、此定理ニ關スル教會ノ教ノ要領 七十一頁
- 十八、舊約ニ至聖三者ノ奧義ヲ指示スルノ證 七十三頁
- 十九、(甲)神ノ個位三ツアルト其本體ノ唯一ナルトニ關スル新約ノ證 七十六頁
- 二十、(乙)神ノ三位ノ實ニ個體ヲ具フルトニ關スル新約ノ證 八十一頁

第二章 神ノ三位ノ本體惟一ニシテ分ツベカラザルトニ關スル新約ノ證

- 廿一、古教會ガ至聖三者ノ奧義ヲ信シタルノ證 八十六頁

第二 神ノ個位ノ同等及一體ナル事

- 廿二、此定理ニ關スル教會ノ教ノ要領 八十九頁
- 廿三、父ノ神性 九十三頁
- 廿四、子ノ神性及子ガ父ト一體タル事 九十四頁
- 廿五、聖神ノ神性及彼ガ父及子ト一體タル事 九十六頁

第二 神ノ三位其個々ノ性質ニ由テ相異ナル事

- 廿六、此定理ニ關スル教會ノ教 百五頁
- 廿七、神父ノ特質 百十四頁
- 廿八、神子ノ特質 百十五頁
- 廿九、神聖神ノ特質 百十七頁
- 三十、神ノ特質 百十九頁

後部 神ノ造物主及照管者タル事

- 卅一、此定理ニ關スル教會ノ教及本部ノ編成 百廿六頁

第一章 神ガ造物主及照管者トシテ世界ニ對スル總

第一 體ノ關係ノ事

第一 神ガ世界ノ造物主ナル事

○卅二、創造ノ解、神ハ世界ヲ創造セシメ、世界ハ永遠ヨリ存在スルニ非ズ

○卅三、至聖三者ノ諸位創造ニ與カリタル

○卅四、神ガ世界ヲ創造シタルノ狀

○卅五、神ガ受造物ノ重大ル種類ヲ創造シタルノ順序

○卅六、神ノ世界ヲ創造セシメ、所以及其目的

○卅七、神ノ造物ノ善美ナル

第二 神ガ世界ノ照管者ナル事

○卅八、神ノ照管ノ解、其作用及種類

○卅九、神ノ照管ノ實在

○四十、神ノ照管ノ各作用并ニ其ニ大種類ノ實在

○四十一、至聖三者ノ諸位照管ニ與カル

第三 神ガ造物主及照管者トシテ、神靈界ニ對スル關係ノ事

○四十二、神靈界ノ善靈及惡靈ニ區別セラル、并ニ神ガ造物主

百廿八頁

百卅二頁

百卅五頁

百卅七頁

百四十八頁

百五十一頁

百五十三頁

百五十五頁

百五十七頁

百六十二頁

及照管者トシテ、彼等ニ對スルノ關係

第一 善靈即神使ニ對スルノ關係

○四十三、神使ノ解、其存在ノ確實ナル、及彼等ノ神ニ造ラレタル

○四十四、神使ノ性質

○四十五、神使ノ數及其階級即チ天ノ神品職

○四十六、神ハ善神使ヲ幫助ス

○四十七、神ハ善神使ヲ治理ス(甲)神使ノ神ニ對スル務

○四十八、(乙)神使ノ人々ニ對スル務、守護神使ノ

第二 惡靈ニ對スルノ關係

○四十九、惡靈ノ種々ノ名稱及其存在ノ確實ナル

○五十、惡靈ハ初メ善靈ニ造ラレタレドモ自ラ惡靈トナレリ

○五十一、惡靈ノ性質及其數

○五十二、神ハ只惡靈ノ動作ヲ放任スル

○五十三、神ハ惡靈ノ動作ヲ制限シ之ヲノ善良ノ結果ニ向ハシメントス

百六十三頁

百六十五頁

百六十九頁

百七十二頁

百七十六頁

百七十九頁

百八十一頁

百八十六頁

百八十九頁

百九十二頁

百九十五頁

百九十九頁

第三章 神が造物主及ヒ照管者トシテ人間ニ對スル關係ノ事

第一 神造物主及人間ニ對スル關係

- 五十四、此定理ニ關スル教會ノ教及此教ノ區分 二百三頁
 - 五十五、初人アダムエワガ神ニ造ラレタリト爲スモイセイノ說ノ本義及其趣意 二百四頁
 - 五十六、アダム及エワヨリ全人類ノ出タル 二百七頁
 - 五十七、人間ノ組織 二百十二頁
 - 五十八、人ノ靈魂ノ性質人ニ在ル神ノ像及肖 二百十五頁
 - 五十九、人間ノ目的 二百廿二頁
 - 六十、初造ノ人ノ完全ナル 若クハ人ガ己ノ義務ヲ行フノ力ヲ賦セラレタル 二百廿五頁
- 第二 神照管者ノ人間ニ對スルノ關係
- 六十一、此定理ニ關スル教會ノ教及此教ノ區分 二百廿七頁
 - 六十二、初造ノ人ニ對スル神ノ照管及之ニ予ヘラレタルノ誠二百廿九頁
 - 六十三、人自ラ縱ニ罪ニ陥リタル 其ノ罪ニ陥ルノ狀及其原因 二百卅七頁

- 六十四、元祖ノ犯罪ノ結果 二百四十四頁
- 六十五、元祖ノ罪ノ全人類ニ傳ハル 原罪及其結果ノ解 二百四十九頁
- 六十六、原罪ノ實在及普及ノ理并ニ之ガ遺傳ノ方法 二百五十三頁
- 六十七、原罪ガ吾人ニ生スルノ結果 二百五十五頁
- 六十八、神ハ人ノ罪ニ陥リタル後モ息マズノ之ヲ照管ス(甲)神ハ國家及人民ヲ照管ス 二百五十九頁
- 六十九、(乙)神ハ個々ノ人々ヲ照管シ就中義人ヲ照管ス 二百六十二頁
- 七十、人ニ對スル神ノ照管ノ方法及次編ニ移ルノ意 二百六十九頁

後編

神救世主及彼ガ人類ニ對スル特別ノ關係ノ事

前部 神救世主ノ事

- 七十一、此定理ニ關スル教會ノ教及此教ノ區分 二百七十二頁
- 第一章 神ガ我等ノ救世主タル事
- 七十二、一旦墮落セシモ尙興起スルノ力ヲ存シタルノ人間ヲ救ヒ若クハ興起スル 神獨リ之ヲ能クセリ 二百七十四頁

- 七十三、神ガ人ヲ興起シ若クハ救フガ爲ニ選ビタルノ方法及ビ此方法ノ趣意……………二百七十九頁
- 七十四、至聖三者ヲ諸位人類救贖ノ大事ニ與リタルヲ并ニ神子ノ之ガ爲ニ藉身セシ所以……………二百八十一頁
- 七十五、神ガ救贖ヲ爲シタルノ發意及神子ノ此世ニ降臨シタル目的……………二百八十五頁
- 七十六、救贖ノ永遠ヨリ預定セラレタルヲ并ニ贖罪主ノ速ニ此世ニ來ラザル所以……………二百八十八頁
- 七十七、神ガ人類ヲ贖罪主ヲ受ルニ預備セシヲ并ニ何レノ世ニモ贖罪主ニ於ケル信ヲ存セシ……………二百九十一頁
- 第二章、特ニ基督救世主ノ事……………三百頁
- 七十八、此定理ニ關スル教會ノ教及此教ノ編成……………三百一頁
- 第壹節、耶穌基督ノ個位ノ事……………三百一頁
- 七十九、此定理ニ關スル教會ノ教及此教ノ編成……………三百一頁
- 第一、耶穌基督ニ二性アル事……………三百三頁
- 八十、主耶穌ハ神性ヲ有シテ實ニ神ノ子ナリ……………三百三頁

- 八十一、主耶穌ハ人性ヲ具ヘテ實ニ童貞女マリヤノ子ナリ……………三百十頁
- 八十二、主耶穌ハ自然而上ノ法ニ由テ生マレ其至聖ナル母ハ永貞童女ナリ……………三百十六頁
- 八十三、主耶穌ハ無罪ノ人ナリ……………三百廿二頁
- 第二節、耶穌基督ノ個位惟一ナル事……………三百廿四頁
- 八十四、基督ニ於テ二性ノ一位ニ結合シタルノ眞實ナル……………三百三十頁
- 八十五、基督ニ於テ兩性ノ一位ニ結合シタルノ狀……………三百卅五頁
- 八十六、耶穌基督ニ於テ兩性ノ一位ニ相合シタルノ結果(甲)救主自身ニ對スルノ結果……………三百卅五頁
- 八十七、(乙)主耶穌ノ母タル至聖童女ニ對スルノ結果……………三百四十二頁
- 八十八、(丙)至聖三者ニ對スルノ結果……………三百四十五頁
- 第二節、耶穌基督ガ我等ノ救贖ヲ成シタル事……………三百四十八頁
- 八十九、此定理ニ關スル教會ノ教及本節ノ分割……………三百四十八頁
- 第一、耶穌基督ノ預言職ノ事……………三百四十八頁
- 九十、耶穌基督ノ預言職ヲ解及此職ノ眞實ナル……………三百四十八頁
- 九十一、主耶穌ガ預言職ヲ行ヒタルノ方法并ニ其傳教ノ趣……………三百四十八頁

意
○九十二、耶穌基督ハモイセイノ律法ニ代ヘテ吾人ニ完全無
欲ノ新法ヲ授ケタリ 三百五十七頁
○九十三、耶穌基督ハ萬民ノ爲ニ律法ヲ予ヘタリ 三百五十七頁
○九十四、耶穌基督ハ救ヲ施ス惟一ノ法ヲ予ヘタリ故ニ此法
ハ永生ヲ得ルカ爲ニ必要欠クベカラザルノ法ナリ 三百六十四頁
第二 耶穌基督ノ祭司職ノ事
○九十五、前文トノ關係、耶穌基督ノ祭司職ノ解及此職ノ眞實
ナル 三百六十八頁
○九十六、主耶穌ガ祭司職ヲ行ヒタルノ方法并ニ其謙卑ノ狀
態 三百七十頁
○九十七、耶穌基督ノ死ハ吾人ノ爲ニ贖罪ノ祭ナリ 三百七十七頁
○九十八、耶穌基督ノ死ニテ吾人ノ贖ハレタル所以ヲ詳解ス三百八十一頁
○九十九、基督ノ死ノ贖罪功ノ區域ノ廣大無邊ナル 三百八十七頁
○百、耶穌基督ノ十字架功及彼自身ニ對スルノ結果即彼ト
ノ讚榮ノ狀 三百九十四頁

第三 耶穌基督ノ王職ノ事

○百一、前文トノ關係、耶穌基督ノ王職ノ解及此職ノ眞實ナル
ヲ 三百九十八頁
○百二、耶穌基督ノ王職ハ如何ナル行爲ニ於テ顯ハレタルヤ、
基督ノ奇跡 四百一頁
○百三、耶穌基督ノ地獄ニ下リ之ニ勝チタル 四百四頁
○百四、耶穌基督ノ復活及其ノ死ニ勝チタル 四百七頁
○百五、耶穌基督ノ昇天及凡ソ彼ヲ信スル者ノ爲ニ天國ノ開
カレタル 四百九頁
後 部 神ノ成聖者并ニ審判者及報酬者タル事
第一章 神ノ成聖者タル事
○百六、前文トノ關係、成聖ノ解、至聖三者ノ諸位成聖ノ事ニ與
カリタル 四百十一頁
○百七、神ノ成聖者タル事ニ關スル教會ノ教及此教ノ區分 四百十五頁
第一節 神ノ恩寵ノ事
○百八、神ノ恩寵ノ解、其種類及本節ノ編成 四百十六頁

- 百九、此事ニ關スル教會ノ教及此教ノ區分 四百二十頁
- 百十、人ノ成聖ノ爲ニ恩寵ノ總体ニ必要ナル事 四百廿三頁
- 百十一、信ノ爲メ及信ヲ起スガ爲ニ即チ人ノ基督教ニ歸スルガ爲メ恩寵ノ必要ナルヲ 四百廿六頁
- 百十二、人ノ基督教ニ歸シタル後其徳ヲ行フガ爲ニ恩寵ノ必要ナルヲ 四百三十頁
- 百十三、人ガ畢生間信ヲ保チ「ハリストス・ア・ニ」ノ徳ヲ修ムルガ爲ニ恩寵ノ必要ナルヲ 四百卅五頁
- 百十四、此教ノ區分 四百卅八頁
- 百十五、神ノ恩寵ハ普ク萬人ニ及ビ獨リ義ト永遠ノ幸福トニ預定セラレタル者ノミニ及ブニ非ズ 四百四十頁
- 百十六、神ガ人ヲ永遠ノ幸福ニ預定シ一ヲ永遠ノ刑ニ預定セシハ必ず據ル所アリ即チ彼等ガ恩寵ヲ利用スルヤ利用セザルヤヲ預知スルニ基ツクナリ 四百四十二頁

- 百十七、神ノ恩寵ハ人ノ自由ヲ壓虐シ強迫的ニ之ニ其作用ヲ顯スニ非ズ 四百四十六頁
- 百十八、人ハ實際神ノ恩寵ガ己ノ内ニ及己ニ由テ行フ所ノ事ニ與カルナリ 四百四十九頁
- 第三 神ノ恩寵ニテ人ノ成聖セラレ、ノ主旨及之ガ必要ノ條件
 - 百十九、此教ノ區分 四百五十二頁
 - 百二十、成聖トハ人ガ實ニ神ノ恩寵ニ由テ罪ヲ清メテレ義且聖ナル者ト爲ルノ謂ナリ 四百五十四頁
 - 百廿一、信ハ人ノ成聖ノ爲メ即其救贖ノ爲ニ第一必要ノ者ナリ 四百五十七頁
 - 百廿二、人ノ成聖及ヒ救贖ノ爲ニ信ノ外更ニ善行ヲ要ス . 四百六十二頁
- 第二節 聖教會ノ事
 - 百廿三、教會ノ語ノ種々ノ意義及本編ニ於テ採用スルノ意 四百六十五頁
 - 百廿四、主耶穌基督ガ教會ヲ創立セシヲ 四百六十七頁
 - 百廿五、基督教會ノ會員此ニ屬スル者ト此ニ屬セザル者 . 四百七十一頁
 - 百廿六、教會ノ目的及此目的ヲ達スルカ爲メ之ニ予ヘラレ

- 百廿七、教會ノ組織即被牧者及神立ノ神品職並之ガ相互ノ關係 四百七十五頁
- 百廿八、教會ノ神品職ノ神立ノ三階級及其ノ互ニ相異ナル 四百七十八頁
- 百廿九、教會ノ神品職各位相互ノ關係及其ノ被牧者ニ對スルノ關係 四百八十五頁
- 百三十、教會ノ權ノ中心 四百八十九頁
- 百卅一、教會ノ首ハ主耶穌ナリ 四百九十四頁
- 百卅二、教會ノ本義及其本性質 四百九十六頁
- 百卅三、基督教會ノ外ニ救贖ナシ 四百九十九頁
- 第二節 教會ノ機密ノ事 五百十頁
- 百卅四、機密ノ解及其數 五百十三頁
- 第一 洗禮機密ノ事 五百十三頁
- 百卅五、洗禮ガ他ノ諸機密ノ間ニ在テ占ムル所ノ位置及洗禮機密ノ解 五百十四頁

- 百卅六、洗禮機密ノ神立ナル 五百十五頁
- 百卅七、洗禮機密ノ外儀 五百十七頁
- 百卅八、洗禮機密ノ冥々的ノ効用及其ノ復ヒ施行スベラザル 五百二十頁
- 百卅九、衆人ノ爲ニ洗禮ノ必要ナル 五百二十頁
- スルノ洗禮 五百廿五頁
- 百四十、何人ハ洗禮ヲ行フテ得ルガ、領洗者ニ要スル所ノ者ハ何ゾヤ 五百三十頁
- 第二 傳膏機密ノ事 五百三十頁
- 百四十一、前文トノ關係、傳膏機密ガ他ノ諸機密ノ間ニ在テ占ムル所ノ位置及傳膏機密ノ解 五百三十四頁
- 百四十二、傳膏機密ノ神立ナル 五百三十四頁
- 立ノ者タル 五百三十五頁
- 百四十三、傳膏機密ノ外儀 五百四十一頁
- 百四十四、傳膏機密ノ冥々的ノ効用及此機ノ復ヒ施行スベカラザル 五百四十六頁

- 百四十五、傳膏機密ヲ行フノ權利ハ何人ニ屬スル乎何人ニ及何レノ時之ヲ施行スベキ乎 五百四十九頁
- 第三 聖體機密ノ事
- 百四十六、前文トノ關係及聖體機密ノ解并其ノ諸機密ニ勝ル 五百五十一頁
- 百四十七、聖體機密ヲ立ルノ約束及其設立 五百五十四頁
- 百四十八、聖體機密ノ外儀 五百五十八頁
- 百四十九、聖體機密ノ見ルベカラザルノ本質(甲)耶穌基督ガ此機密ニ臨在スルノ眞實ナル 五百六十六頁
- 百五十(乙)耶穌基督ガ聖體機密ニ臨在スルノ狀及其結果 五百七十四頁
- 百五十一、何人ハ聖體機密ヲ行フヲ得ル乎、何人ハ此機密ヲ領スルヲ得ル乎、之ヲ領スルノ準備如何 五百八十二頁
- 百五十二、聖體機密ヲ領スルノ必要ナル 餅酒ノ兩形ヲ以テ領スベキ 及其結果 五百八十六頁
- 百五十三、聖體機密ノ獻祭タル事(甲)此獻祭ノ眞實ナル 五百九十二頁
- 百五十四(乙)此獻祭ガ十字架上ノ獻祭ニ對スルノ關係及

此獻祭ノ性質 五百九十六頁

第四 痛悔機密ノ事

- 百五十五、前文トノ關係及痛悔機密ノ解 六百二頁
- 百五十六、痛悔機密ノ神立ニ係ル 及此ノ機密ノ實地存在セシ 六百三頁
- 百五十七、何人ハ痛悔機密ヲ行フヲ得ルカ、何人ハ之ニ就クヲ得ルカ 六百五頁
- 百五十八、痛悔機密ニ就ク者ニ要スル所ノ者 六百六頁
- 百五十九、痛悔機密ノ外儀及其ノ冥々的ノ効用并ニ其効能ノ至大ナル 六百十頁
- 百六十、エヒテイミヤ及ヒ其起原并ニ趣意 六百十三頁
- 第五 聖傳機密ノ事
- 百六十一、前文トノ關係、聖傳機密ノ解及其稱 六百二十頁
- 百六十二、聖傳機密ノ神立ナル 及其眞ニ機密タル 并ニ其ノ教會ニ用ヒラレタル 六百廿一頁
- 百六十三、聖傳機密ハ何人ニ授ケラルベキカ及何人ハ

- 之ヲ授クルヲ得ルカ... 六百廿五頁
- 百六十四、聖傳機密ノ外儀及其ノ冥々の恩寵ノ効用... 六百廿七頁
- 百六十二、第六、婚配機密ノ事... 六百卅二頁
- 百六十五、前文トノ關係、婚配ヲ神ノ制定ニ係ルヲ及其目的并ニ婚配ガ機密タルノ解... 六百卅二頁
- 百六十六、婚配機密ノ神立ナルヲ及其真ニ機密タルヲ... 六百卅八頁
- 百六十七、婚配機密ノ外儀及其冥々の効用... 六百四十二頁
- 百六十八、何人ハ婚配機密ヲ行フヲ得ルカ、此機密ヲ領スル者ニ要スル所ノ者... 六百四十五頁
- 百六十九、機密ヲ以テ聖ニセラル、基督教ノ婚配ノ性質... 六百四十八頁
- 百七十、前文トノ關係、神品職ハ教會ニ於テ神立ニ係ル特別ノ職務タルヲ及其三階級并ニ神品ノ機密タル所以ノ解... 六百五十一頁
- 百七十一、神品機密ノ神立ナルヲ及其真ニ機密タルヲ... 六百五十二頁
- 百七十二、神品機密ノ外儀及其冥々の効用并ニ此機密ノ復心施行スベカラザルヲ... 六百五十五頁

- 百七十三、何人ハ神品機密ヲ行フヲ得ルカ、此機密ヲ領スル者ニ要スル所ノ者... 六百五十八頁
- 百七十四、前文トノ關係、神ノ審判者及報酬者タル事... 六百五十八頁
- 百七十四、前文トノ關係、神ノ審判者及報酬者タル事ニ關スル教會ノ教ノ編成... 六百六十二頁
- 百七十五、私審判ニ先ツ所ノ事件即チ人間ノ死... 六百六十五頁
- 百七十六、私審判ノ眞實ナル事... 六百六十七頁
- 百七十七、此定理ニ關スル正教會ノ教及此教ノ編成... 六百七十二頁
- 百七十八、義人ニ予ヘラル、ノ報(甲)彼等ガ天、凱旋教會ニ於テ榮ヲ受クルヲ... 六百七十三頁
- 百七十九、(乙)義人ガ地上ノ闘戰教會ニ於テ榮ヲ受クルヲ... 六百七十九頁
- 百八十、(丙)聖人ヲ尊敬シ及之ヲ顧ブヲ... 六百七十九頁
- 百八十、(丁)聖人ノ聖不朽體及其他ノ遺物ヲ尊ブヲ及聖像ノ... 六百七十九頁

尊敬 六百九十一頁

○百八十一、罪人ニ予ヘラル、ノ報(甲)彼等ガ地獄ニ於テ罰ヲ受クル事 七百 五頁

○百八十二(乙)或罪人ハ教會ノ祈禱ニ由テ地獄ノ罰ヲ宥メラレ或ハ全ク免カル、ヲ得可シ 七百 九頁

第二節 神ガ全人類ノ爲メ審判者及報酬者タル事

第一 公審判ノ事

○百八十三、前文トノ關係、公審判ノ日、此日ノ知レザルコト及其

ノ近クキタル兆候就中「アンテ、ハリスト」ノ顯現 七百 七十頁

○百八十四、公審判ノ日ニ行ハレントスルノ事件及其順序 . 七百二十二頁

○百八十五、公審判ノ前兆即チ(甲)生者及死者ノ審判者タル主ノ來臨 七百二十四頁

○百八十六(乙)死者ノ復活及生者ノ變化 七百二十七頁

○百八十七、公審判ノコト即チ公審判ノ眞實ナルコト其景情及性質 七百三十七頁

○百八十八、公審判ニ伴フ所ノ事件即チ(甲)世界ノ終 七百四十二頁

○百八十九(乙)基督ノ恩寵國ノ終リ及光榮ノ國ノ始マリ . 七百四十五頁

第二 公審判後ノ報酬ノ事

○百九十、前文トノ關係及此報酬ノ性質 七百四十八頁

○百九十一、罪人ニ予ヘラル、ノ報(甲)彼等ガ苦ヲ受ルノ狀 . 七百四十九頁

○百九十二(乙)地獄ノ苦ニ差アル事 七百五十三頁

○百九十三(丙)地獄ノ苦ノ永遠ナル事 七百五十四頁

○百九十四、義人ニ予ヘラル、ノ報(甲)彼等ガ幸福ヲ受ルノ狀 七百五十六頁

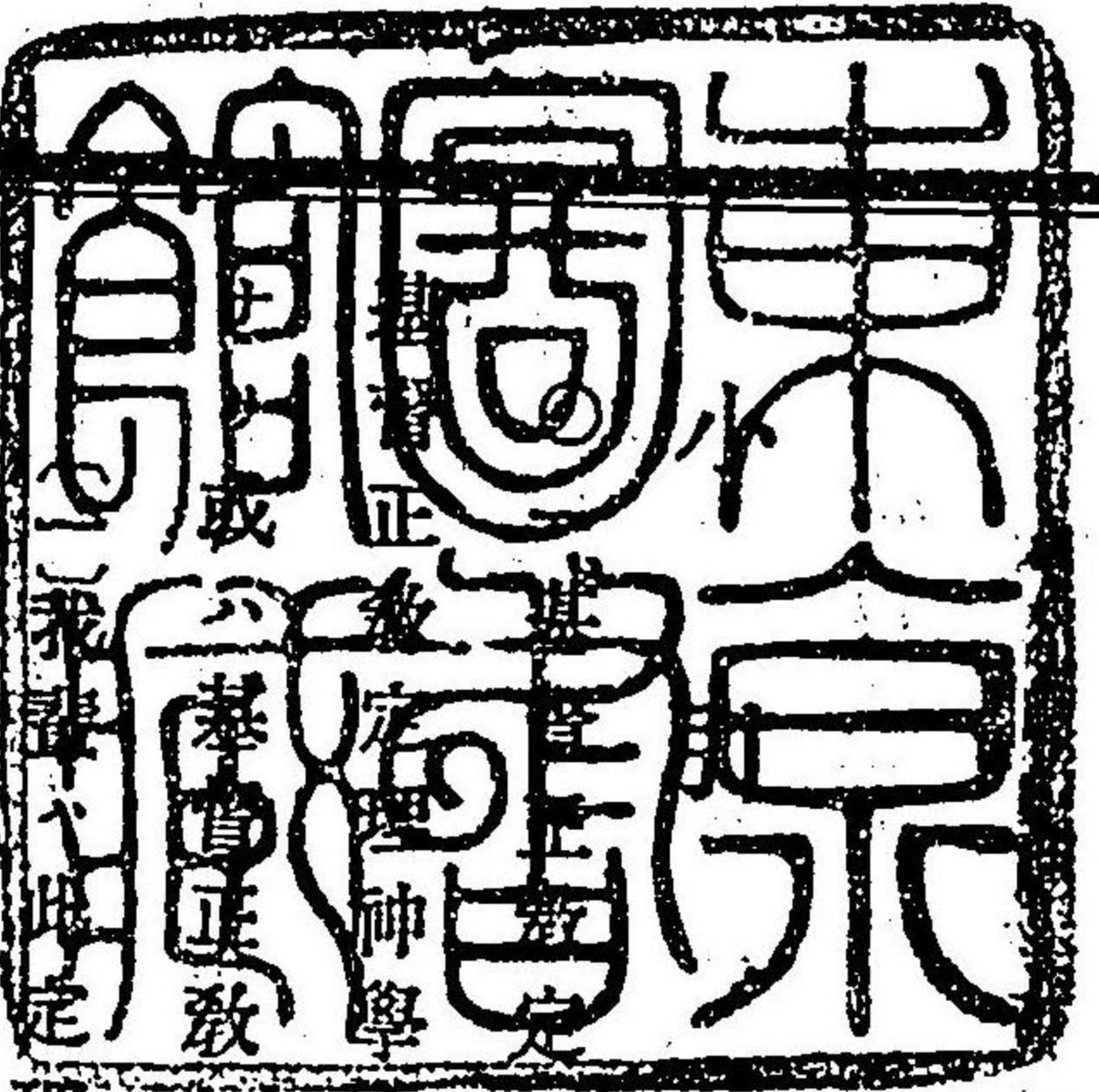
○百九十五(乙)義人ノ幸福ニ差アルコト 七百六十一頁

○百九十六(丙)義人ノ幸福ノ永遠ナルコト 七百六十二頁

基督正教定理神學

露國神學博士府主教瑪加理乙撰

日本 上田 將 譯



神學ノ解

神ノトニ關スル基督正教ノ定理ヲ述フル一科學
ニ敘述スル者ナリ

猶太教ヘブライ回々教異教等ノ定理神學ト區別ス又乙之ニ正教定理ノ語
ヲ冠シ以テ正教ニアラサルヲ基督教即チ羅馬教プロテスタント

教及ヒ其他ノ諸派ノ定理神學ト區別ス(二)基督教及ヒ啓示ノ何ヲ
ルコ正教會ヲ以テ基督教ノ守護者及ヒ講明者ト爲ス所以基督正
教神學ノ要領并ニ其區別等ハ讀者既ニ之ヲ「神學入門」ニ由テ知悉
スル者ト見做ス(三)定理トハ希臘語ニテ「ドクマ」ト云ヒ說教定説決
議ノ意アリ此語ハ基督教ニ關シテモ教及決議ノ意ヲ以テ聖書ニ
用ヰタル例ハ「基督ハ教原語「ドクマ」ヲ以テ舊約ノ諸誠ノ法ヲ廢
セリ(以弗二ノ十五)ト云フガ如キ又「イエルサリム」ニ開キタル使徒
公會ノ決議ハ原本ニ之ヲ「ドクマ」行傳十六ノ四)ト稱スルガ如シ
○二定理ガ基督教ノ諸ノ真理ノ間ニ在テ占ムル所ノ位置基督正教
定理ノ解及ヒ其本性質
第一聖書及ヒ聖傳ニ含蓄スル基督天啓教ノ真理ヲ分テ二種ト爲ス一
ハ乃チ教ノ真理ニシテ信仰ノ智ヲ以テ會得スベキ者ニハ乃チ行爲ノ真

理ニシテ意旨ヲ以テ領會シ以テ生活上ニ實施スベキ者ナリ
教ノ真理ハ亦之ヲ小分シテ二段ト爲ス一ハ乃チ神ト人トノ間ノ結合
ヲ恢復シタル基督教ノ本義ニ關スル者ニシテ神ト人トノ神ガ世界ニ對ス
ルノ關係就中其ノ人ニ對スルノ關係ヲ教ヘテ人ガ救ヲ得ンガ爲メニ
ハ何事ヲ如何ニ信スベキ乎トノヲ指定ス故ニ此真理ハ我等ニ取リ
テ教ノ唯々黙從スベキ萬世不易ノ規箴タル者ナリ又二ハ直接ニ基督
教ノ本義ニ關セサル者ニシテ或ハ舊新約教會ノ諸般ノ事蹟及ヒ人々
ノ「ト」ニ關スル史上ノ記事或ハ基督教ノ本義ニ關係セサル預言者使徒
ノ如キ諸聖人ノ私説(救主基督ノ言ニシテ尙且此類ノ者アリ例ハ約翰
一ノ四十二同四十七四ノ五十五ノ八ノ如キ)或ハ諸民諸邑ノ命運ニ關
スル預言等皆之ニ屬ス此等ノ事タル天啓ノ書ニ載スルヲ以テ全ク吾
人ノ信ヲ置クニ足ルヘキハ固ヨリ論ヲ俟タザレドモ吾人ノ救贖ノ爲

ニ必要欠クベカラザル者ト示サル、者ニアラザルナリ
 行爲ノ眞理モ亦之ヲ小分シテ二段ト爲ス一ハ乃チ神ト新クニ結合チ
 爲シタル徳義心ヲ具フルノ人間ハ當ニ何事ヲ行フベキ乎トノヲ指
 定シ眞ニ基督教ノ脩身ノ誠命タル者ニシテハ乃チ「ハリスティアニシ」ガ
 奉神禮ニ於テ如何ニ己ノ神ニ對スルノ關係ヲ顯ハスベキ乎「ハリスティ
 アニシ」ハ神ノ家ニ在テ如何ニ行フベキ乎(提前三ノ十五)トノヲ示ス
 者ニ即チ儀式律例的ノ眞理ナリ
 定理ハ此ノ如ク四段ニ區分セラル、基督教ノ眞理ノ間ニ在テ首位ヲ
 占メ其ノ第一段ニ含有ス
 第二、基督教定理トハ神ガ吾人ニ啓示シ正教會受ケテ世ニ傳ヒ基督
 教ノ本義ニ關スル教ノ眞理ニシテ神ノ「并ニ神ガ世界及ヒ人間ニ對ス
 ルノ關係ヲ教示スル者ナリ此眞理ハ吾人ノ救ノ爲ニ必要欠クベカラ

サル者ナルヲ以テ吾人ノ唯々黙從スヘキ萬世不易ノ眞理ナリ、此解ニ
 從ヘハ基督教定理ハ各左ノ如キ性質ヲ具フルヲ知ルベシ
 一、右定理ハ基督教ノ者ナルヲ以テ神ノ吾人ニ啓示シタルノ眞理ナリ
 故ニ必ス神ノ啓示ニ含ム者ナリ、教會ノ諸父ハ此意ヲ以テ基督教ノ定
 理ヲ神ノ定理或ハ基督教ノ定理或ハ福音ノ定理或ハ使徒ノ定理ト稱シ
 以テ一ハ他ノ諸宗教ノ定理概シテ非基督教ノ教理ト區別シ又一ハ基
 督教ニ屬スト雖モ神ノ啓示中ニ含マサルノ眞理即チ教會ノ奉神禮及
 ヒ規律等ニ關スル諸種ノ眞理ト區別ス 教會諸聖師父ノ引用書目ハ本書
ニ畧シテ之ヲ記セズ定理神學全
書ニ就テ
見ルヘシ
 一、右定理ハ正教ノ者ナルヲ以テ必ス眞ニ公教會ト稱スヘキ正教會ノ
 保存シテ吾人ニ傳フルノ眞理ナリ蓋信者并ニ個々ノ教會ハ各或ハ舉
 テ迷認ニ陥ルノ恐アレドモ正教會ハ恒ニ聖神ノ導キヲ得ルヲ以テ獨

六
リ誤ルコトナク天啓ノ真理ヲ議定解明スルヲ得ルナリ諸聖父ハ此意ヲ以テ基督教ノ定理ヲ教會ノ定理或ハ正教ノ定理或ハ健全ノ定理或ハ敬虔ノ定理ト稱シ以テ一ハ彼ノ基督正公會ヨリ分離セシ個々ノ教會或ハ國或ハ人々ノ格守スル不正教定理壞傷セラレタルノ定理岐教徒ノ定理ト區別シ又一ハ正教信徒ガ各直接ニ啓示ニ基キテ立ツルノ私説ト區別ス蓋此私説タルトモ全ク真理ニ合フ者タルモ教會之ヲ保存シ衆人ニ之ヲ宣傳セサルヲ以テ到底一個ノ私説タルヲ免レサルナリ
三、又右ハ定理ナルヲ以テ基督教ノ本義ニ屬シ吾人ノ救贖ノ爲ニ必要欠クヘカラサルノ真理ニシテ即チ神ノトト神ガ世界及ヒ人間ニ對スルノ關係ヲ教示スルモノナリ正教會ガ實ニ定理ニ此特殊ノ性質ヲ付シ以テ他ノ基督天啓教ノ真理ト區別スルヲ證スルモノハ第一定理ノ

略述若クハ信經ナリ蓋教會ハ之ヲ以テ吾人ノ救贖ノ爲ニ必要欠クヘカラズトスル神ノトト神ガ世界及ヒ人間ニ對スルノ關係ヲ教示スル真理ニシテ吾人ニ傳フレバナリ第二正教會ガ啓蒙書ニ於テ此信經ニ付スルノ解明ナリ
四、右ハ基督教ノ者タリ正教ノ者タリ且定理タルヲ以テ正教ヲ奉スルノ衆ハ「ハリストニアノン」ガ皆完全純潔ニ格守シ何人タリトモ之ヲ排斥シ若クハ變改スルノ權利ナキ争フヘカラサル萬世不易ノ真理ナリ何トナレバ定理也者ハ神自ラ吾人ニ啓示シ神立不可誤ノ師タル教會ノ人々ニ傳フル所ノ者ニシテ吾人ノ救贖ノ爲ニ必要欠クヘカラザルノ教ヲ含ムヲ以テナリ定理ハ此ノ如キ性質ヲ具フルヲ以テ凡ソ教會ノ定理ニ屬スル者ヲ排斥シ若クハ壞傷スル者ハ此ニ由テ自ラ正教信徒タル「ハリストニアノン」ノ社會ヲ離レ救贖ヲ得ルノ望ヲ失フナリ聖使徒曰ク

或ハ我等ニセヨ或ハ天ヨリノ使者ニセヨ我が曾テ爾等ニ傳フル所ニ
 異ナルノ福音ヲ以テ爾ニ傳フル者アラハ則チ祖ハルベシト(加拉一ノ
 八)第六全地公會ノ諸父モ使徒ニ次テ謂テ曰ク「凡ソ敬虔ノ定理ヲ恪守
 セス之ヲ承認セス此ノ如ク思惟セズ宣傳セズシテ之ニ敵セント試ム
 ル者ハ「アナフエマ」ニ付セラレ且「ハリステイア」ニ「ソ」ノ社會ヨリ親與ヲ絶マ
 レテ除逐セラレベシト(同公會規則第二條)

○三、基督正教定理ノ區別

基督正教ノ定理ハ皆其性質ヲ同フスト雖モ一ハ定理相互ノ關係ニ因
 リ一ハ吾人ノ智慧ニ對スルノ關係ニ因リテ其間ニ差別アリ
 一、定理相互ノ關係ヨリノ定理ヲ分テ一般基礎タルノ定理及ヒ個々ノ
 定理ノ二ツト爲ス(甲)一般基礎タルノ定理ハ又別ニ之ヲ信仰ノ箇條ト
 稱ス此定理ハ各己レニ他ノ數箇ノ定理ヲ含有シ若クハ之ガ基礎ト爲

ル者ナリ(乙)個々ノ定理ハ一般基礎タルノ定理ヨリ演繹セラレタル者
 若クハ之ニ基ツキ立ラレタル者ナリ(丙)全地公會ニテ議定セラレタル一
 般ノ定理ヲ合集シタル者ヲ信經トス正教宗門(上篇第五問ノ答)ニ曰ク
 「第一ノニケヤ公會ト第二ノニケヤ公會ノ信經ニヨレバ
 公正教ノ條目十二アリ我カ教ハ明ニ開列テ悉ク其中ニアリ我等チシ
 テ之ヲ信スルニ該公會諸父ノ説ク所ト毫モ違フコトナカラシムルチ
 致スサリナガラ此條目中若干ノ者ハ自ラ明白ニシ且解リ易ケレドモ
 餘ハ奧密ノ意ヲ含ム吾人ハ此ニヨリテ亦他ノ者ヲモ解サザルヘカラ
 ス」下信經ニ基キテ個々ノ定理ヲ演繹指定スルコトハ聖教會意義廣博ナ
 ル信認書(正教宗門)若クハ啓蒙書(正教訓蒙)ニ於テ之ヲ吾人ニ示ス
 二、吾人ノ智識ニ對スルノ關係ヲ以テ云ハバ(甲)或ル定理ハ智識ヲ以テ
 曉リ得可ラサル者ニシテ之ヲ信(教)ハ奧義若クハ機密ト稱ス例ハ至聖

三者ノ定理神ノ子ノ藉身ノ定理贖罪ノ定理ノ如キ是ナリ(乙)又或定理ハ多少曉リ得可キ者ナリ例ヘハ神ノ照管ノ定理ノ如ク前者ハ吾人が唯信ノミヲ以テ獨リ自然而上ノ啓示ニ由リ知り得可キ者ナレドモ後者ハ吾人が唯信ノミヲ以テ獨リ神ノ啓示ニ由リ知り得ヘキノミナラズ一ハ亦潜思熟考スルヲ以テ自然ノ啓示ヨリソ其理ヲ曉リ得可キモノナリ

○四、基督正教定理神學ノ源及ヒ摸範

第一、基督教ノ定理ハ神自ラ自然而上ノ啓示ヲ以テ悉ク之ヲ吾人ニ傳ヘタリ故ニ正教定理神學ノ惟一無二ノ源ハ神ノ啓示即チ聖書及ヒ聖傳ナリ

第二、然レモ神立不可誤ノ師タル正教會ハ人々ヲ正ク此定理ヲ了解シ以テ迷謬異端ニ陷ルヲ免カレシメンガ爲メ常ニ信者ニ教ノ摸範ヲ

ル者ヲ授ク此摸範ニ簡畧ノ書アリ又稍浩瀚ノ書アリ今正教定理神學ヲ編纂スルニ當リテモ亦之ヲ摸範トモカレハカラス

一、簡略ノ書ハ左ノ如シ

(甲)ニケヤ及ビコンノスマンテイノボリ公會ノ信經ナリ即チ第一及ビ第二ノ全地公會ニ於テ編成セラレ爾來全教會萬世不易ノ教ノ摸範トノ採用スル所ノ者ナリ

(乙)其後ノ全地公會ノ定理上ノ決議ナリ即チ第四全地公會ガ我主耶穌基督一ノニ性ヲ含ムヲ定メタルノ定理并ニ第六全地公會ガ我主耶穌基督ニニツノ意旨トニツノ作用アルヲ定メタル定理等ナリ

(丙)十地方公會ノ規則中ニ載セテ正教會ノ奉スル定理上ノ教并ニトルリノ第六全地公會ノ嘉シテ枚舉シタル諸聖父ノ規則若クハ規程書翰等ニ載スル定理上ノ教ナリ例ヘハカルフゲン公會ノ規則百廿三條乃

至百卅條ニ載スル原罪ノ事恩寵ノ効用ノ事小兒ニ領洗ノ必要ナル事等ニ關スルノ教ヲチデイヤ公會ノ規則(四十八條)ニ載スル傳膏機密ノコノ教ニツサノ聖グリゴリイガリトイヤニ送リタル規程書翰ニ載スル[エビタイミヤ]ノコノ教等ナリ

(丁)奇蹟者聖グリゴリイノ信經ナリ此信經ハ聖グリゴリイガ神ノ特示ヲ蒙リテ至聖三者ノコチ述ヘタル者ニシテ故ラニ全地公會ノ審査ヲ經サルモ正教會ノ一般ニ重ニスル所ナリ

(戊)聖大アブナシイノ信經ト稱スル者ナリ此信經ハ至聖三者ト藉身ノ奧義ノ二定理ヲ述フル者ニシテ同ク全地公會ノ審査ヲ經ザルモ正教會ノ一般ニ重ニスル所ナリ

二、正教會ガ稍意義ヲ詳カニ立論ヲ正確ニシテ定理ヲ鮮明敷演セル書ハ左ノ如シ

(甲)公使徒東教會ノ正教宗門ナリ此書ハ露國キエフノ府主教ベトルモギラノ編纂ニ係リ若クハ其降福ヲ得テ編纂シタル者ニシテ(大約千六百四十年ノ頃)後東方ノ總主教等ノ校閲ヲ經之ガ嘉ミスル所トナリテ夙ニ淳正純潔ナル宗門(認メ)ノ稱ヲ得普ク正教會ノ採用スル所ト爲レリ

(乙)正公教會總主教等ノ正教書ナリ此書ハ初メ一千六百七十二年イエルサリム公會ニ於テ朗讀シ衆員ノ嘉ミスル所トナリ後千七百廿三年東方ノ諸主教ガ正教ノ真意ヲ述ベタル者トシテ大不列顛國ノ基督信徒ニ送リ其問ニ答ヘタル者ナリ露國ニ於テハ千八百三十八年聖務會院ノ命ニ因テ之ヲ國語ニ反譯シタリ

(丙)正公東教會ノ正教訓蒙ナリ此書ハ聖務會院ノ校閲ヲ經其ノ嘉ミスル所トナリテ偏ク正教ヲ奉スル(ハリスティア)ニ誦讀セシメンガ爲ニ刊行セラレタリ

◎五、基督正教定理神學ノ科學的ノ性質及ヒ敘述法

第一、基督正教定理神學ハ科學ナルヲ以テ科學ニ欠クヘカヲサルノ條
 項ハ悉ク之ヲ具ヘサルヘカラズ而シテ其餘項ニ從ヘハ第一定理ヲ整然
 タルノ秩序ニ於テ敘述スルヲ要ス定理ヲ此ノ如クニ敘述スルヲ得可
 キ所以ハ定理ノ過半ハ人智ノ得テ悟ル可カラサル者タルモ其首眼ト
 スル所專ラ神ノノ教ノ一点ニ歸シテ互ニ密切ノ關係ヲ有スレバナ
 リ、第二成ルベク完全ニ敘述スルヲ要ス即チ凡ソ正教會ノ奉スル所ノ
 定理ハ一モ漏スコナク且汎ク之ヲ敘述スルコトナリ、第三成ルベク立論
 ナ正確ニシテ敘述スルヲ要ス即チ各定理ノ因テ基ク所ノ充分ノ根據
 ナ明示スルコトナリ定理神學ハ此科學的ノ性質ヲ以テ一ハ彼ノ多少簡
 略ニ過キ且整然タルノ結構ニヨラズシテ聖教會ノ定理ヲ敘述スル教
 ノ模範若クハ信認書等ト異ナリ又一ハ概シテ整然タル秩序ナク意義

不完全ニシテ定理ヲ述フルノ諸書ト異ナルナリ、
 第二、基督正教定理神學ノ敘述法ハ左ノ二則ニ從フ
 一、此定理神學ハ正教會ノ定理神學ナルヲ以テ首トシテ教會ノ簡略若
 クハ浩瀚ナル信認書ヨリ其ノ解カントスル定理ノ正確ナル定義ヲ舉
 示シ以テ正教會ガ其定理ヲ教フルノ如何ヲ明示セサルヘカラズ但之
 カ爲ニハ或ハ二三ノ定理ヲ一括シテ其ノ之ヲ解カントスル部若クハ
 章ノ冒頭ニ其定理ニ關スル教會ノ教ヲ舉示スルヲ以テ足レリトスル
 コアリ而シテ後編纂ノ趣ニ循テ引用セタル所ノ教理ヲ分割シ已ニ之ヲ
 分割スルニ及ンデ一々序ヲ追テ解釋ヲ下スヘシ然レバ時トノハ就
 中不可悟ノ定理ヲ敘述スルニ當リ之ヲ詳解センニハ更ニ又細カニ其
 定理ニ關スル教會ノ定義ヲ舉示スルヲ要スルコアリ
 二、已ニ各定理ニ關スル教會ノ定義ヲ舉示シタル後ハ聖書及ヒ聖傳ヨ

リノ其根據ヲ舉示セサルヘカラス、蓋教會ガ吾人ニ授クル所ノ教ハ教會自ラ作り出ス所ノ教ニ非ス其定理ハ皆是レ天啓ノ真理ニシテ一々其根據ヲ神ノ言ヨリ取レハナリ、此事ニ關シテ正教定理神學ノ要則ハルモノハ左ノ如ク(甲)一定理ヲ説明スルニ當リ聖書中其定理ニ關スルノ語句ハ一モ漏スナク必ズシモ悉ク之ヲ舉示スルヲ要セズ只其中ノ最明白ナル者ノミヲ舉示スルヲ以テ足レリトスベシ(乙)定理ヲ確カメンガ爲メ聖書ノ語ヲ引キ之ヲ解釋スルニハ凡テ正教會ノ聖書解釋法ニ依ラザルヘカラス(丙)定理ヲ確カメ或ハ之ヲ解明センガ爲メ聖傳ノ證ヲ舉示スルニハ必ズ基督敎ノ最首要ノ源タル聖書ノ證ヲ舉ケタル後ニ於テスベシ(丁)聖書ノ證ニシテ或ハ充分明白完全ナラザルモ或ハ解釋一定セズシ議論紛々タルノ場合ニハ必ズ聖傳ノ證ヲ舉ケサルヘカラス(戊)然レモ聖書ヨリ引用シタルノ語句全ク明白確然トシテ正教

徒モ又正教徒ニ非ザル者ト雖モ決メ疑問ヲ容レ或ハ牽強附會ノ解釋ヲ下スノ餘地ナキ時ニハ強テ聖傳ノ證ヲ引用スルニ及ハズ

各定理ヲ説明スルニ當リ此ノ二ツノ重ナル義務ヲ尽シテ其定理ヲ解クノ如何ト正教會ガ聖書及ヒ聖傳ニ基イテ之ヲ教フル所以ヲ示シタル後其定理ニ關シテ人智ノ公正無偏ナル判斷ヲ下スモ亦不可ナキニ非ス(羅馬十二ノ二帖前五ノ廿一)若シ定理ニ人智ノ解釋スルヲ得キ真理ナランニハ己ノ智ヲ以テ更ニ其意ヲ明白ニ説明スルヲ得ベク且自己ノ意識ノ範圍内ニ於テ更ニ其説ヲ確カムルヲ得可シ若シ又定理ノ奧妙不可思議ノ者ナラシニハ己ノ智ヲ以テ此奧義ハ全ク人智ノ悟リ得ベカラザルニモ拘ハラズ信者ニ取リテハ其意ヲ悟ルヲ得ベキ所以、此奧義ガ人智ヲ以テ悟リ得可キ基督敎ノ他ノ真理ト相密着スル所以、此奧義ヲ以テ示

ナル、所ノ意ヲ神ニ適當シ神ノ完全ニ背カズ并セテ人間ノ德義ヲ獎勵スルノ益アル所以、此奧義ガ唯悟リ得可カラザルハ一事ノミヲ以テ之ヲ斥クルノ不正ナル所以等ヲ悟ルヲ得可シ且又人智ヲ以テ悟リ得可キ定理及就中悟リ得ベカラザルノ定理ガ常ニ世ノ妄論者ノ詰難スル所ト爲ルハ能ク人ノ知ル所ナリ而シテ彼等ノ詰難ノ根據トスル所ハ概テ專ラ人智ニ基ツクヲ以テ之ヲ反駁セシニハ智識ノ助ニ由ラズンハ他ニ其方ナカレベシ但此ノ正教定理神學ニ關シテ智識ヲ用フルニ當リテハ常ニ之ヲ牽制シテ信ニ順ハシメ(哥後十ノ五)強テ智力ノ及ハサル所ノ一ヲ説明セントシ漫ニ度ルヲ高フシテ當ニ度ルニキ所ニ過クルヲカラン(羅馬十二ノ三)ヲ旨トセサル可カラズ

⑥六、基督正教定理神學ノ分割及ヒ其小區別

正教定理神學ハ一科學タルヲ以テ此學ノ目的トスル所ノ者ヲ直寫スル者ヲラサルベカラズ故ニ編纂上之ヲ分割スルニ當リテモ亦其目的トスル所ノ者ニ能ク適應セサルベカラズ抑此神學ノ目的トスル所ハ教ノ定理即基督教ノ本義本體ニ關スルノ真理ニシテ神ノ一ト神ガ世界及人間ニ對スルノ關係ヲ教フルニ在リ此教タル實ニ吾人ノ救贖ノ爲ニ必要欠ク可ラザル者ナリ然レモ基督教也者ハ神ガ人ヲ創造スルヲ以テ他ノ諸靈物ト共ニ之ヲノ與カラシメタル神ト人トノ結合ナルノミナラズ人ノ罪ニ陥リタル後恢復セラレタル結合ニシテ此結合ニハ獨リ罪ニ陥リタルノ人間ノミ與カルヲ得且實ニ基督耶穌ノ贖罪ノ功ニ因テ與カルヲ得ル者ナリ故ニ神ノ一ト神ガ世界及ヒ人間ニ對スルノ關係ヲ説述スル基督教ノ定理モ亦之ヲ二種ニ分ツ一ハ神ノ一ト神ガ世界及ヒ人間ニ對スル總體ノ (naturali, ordinatio) 關係ヲ教フル者ニシ

テ即チ神ノコト神ガ世界ノアラユル萬物ニ對シテ普通一般ニ保ツ所
 ノ關係ヲ説クモノナリ又一ハ神ヲ專ラ人間ノ救主トシテ彼ガ人類
 ニ對スル特別ノ (supranaturali, extraordinario) 關係ヲ説クモノナリ救主基督
 ガ神父ニ漸ル時述ヘタルノ言ハ恰モ右ノ如キ定理ノ區別ヲ示スモノ
 シ如シ曰ク永生ハ他ナシ爾獨一ノ眞神ト爾ノ遣ハセシ耶穌基督ヲ知
 ル是ナリト(約翰十七ノ三)言フハ吾人救贖ヲ得ントセバ第一眞神ヲ知
 ルヲ即チ基督天啓教ガ凡ソ眞神ヲ知ニ關シテ傳タル所ノコトヲ確信ス
 ルヲ必要ニシテ次ニ彼レノ遣ハセシ耶穌基督ヲ知ルコト即チ天啓教
 ガ我等ノ救主ニ關シテ彼レノ行ヒタル救贖ノ大事ニ關シテ傳タル
 所ノ眞理ヲ確信スルヲ必要ナリト去ラニアリ此ノ如キ基督教ノ定理
 ノ分割法ハ古教會ノ師父ノ最多ク採リタル所ニシテ彼等ハ第一種ノ
 定理ヲ總括シテ常ニ之ヲ神學ト稱シ第二種ノ定理ヲ總括シテ之ヲ救

贖ノ奧義若クハ定制(以弗三ノ九)ト稱セリ後世ニ至リテモ此ノ如キ分
 割ハ正教會ノ一般ニ採用スル所トナレリ第十七世紀ノ末イニエルサリ
 ムノ總主教タリシトロフン、リットプールハ其著書「公使徒東教會宗
 門」ニ記シテ曰ク「定理教ヲ單純ノ神學及ヒ救贖ニ關スルノ神學ニ分割
 スルハ正教會ノ慣例トスル所ナリ」ト右ノ故ニ因テ今亦正教定理神學
 チ二分セテ(一)神并ニ神ガ世界及人間ニ對スル總體ノ關係ノ教及(二)神
 救世主并ニ彼レノ人類ニ對スル特別ノ關係ノ教ト爲スヲ得可シ
 第二、然レモ神ガ世界及ヒ人間ニ對スル總體ノ關係ヲ按スルニ其重ナ
 ル作用ニアリ即チ一ハ神ガ萬民萬物ヲ創造セシヲ以テ世界ノ造物主
 タリ二ハ神ガ萬民萬物ヲ慮ルヲ以テ世界ノ照管者タル是ナリ又神ガ
 救世主トシテ人類ニ對スル特別ノ關係ヲ按スルニ茲ニモ其重ナル作用
 ニアリ即チ一ハ彼ガ我等罪人ヲ聖ニシ若クハ吾人ニ救贖ニ與カルノ

方法ヲ授クルヲ以テ吾人ノ成聖者タリニハ彼ハ吾人ガ此世ノ行程ヲ終ルニ及ンテ吾人ガ救贖ノ方法ヲ利用シタルノ如何ヲ糾訊シ其行ニ應シテ報ヲ與フルヲ以テ吾人ノ審判者及ヒ報酬者タル是ナリ故ニ正教定理神學ハ之ヲ二篇ニ大別シ更ニ其意ヲ明瞭ナラシメンガ爲メ亦各篇ヲ小分シテ二部ト爲ヌテ得可シ即チ左ノ如シ

前篇 神并ニ神ガ世界及ヒ人間ニ對スル總體ノ關係ノ事

前部 神ノ事

後部 神ノ造物主及ヒ照管者タル事

後篇 神救世主及ヒ彼ガ人類ニ對スル特別ノ關係ノ事

前部 神救世主ノ事

後部 神ノ成聖者審判者及ヒ報酬者タル事

前編

神并ニ神ガ世界及ヒ人間ニ對スル總體ノ關係ノ事

前部 神ノ事

○七、吾人ガ神ヲ識ルノ程度

正教會ハ信經ニ神ノ「^一」ノ教ヲ述フルニ當リ我信ズノ語ヲ以テ之ガ端ヲ開キ而シテ此語ヲ以テ天啓ノ左ノ三真理ヲ言顯ハス即チ

一、神ハ人ノ智識ヲ以テ曉リ得ベカラズ、神ハ近クテ得ザルノ光ニ居ル即チ人未タ見ザル所且見ル能ハザル者ナリ(提前六ノ十六、神ノ情ハ神ノ神ヨリ外亦能ク之ヲ知ル者ナシ(哥前二ノ十一))

二、神ハ見ルベカラズ又人ノ智識ヲ以テ曉リ得可カラザル者タルモ(甲)受造物即チ天然ノ啓示ヲ以テ人々ニ已テ現示シ給ヘリ、蓋神ノ見ル可ラザル永能ト神性トハ創世以來造ラレタル者ヲ見テ之ヲ知ルベシ(羅

馬一ノ廿且殊ヨ(乙)天然而上ノ啓示ヲ以テ己ヲ現示シ給ヘリ即チ昔預言者ニ託シ多方ヲ以テ屢列祖ニ語り季世ニ及ビ其子ニ託シテ我等ニ語り(希伯一ノ一、二)而シテ此ノ神ノ獨一子ハ肉體ニ於テ地ニ顯ハレ(提前三ノ十六)眞神ヲ識テシメシメシガ爲メ我等ニ光ト智トヲ賜ヒ(約翰一書五ノ二十)而シテ後使徒ニ遣ハスニ察セサル所ナク神ノ深情ヲモ察スル眞理ノ神ヲ以テシ(哥前二ノ十、約翰十四ノ十六乃至十八)之ニ託シテ其教ヲ傳播セシメタリ

三、然リ而シテ神ハ人々ニ己ヲ現示シ給ヘリト雖モ今我等ハ見ル可ガザル者ヲ見ルヲ僅ニ琉璃ニ由テ見ルガ如クニ見ルヲ明カナラズ今不可曉者ヲ識ルヲ未ダ全カラズ(哥前十三ノ十二)今視ルニ憑ラズ乃チ信ニ因テ歩ムノミ(哥後五ノ七)

◎八、神ノ事ニ關スル教會ノ教ノ本義及ヒ其分割

凡ソ神が己ノ事ニ關シテ啓示シ給ヘシ事ノ本義ハ正教會アツナシイテ信經ノ左ノ言ヲ以テ簡短ニ之ヲ言顯ハス曰ク『公教ハ他ナシ三者ナル惟一ノ神ト惟一ナル三者其位ノ混セス其本體ノ分レザル者ヲ尊敬スル是ナリ』ト又正教宗門ニ於テ之ヲ說示スルヲ更ニ簡短ナリ曰ク『神ハ本體惟一ニシテ個位ニ於テ三者ナリ』上篇第九問ノ答ト此ノ如ク神ノ事ニ關スル正教會ノ教ハ二ツニ分タル即チ(第一)神ノ本體惟一ナルノ教及ヒ(第二)神ノ個位三ツアルノ教是ナリ

第一章 神ノ本體惟一ナル事

○九、神ノ本體惟一ナル事ニ關スル教會ノ教及ヒ此教ノ要領

正教會ハ神ノ本體惟一ナル事ニ關シテ吾人ニ左ノ理解ヲ予フ曰ク『神ハ乃チ永遠純善全知至義全能在テサル所ナキ變易ナキ不足ナキ萬福

ノ神ナリ正教訓蒙信經第一條ノ解ト此理解ハ以テ能ク(甲)神ノ本體若クハ本性(乙)其體質ノ如何ヲ指示シ併セテ(丙)其本體ヲ惟ニナラサレ可クサルヲ示スモノナリ

○十、神ノ本體ヲ解神乃チ神ナリ

神ハ純然タルノ神靈ニシテ如何ナル物體トモ混合セサルモノナリ隨テ其性ナル全ク非物質的ニシテ毫モ他物ト混淆セサル單純ノ者ナリ此理ハ

一、聖書ニ物質若クハ物體ニ必ズ附屬スルノ性質一モ神ニ屬セズト爲スロ由テ見ユ即チ(甲)物體ハ皆悉ク場所ヲ以テ制限セラル、モ神ハ毫モ制限セラル、所ナク在ラザル所ナシ主曰ク我豈ニ天地ヲ充滿セザラシヤト(耶利廿三ノ廿四、聖詠百三十八ノ七乃至十三)乙)物體ハ皆變移スルヲ得ルモ光明ノ父ニハ變易ナク遷移ノ影モナシ(雅各一ノ十七)丙)

物體ハ皆部分ヨリ成リ立ツガ故ニ破レ及ビ朽ルヲアルモ神ハ永遠朽チザルノ王ナリ(提前一ノ十七)

二、唯專ラ神靈ニシテ附屬スルノ性質神ニ屬スト爲スニ由テ見ユ即チ(甲)自覺及ヒ個體ナリ曰ク視ヨ々々此レ即チ我也我ノ外神アルナシ(復傳卅三ノ卅九又出埃廿ノ二三參看)乙)智識ナリ曰ク深イ哉神ノ智ト識ヤ孰カ主ノ智チ知ラン(羅馬十一ノ卅三卅四)丙)自由ノ意旨ナリ曰ク主ハ凡ソ欲スル所ヲ天ニ地ニ海ニ諸淵ニ行ヒ(聖詠百卅四ノ六)並ニ凡テ己ノ志ニ循テ萬事ヲ行フ(以弗一ノ十二)丁)生命及ヒ止マザルノ動作ナリ主云ク我ハ活ケルナリ(耶利廿二ノ廿四)我永ク活ク(復傳卅二ノ四十)今ニ至ルマデ我方父之ヲ行ヒ我亦行フ(約翰五ノ十七)ト此意ヲ以テ眞神ヲ活神ト稱シ以テ之ヲ諸ノ僞神ト區別ス(帖撒前一ノ九、提前六ノ十六)

三、又神ヲ稱シテ神ト爲スニ由テ見ユ、救主曰ク神ハ乃チ神ナリ之ヲ拜スル者ハ宜シ神ヲ以テ眞ヲ以テ拜スヘシ(約翰四ノ廿乃至廿四)聖使徒亦之ヲ謂テ曰ク主ハ乃チ神ナリ而シ主ノ神在ル所ニハ則チ自由アリ(哥後三ノ十七)

○十一、神ノ體質ノ解及ヒ其分割

第一、神ノ體質ト稱スル者ハ自然神ノ本體ニ屬シテ自餘ノ諸物ト區別スル者ヲ云フ隨テ本體惟一ナル至聖三者ノ各位ニ均シク相適スルノ性質ナリ故ニ亦之ヲ神ノ一般ノ性質ト稱シ以テ彼ノ神性ノ各位個々ニ屬シテ互ニ之ガ區別ヲ爲ス個々ノ性質ト區別ス(正教宗門上篇十三問ノ答)

第二、神ハ其本體ヲ以テ云ヘバ乃チ神靈ナリ而シ凡ソ神靈ナル者コハ各其神靈的ノ性質ノ外別ニ二ツノ重ナル能力若クハ才能アリ即チ智

及上意是ナリ此レニ準シテ神ノ體質ヲ左ノ三段ニ分ツテ得

- 一、神ノ本體ノ一般ノ性質即チ神ノ神靈的ノ本體ト其二ツノ能力タル智ト意ト均ク相屬シ概シテ神ヲ神靈トシ自餘ノ諸物ト區別スル者
- 二、神ノ智ノ性質即チ唯神ノ智ニシテ屬スル者
- 三、神ノ意ノ性質即チ唯神ノ意ニシテ屬スル者

○十二、神ノ本體ノ一般ノ性質

神ガ神靈トシ自餘ノ諸物ト異ナルノ点ヲ概論セバ自餘ノ諸物ハ其存在ニヨルモ又其能力ニヨルモ皆制限セラレ、所アリ隨テ多少不完全ノ者タルモ神ハ諸般ノ事ニ關シテ無制限ナルノ神靈即チ純全タルノ神靈ナリ又之ヲ細説セバ自餘ノ諸物ハ(甲)其存在ノ始ト其生存ニ關シテ限ラレ、所アリ蓋凡ソノ物ハ初其存在チ神ヨリ受ケ恒ニ之ニ繫屬シ又互ニ相繫屬スト雖モ神ハ何者ヨリモ其存在チ受ケズ決シ何者ニ

モ繫屬セズ。自在及ヒ不羈ナリ。(乙)凡ソ物ハ其存在ノ形状ニ由テ限ラ
ル。所アリ蓋彼等必ス場所ト時トニ制限ニ服スルヲ免カレズ。隨テ
變移セサルヲ得。レテモ神ハ毫モ場所ニ拘束セラレ、トナラズ。測ル
ベカラサル者及ヒ在ラザル所ナキ者。又毫モ時ニ拘束セラレ、ト
ナラズ。即チ永遠及ヒ不易ナリ。(丙)凡ソ物ハ其能力ノ量ヲ質トシ由テ限
ラレ、所アレバ神ハ此事ニ關シテモ亦決シテ限ラレ、所ナク即チ全
能ナル能ハザル所ナキ者ナリ。是ノ如ク一般ニ神ノ本體ニ屬スル所ノ
重ナル性質外左ノ如シ。

一、無限。吾人ガ神ヲ無限ト稱スル所以ハ、管ニ彼ガ毫モ他物ニ制限セラ
レズ又毫モ欠クル所ナシトノ意ナルヲミナラズ。諸事ニ關シテ至極完全
ニシテ際限ナキヲ云フナリ。聖書ハ此ノ神ノ性質ヲ象トリテ神ヲ

(甲)完全及欠クル所ナキ者ト稱ス曰ク神ハ乃チ光ニシテ少モ暗ナシ(約翰

一書一ノ五爾當ニ純全ナル爾ガ在天ノ父ノ純全ナルカ如クスベシ(馬
太五ノ四十八)

(乙)大ナル者且無限ニ大ナル者ト稱ス曰ク主ハ大ニシテ讚ムラルベシ其
威嚴ハ測リ難シ(聖詠百四十四ノ三)吾カ主ハ大ニシテ其力ハ大ナリ其智
慧ハ測リ難シ(同上百四十六ノ五)視ヨヤ神ハ乃チ大ナリ我等神ヲ識ラ
ズ其年ノ數考フベカラズ(約百紀卅六ノ廿六)

(丙)管ニ秉權者ト稱スルノミナラズ之ヲ獨一ノ秉權者ト名ツケ(提前六
ノ十五)管ニ善者ト稱スルノミナラズ獨リ善ナル者ト名ツケ(馬可十ノ
十八)管ニ聖者ト稱スルノミナラズ獨リ聖ナル者ト名ツケ(撒母前二ノ
二)管ニ睿智者ト稱スルノミナラズ獨一睿智ノ神ト名ツケ(提前一ノ十
七)管ニ不死者ト稱スルノミナラズ獨一不死ノ者ト名ツケ(同上六ノ十
八)之ヲ以テ他ノ諸物ノ完全ハ神ノ限リナキ威嚴ニ對シテ殆ト鳥有ニ

歸スルカ如キノ意ヲ示セリ、
 (丁)光榮ナル者ト稱シ又王及ヒ光榮ヲ神ト稱ス曰ク萬軍ノ主彼ハ光榮
 ノ王ナリ(聖詠廿三ノ十)光榮ノ神ハ森ケリ主ハ多水ノ土ニアリ同上廿
 八ノ三神ノ威嚴及ヒ光榮ト云フハ他ニアラズ神ノ完全其者若クハ其
 完全ヨリノ必ス生スルノ結果及ヒ其表顯ナリ
 (戊)満足ノ者及ヒ幸福ノ者ト稱シ(提前一ノ十一、同六ノ十五)何事ニ於テ
 モ需ツ所アラザル者ニシテ(行傳十七ノ廿五)常ニ其顔ノ前ニ喜チ有シ其
 右ノ手ニ樂チ有スル者ト爲ス(聖詠十五ノ十二)而シテ神ガ此ノ如ク充滿
 上幸福トチ具有スルチ以テ見レバ亦必ス完全欠クル所ナキ者ト爲サ
 ザルベカラズ彼ハ乃チ之チ感覺スルニ由テノ満足ノ者及ヒ幸福ノ
 者タルチ得可シ
 一 神ノ無限若クハ完全トシテ我輩ノ前ニ述ベタル如ク神ノ二性質チ

指シテ云フニ非ズ乃チ神ノ總體ノ性質ナリ、イエルサリムノ聖キ
 リール曰ク「神ハ萬事ニ於テ完全ナリ、
 一、即チ知識ニ於テ完全
 二、即チ能力ニ於テ完全ナリ
 三、即チ威嚴ニ於テ完全ナリ
 四、即チ預知ニ於テ完全ナリ
 五、即チ仁愛ニ於テ完全ナリ
 六、即チ公義ニ於テ完全ナリ
 七、即チ慈憐ニ於テ完全ナリ」
 一、即チ諸フコレヨリ轉シテ神ノ本體ノ個々ノ性質ニ輪及セン乃チ左
 ノ如シ
 一、自在。神チ自在ノ者ト稱スルハ神ハ其存在チ他物ヨリ受ケズ乃チ其
 存在并ニ凡チ其ノ有スル所ノモノハ悉ク己ニ由テ之チ有スルガ故チ
 一、聖書ハ明ニ神ノ自在ノチ教示シテ
 (甲)神ノ先ニ神ガ因テ以テ己ノ存在チ受クベキ他神アラズ何者モ彼ニ
 一物チモ予ヘザリント爲ス曰ク爾知テ我チ信シ且明ニ是レ即チ我チ
 一、知ルベシ我ノ先ニ神アルナク我ノ後モ亦有ラザラン(以賽四十三

ソ十孰カ先ツ彼ニ施シ彼之ニ報テル致セシヤ(同上四廿四)
 (乙)神ハ原始ノ者ニシテアヅラ即チ萬物ノ原ヲ爲シ爲シ曰ク我乃チ原
 始者我ハ乃チ末後者我々外ニ神ニ以テ賽四十四六我乃チ原
 神ニシテ未ニ於テ亦然同止四十五四又四十八ノ十二參看主曰ク我
 ナ乃チアヅラ及チアヅラ始及ヒ終ナリ今在リ昔在リ能ハサル所ナキ者
 ナリ(黙示一八)其ノ神ニ對テ曰ク我乃チ原
 (丙)神ハ已レニ生命ヲ有テ且自ラ生命ノ源ナリト爲ス曰ク父已ニ在テ
 生ヲ有シガ如ク其子特賜フ亦是如ク已ニ在テ生ヲ有シ(約翰五
 ノ廿六)人子(爾方家)飲ニ飲ニ爾ハ爾ノ甘味ノ流ヨリ彼等ニ飲
 シム蓋生命ノ源爾等ニ在リ(聖詠卅五九)我乃チ原
 (丁)神ヲ稱シテ在リ者古リト爲スモイセイ神ニ對テ曰ク我乃チ原我乃チ原
 ライリノ嗣ニ詣リ之ニ謂テ云ハシ爾等ガ先祖ノ神我乃チ原ハシテ爾

諸ヲ我ニト彼レ我ニ問テ曰ハシ其名ハ伊レ何グト我將ニ何ヲ以テ之
 (三)告ケシ神ニイセシ謂テ曰ク我ハ在ル者ナリト又曰ク爾等ニ
 明ソ嗣ニ告テ此以如ク云ラセシ在ル者我々爾ニ遣ハスト(出埃三ノ十
 三及十四)我乃チ原
 三。不羈。神ハ不羈トシテ神ガ本體能力並ニ動作共ニ自ラ理メテ決メ他ノ
 率制ヲ蒙ラズ自ラ充滿ナル者自治者有權者其性質ヲ指シテ云フ
 ナリ聖書ニ載然神ハ不羈ヲ象リテ左ノ真理ヲ示ス
 (甲)神ハ毫モ他ニ需シ所ナク却テ自カラ衆人ニ萬物ヲ賜フ彼レ手造
 殿ニ居ラズ需シ所有ル者ノ如ク人手ノ事ナラズ所トナラズ自カラ生命
 呼吸ヲ萬物トシテ衆ニ予シ(行傳十七廿四廿五)
 (乙)他レ者ハ神ノ存在ト其完全ニ關シ並ニ其動作ニ關シテ何者ナリ神
 ニ手フル能ハズ誰カ主ノ心ヲ知リ誰カ其議士ト爲リテ之ニ教テ乎

彼誰ト共ニ相議スルヤ誰カ之ニ誨フルヤ或ハ誰カ之ニ教ルニ義翰シ
 徑ヲ以テシ或ハ之ニ示スニ明哲ノ道ヲ以テスルヤ(以賽四十ノ十三、十
 四)或ハ孰カ會テ先ツ彼ニ施シ而シテ彼之ニ報スルヲ致スヤ蓋萬物彼ニ
 本ツキ彼ニ由リ彼ニ終ル(羅馬十一ノ卅五、卅六)
 (丙)神ハ全權ヲ以テ萬物ヲ統御スルノ主宰タリ故ニ何人タリトモ何者
 タリトモ決シテ彼ヲ強制スル能ハズ、世界ト之ニ滿ル者ハ皆我ニ屬ス(聖
 詠四十九ノ十二)主ヤ主ヤ王、全能者ヤ凡ソノ物皆爾ノ權ニアリ爾ニズ
 ライリテ救ハント欲スルキ爾ニ逆フ者ナシ爾ハ天地及ヒ天下ノ諸ノ
 奇異ナル者ヲ造レリ爾ハ萬物ノ主ナリ誰モ爾、主ニ逆フ者ナシ(以西帖
 四ノ十七)蓋悉ク爾ニ務ム(聖詠百十八ノ九十一)
 (丁)神ハ實ニ毫モ他ノ牽制ヲ蒙ルコトナク純ラ己ノ意ニ循テ万事ヲ行
 フ(以弗一ノ十一)

四測ルベカラサルコト及ヒ在ラサル所ナキヲ神ヲ稱シテ測ルヘカラザ
 ル者ト爲スル神ハ固ヨリ純然タルノ神靈ニシテ且何事ニ關シテモ無
 限ノ者タルガ故ニ亦決シテ場所ヲ以テ制限セラル、所ナク自ラ已ヲ以
 テ萬物ヲ滿タストノ意ナリ又神ヲ稱シテ在ラサル所ナシトスルハ神
 ハ自ラ已ヲ以テ萬物ヲ滿タセツ、自カラ所トシテ在ラザルナク物トシ
 充テサルナシトノ意ナリ、神ノ在ラサル所ナキヲ信スルノ信ト此事
 ニ關スルノ教ハ古ヨリ神ノ啓示ニ於テ歷代存セリ即チ
 (甲)列祖ノ世ニ存セリ、列祖ノ世ニ於テ此信ノ存セシハメヤコフトリ
 ワシガ約ヲ立ツル時ノ言ニ見ユ曰ク我等ノ間ニ人無シ惟視ヨ神ハ我
 ト爾トノ間ノ證者ナリ(創世三十一ノ四十四、同五十節)又イサシフガベ
 シテフレイノ妻ニ對スルノ答ニ見ユ曰ク我豈ニ敢テ此大惡ヲ作シテ
 罪ヲ神ニ獲ンヤ(同上卅九ノ九)

(乙)律法ノ世ニ存セリ、律法ノ世ニ於テ神ノ在ラザル所ナキヲ証スルノ明カナル教ハ主ノ自ラ述ワル所ニ見ユ曰ク天ハ乃チ我ノ座位、地ハ乃チ我ノ足凳ナリ爾等我方爲ニ建ツル所以室安^ニ在ル乎我ノ安所ハ安シ^シ在ル乎以賽六十六(一)人能ク隱所^ニ匿レテ我豈^レ之ヲ見ヤラシヤ我豈^レ天地ヲ充滿セザラシヤ(耶利廿三ノ廿四)又神ノ在ラザル所ナキヲ信セシヨハダ(ワ)ダ^ニ神ニ向テ述フルノ言ニ見ユ曰ク我安クニ往テ爾ノ神ヲ避ク^ルルヤ安クニ走リテ爾ノ顔ヲ逃ガ^ルルヤ天ニ升テ^テ爾彼處ニアリ^テ地獄ニ降ラ^ンカ彼處ニ至^ル爾ア^リ曉^キヲ翼^キヲ取テ海^ニ極ニ移ラ^ズカ彼處ニ至^ル爾ノ手我ヲ導キ爾^ノ右^ノ手我ヲ援ケ^{ント}(聖詠百卅八ノ十)又(ヨハネ)ノ祈禱ニ見ユ曰ク天ト諸天^ト天ハ尙爾^ノ容^ニ足^ラズ况ヤ我ガ爾ノ名ニ建ツル所^ニ此殿^ニ汝^ノ列王土八ノ廿七

(丙)基督教ノ世ニ存セリ、神ノ在ラザル所ナキ^ノ大意ハ救主ガサ^レリヤ

ノ婦ニ眞神ニ對スルノ禮拜ハ一定ノ場所ニ限ラ^レ可キ者ニ非ズ乃チ所トシ行ハ^レザルナ^リト告ケタルノ言ニ見ユ(約翰四ノ廿六廿七廿三)使徒^ノ言^ニ於^テ益明カナ^リ曰ク神ハ悉ク^ノ人類ヲ造リ[、]其^ノ主^ヲ尋テ庶ク^ハ播摩^レテ之^ヲ得セ^シメント欲ス然レ^モ主ハ我等各人^ヲ離^ル、遠カラズ^ニ行傳十七ノ廿六廿七)又曰ク萬有^ノ神^ニ父^ニル者一彼^レ萬有^ノ上^ニニア^リ萬有^ノ貫キ^テ我等衆人^ノ中^ニ在^リ(以弗四ノ六)

教會ノ聖師父^ノ諸種^ノ迷謬^ヲ未萌^ニ防^ルカ^ニ爲^メ或^ハ之^ヲ排斥セ^シガ爲^メ神ノ在ラザル所ナキ^ノ方法ヲ說明セ^シ勉^メテ^シ今其言^ヲ所^ニ見^ルニ曰ク神^ハ在^ラザ^ル所^ナク自^ラ万物^ヲ滿^スス^ルニ(甲)空氣若ク^ハ光^ノ如ク其本質^ヲ彌^ル蔓^キヲ以^テス^ルニ非^ズ何^レ神^ハ性^{タル}非物質^的ニシテ全^ク神靈^的ナレバナ^リ曰ク(乙)神^ハ

只其全知及ヒ全能ノ作用ノミヲ以テ在ラサル所ナシトスルコト非
 ズ乃チ其本體ヲ以テ在ラサル所ナキナリ曰ク(丙)神ハ或ル場所ヲ
 以テ限ツレ或ハ之ニ包括セラズ之ニ反シテ彼ハ万物ノ内ニ在
 リ又万物ノ外ニアリ故ニ彼ハ自ラ万物ヲ包括ス但神ハ之ヲ包括
 スト雖モ自ラ世界及ヒ之ニ居ル者ノ場所ト爲ルコト非ス古時ノ教
 會ノ牧師等ハ此ノ如ク神ノ在ラサル所ナキ所以ノ理ヲ説明スル
 ニ當リテ亦常ニ神ノ此性質ハ曉リ得可ラサルモノナリトセリ
 五、永遠。神ヲ永遠ナリト云フハ彼レノ存在ニ始ナク亦終ナク凡テ時ニ
 束縛セラレ、コトナシトノ意ナリ聖書ヲ見ルニ
 (甲)神自ラ屢レレニ此性質アルヲ明言ス曰ク我永ク生ク(復傳卅二ノ四
 十)我ハ乃チ原始ノ者我ハ乃チ末後ノ者(以賽四十八ノ十二、又同上四十
 一ノ四、四十四ノ六參看)我ハ乃チアルファ及ヒオメガ始及終ナリ(黙示一

八及十七)我ハ先ニ神アルナク我ノ後モ亦有ラザラン(以賽四十三
 十)我ハ乃チ在ル者ナリ(出埃三ノ十四)
 (乙)預言者神ニ此性質アリト爲ス例ハマダワイド曰ク主ヤ爾初ニ地ヲ基
 ヅケ天主爾ガ手ヲ造リシ所ナリ彼等ハ亡ビシ唯爾ハ永ク存セシ彼等
 ハ皆衣ガ如ク古ビ爾衣服ノ如ク之ヲ更ラレシ彼等ハ易ラントス唯爾
 ハ易ラズ爾ノ年ハ終ラザラン(聖詠百一ノ廿六廿七廿八)山未ダ生ゼズ
 爾未ダ地ト全世界ヲ造ラザルノ先キ且世ヨリ世マデモ爾ハ神ナリ(同
 上八十九ノ三)爾ガ目ノ前ニ千年ハ過ギシ昨日ノ如ク(同上五節)
 (丙)新約ノ記者モ神ニ此性質アリト爲ス例之聖パウロハ神ヲ永遠朽チ
 サルヲ(提前一ノ十七)獨一不死ノ者(同上六ノ十六)ト稱シ使徒ペト
 ルハ聖詠者ガ神ノ爲メニ「ハ千年モ猶一日」ト云フト云フノ言ヲ復シ
 テ主ガ前ニ「一日モ猶千年」トゴトシトノ言ヲ加ヘタリ(彼後三ノ八)

教會ノ聖師父ハ吾人が如何ニ神ノ永遠ヲ了解スベキ乎ヲ説明ス
 コノ永遠トハ人ノ常ニ憶想スルガ如ク彼ノ連綿繼續スル無數ノ
 部分ヨリノ成立ツ所ノ時間即チ必ス過去現在未來ヨリ成立ツ無
 始無終ノ時ノ謂ニ非ス乃チ恒常不易ニ存在スル一ノ現在ノ時ナ
 リ神學者聖グロリイ曰ク『神ハ常ニ在リ今在リ後在ラズ或ハ寧
 常ニ在リト云フヲ善シトス蓋昔在リ後在リトノ言ハ吾人ノ時
 ノ區別ヲ示ス者ニシテ過キ去ルモノニ適當スト雖在リト云フ
 ノ語ハ常ニノ意ヲ含メバナリ神ハ山ニ在ラズモイセイト語ル時自
 ラ此語ヲ以テ已ラ名ケタリ(出埃三ノ十四)何トナレバ彼ハ已レニ
 始ナク且止マサル純全ノ存在チ有スレバナリ』
 六。不易。神ノ不易トハ神ガ已ノ本體ハ已ノ能力完全及ヒ其定斷動作ニ
 於テ常ニ不變不易ナルノ性質ヲ云フ、聖書ハ神ノ此性質ヲ象ドルニ當

リテ辨

(甲)神ニハ凡テ人ニ見ルガ如キ變易ナシトス、曰ク神ハ人ノ如ク謊ラズ
 人ノ子トシテ如ク易ラズ(民數廿三ノ十九)人ノ心ニハ多ク謀アリ惟主ノ旨
 ハ永ク立ツ(箴言十九ノ廿一)

(乙)凡テ外物ニ見ルガ如キ變易モ亦コレナシトス、曰ク主ヤ爾初ニ地ヲ
 基ツテ天モ爾ガ手ノ造リシ所ナリ彼等ハ亡ビシ唯爾ハ永ク存セシ彼
 等ハ皆衣ノ如ク古ビ爾衣服ノ如ク之ヲ更フレバ彼等ハ易ラントス唯
 爾ハ易ラズ爾ノ年ハ終ラザラン(聖詠百一ノ廿六廿七廿八)天地ハ廢セ
 シ惟我言ハ廢セズ(馬可十三ノ卅一)

(丙)神ニハ遷移ノ影ダモナシトス、曰ク凡シ善賜全錫ハ皆上ヨリノ光明
 ノ父ヨリ降ル彼レ變易ナシ遷移ノ影モナシ(雅各一ノ十七)

(丁)遂ニ神自ラ我ハ爾ノ主神ナリ我變易セスト云フト爲ス(馬拉基三ノ

六、教會ノ諸聖師父ハ神ガ諸事ニ關シテ全ク不變不易ナリト論定シ、彼レノ意旨及ヒ定斷ガ自由ヲ有スルノ受造物ニ對シテ不變不易ナル所以ヲ説明スルニ當リ聖書ニ基ツキ神ノ意旨ヲ二様ニ分テ甲乙或ハ前後ノ二ツニ區別シ或ハ後世ニ唱ヒタル如ク之ヲ絕對相對ノ二ツニ區別セリ、其一ハ神ガ人ノ事ヲ行フヲ俟タスル事ヲ何事ヲカ行ハント欲スルノ意旨ヲ云フ者ニシテ例ヘバ萬人ノ救ヲ得テ真理ヲ識ルニ至ラシコチ欲スル(提前二ノ四)ガ如キ是ナリ而シテ其二ハ自由ヲ有スルノ受造物ニ何等カノ義務ヲ負ハシメ入レ之ニ對シテ何事ヲカ行ハント欲スルノ意旨ニ例ヘバ人々ニ已テ獨一子ヲ遣ハシ凡ソ之ヲ信スル者ヲメ沈淪ヲ免カレテ永生ヲ得セシメントスル(約翰三ノ十六馬可十六ノ十六)ガ如キ是ナリ此

ノ如ク神ノ意旨ハ自由ヲ有スルノ受造物ニ對シテモ一般ニ他諸物ニ對スルガ如ク亦不變不易ニシテ受造物ノ意旨ハ決シテ神ノ意旨ト其定斷ニ強制セラレサルナリ

七、全能神ヲ稱シテ全能者ト爲スハ神ガ萬物ヲ生シ万物万民ヲ統御スル無限ノ大能力ヲ掌握スルノ意ナリ故ニ或ハ神ヲ無所不能者ト稱シ或ハ乘權者ト稱シ或ハ全能者ト稱ス、聖書ニヨリ神ノ性質ヲ象ルル所甚多ク勝テ數フベカラズ今其證ヲ示サシニ聖書ハ

(甲)一般ニ神ノ全能ナルコチ證ス曰ク我爾ガ能ク万事ヲ成シ凡ソ能ハザル所ナキヲ知ル(約百紀四十二ノ二)阿爸父ヨ爾ハ能ハザル所ナシ(馬可十四ノ卅六)神ニ在テハ能ハザル所ナシ(馬太十九ノ廿六)凡ソ神ノ言一モ行ハレザルナシ(路加一ノ卅七)又細カニ云ヘバ神ノ全能ヲ

(乙)受造物ニ於テ示ス、神曰ク光アルベシト則チ光アリ(創世一ノ二)彼言

(三) 即チ成リ命スレバ即チ造ラレタリ(聖詠卅二ノ九)又同上百四十八ノ五參看我等ノ神ハ天ニ在リ地ニ在リ凡ソ欲スル所チ行フ同上百十三ノ三又同上百卅四ノ六參看)

(丙) 受造物チ照管シ並ニ之ヲ統御スルヨリ於テ示ス、曰ク彼等ハ皆爾ヨリ時ニ隨テ食物チ與フルチ待ツ彼等ニ與フレバ受テ爾ノ手チ開テハ賜ニ饜ガサレ爾ノ顔チ隱シセバ懼レ彼等ノ氣チ取上レバ死シテ塵ニ歸ル爾ノ氣ヲ施セテ造ラレ爾ハ又地ノ面ヲ新ニス(聖詠百三ノ廿七乃至三卅)主ヤ大能下榮ト勝ト威ト俱ニ爾ニ屬ス凡ソ天ニ在リ地ニ在リ者皆爾ニ屬ス爾ハ万有ノ主タリ(歷代上廿九ノ十二)下更ニ又細ガニ神ノ全能ヲ證スルニ

(丁) 奇跡チ行フチ以テズ曰ク何ノ神ガ我ガ神ノ如ク大ナラソ爾ハ奇跡ヲ行フハ神ナリ(聖詠七十六ノ十四十五)主神チズイリノ神獨リ奇跡

チ行フ者ハ讚揚セラル(同上七十一ノ十八)

(戊) 基督教ト教會ヲ擴張シ並ニ之ヲ守ルチ以テズ曰ク我將ニ我カ會チ建テントス而ノ地獄ノ門之ニ勝ツ能ハズ(馬太十六ノ十八)神ハ世ノ愚者チ選テ以テ智者チ愧カシメ神又世ノ弱者ヲ選ンテ以テ强者チ愧カシメ神又世ノ賤シキ者藐視セラル、者及ヒ無キ者チ選ンテ夫ノ有ル者チ敗ラントス(哥前一ノ廿七廿八)彼必ズ王ト爲リ諸敵チ其足下ニ置クニ迫ル(同上十五ノ廿五)

○十三、神ノ智ノ性質

神ノ智ハ二面ヨリ之ヲ觀察スルチ得可シ即チ一ニハ神ノ智其者チ觀察シニハ神ノ作用ニ對シテ之ヲ觀察スルナリ、甲ノ点ヨリ觀察スルキハ此智ノ一性質即チ全知ノ理解チ得可シ乙ノ点ヨリ觀察スルキハ他ノ性質即チ高尚ナル睿智ノ理解チ得可シ

(一)全知吾人ハ神ヲ認メテ全知ノ者ト爲シテ、實ニ彼ガ知ラザル所ナ
 シ下ノ意ヲ表シテ、(約百紀廿六)亦併セテ彼ガ萬事ヲ完全ニ知ルノ意ヲ
 示ス五ノ聖書ハ明カニ之ヲ證シテ、(約百紀廿六)亦併セテ彼ガ萬事ヲ完全ニ知ルノ意ヲ
 (二)神ハ萬事ヲ完全ニ知ルヲ爲ス、曰ク神ハ乃チ我が心ヨリ大ニシテ知
 ラル所ナシ(約翰一書三ノ廿)主ハ乃チ睿智ノ神ナリ(撒母前二ノ三)其
 智慧遠測難シ(聖詠百四十六ノ五)皆其目前ニ裸ニノ顯露ス(希伯四ノ
 廿三)主ハ爾ハ知者ナラズ(約百紀廿六)爾ハ凡ソハ知識ヲ有ス(以士帖四
 ノ十七)又之ヲ細カニシテ、(聖書ハ)、(約百紀廿六)亦併セテ彼ガ萬事ヲ完全ニ知ルノ意ヲ
 (三)神ハ己知ルヲ爲ス、曰ク父ハ外子ヲ識ル者ナシ子ハ外父ヲ識ル者
 ナシ(馬太十ノ廿七)人ノ情ハ凡ソ神ヨリ外誰ガ能ク之ヲ知ラシ是ハ
 如キ神ハ情ヲ神ヲ識ル外亦能ク之ヲ知ル者ナシ(哥前二ノ十一)
 (四)神ハ凡ソ有るを得可キ者ヲ知ルヲ爲ス、曰ク神ハ無キ稱シテ有ト爲ス

(羅馬四ノ廿七)萬物ヲ其存在ヲ受ルニ先ツテ知ル(但以十三ノ十二)
 (一)神ハ凡ソ實地ニ存在スル所ノ者ヲ知ルヲ爲ス、曰ク蓋彼レ地ノ極ヲ
 鑿ニ遍シ天下ヲ觀ル(約百紀廿八ノ廿四)物ヲ其前ニ昭著ナラザルナ
 シ(希伯四ノ十三)彼ハ(一)物體界ノ萬事ヲ知ル蓋彼レ星ノ數ヲ數ヘ悉ク
 其名ヲ以テ之ヲ呼ビ(聖詠百四十六ノ四)山ノ悉クヲ禽ヲ知リ(同上四十
 九)以テ其目ハ全地ヲ洞觀ス(歷王下十六ノ九)陰府ハ其前ニ暴露シ敗
 壞ノ所徹ニ無シ(約百紀廿六ノ六)彼又道德界ノ萬事ヲ知ル、人ノ途
 乃チ主ノ目ノ前ニ在リ(彼ハ其ノ凡ソ行フ所ノ者ヲ理ス)(箴五ノ廿一)蓋
 其目ハ各人ノ途ニ注キ彼レ人ノ諸ノ步履ヲ鑒ミ惡ヲ行フ者匿クル可
 去所ナシ(約百紀卅四ノ廿一)主ノ目ハ遍處ニ在テ善惡ヲ鑒ミ(箴言
 十五ノ三)主ハ諸心ヲ鑒察シ凡ソ人念ノ圖維スル所ノ者ヲ知ル(歷代上
 廿八ノ九)惟爾人ノ圖々心ヲ知ル(同下六ノ三十)

(成神ハ凡シ過去ノ事ヲ知ルル爲メ、曰ク神ハ永世ヨリ其ノ凡テ行フ所
 ヲ者ヲ知ル行傳十五ノ十八故ニ後必ス主ノ義ニ由テ世ヲ審判シテ同
 上十七ノ卅ニ幽暗ノ隱情ヲ光照シ且諸心ニ計謀ヲ顯カシ(哥前四ノ五
 各人ニ其行フ所ニ循テ報スル(羅馬二ノ六)ノ時至ラントス
 (二)神ハ凡シ現在ノ事ヲ知ルル爲メ、曰ク陰府沈淪ハ皆主ノ前ニ在リ何
 以況神ハ嗣心ヲ箴言十五ノ十二彼レ地ノ極ヲ鑿ミ徧シ天下ヲ觀
 火(約百紀卅八ノ廿四)
 (庚)神ハ凡シ未來ノ事ヲ知ルル爲メ、曰ク我ハ乃チ神他有ルナシ我始メ
 曰ク神示スル終メ以テ終古時曰ク神示スル未ダ成ラザル事ヲ以テ
 終(以賽四十六ノ九)詳ニ云ケル即此也將來必ス起ル事ヲ以テ
 (イ)神偶然生起ル事ヲ知ルル爲メ、曰ク我味ク腹中ニ爾ヲ造ラサル
 以洗滌我爾ヲ識レ(耶利一ノ五)主ヤ爾遠シヨリ我ヲ念慮ヲ知ル

(我往時我意フ爾我環ル我カ悉ク道ヲ爾之ヲ知レリ(聖詠百卅八ノ
 五三)口故アリテ生起スヘキ將來ノ事件ヲ知ルト爲ス即チ茲ニ故アレ
 ヲ其事之ニ伴フ事起ルカカリシモ其故ノ行ハレサルニ由テ起テサリ
 此事件大ニ曰ク禍ナレ哉ホラシヤ禍ナル哉ワラサオダテ蓋爾ノ中
 幸在者施セ以所以異能若シテ爾ルニシテニ施サハ後早ク麻ヲ衣灰ヲ
 蒙テ悔改セヨナラシ(馬太十二ノ廿一)
 (三)至高ノ睿智ノ神ノ至高ノ睿智トハ神ガ最善ノ目的ヲ最良ノ方法ヲ明
 知シ併セテ方法ヲ目的ニ適應スルノ妙術ヲ有スルヲ謂ナリ故ニ神ノ
 睿智トハ神ノ全知ト神ノ作用ニ對シテ觀察シタル者ト爲シ或ハ神ノ
 智識ト其作用上ヨリ觀察シタル者トズルモ可ナリ聖書ハ明ニ神ニ此
 性質ヲ下爲ス即チ
 (甲)一般ニ神ヲ稱シテ智慧權能謀略明哲ヲ有スルノ睿智者ト爲シ(約百

相十二ノ十三獨一睿智ノ者ト爲シ(羅馬十四ノ廿六提前一ノ十七猶大
 廿五及ヒ万人ノ爲ニ智慧ノ源タリト爲ス曰ク若シ爾ノ中智足ラザル
 者アヲ其當ニ夫ノ譏ラズメ厚ク衆ニ賜マノ神ニ求ムベシ則チ必ス賜
 谷テト(雅各一ノ五細カニ之ヲ云ヒバ) 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ
 (一)舊約ノ聖記者等ハ特ニ世界ヲ以テ神ノ睿智ヲ反射スルノ鏡ト爲ス
 ヲ呼ボテ曰ク主ニ爾ノ工業ハ何ゾ多キヤ皆智慧ヲ以テ造ル(聖
 詠百三ノ廿四)ズラド(一)睿智エル子ハ箴言ニ於テ亦此意ヲ述ベテ曰ク
 主ハ智慧キ以テ地ヲ基ツケ聰明ヲ以テ天ヲ建テリ(箴言三ノ十九)ハニ
 レテハ預言ノ書ニ載スル所ヲ見ルニ曰ク主ハ巳ノ能ク以テ地ヲ造
 ルバノ智ヲ以テ世界ヲ建立セ巳ノ明哲ヲ以テ天ヲ舒ベタリ(耶利十ノ
 十三) 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ
 (丙)新約聖書ニ救贖ヲ定制ヲ以テ特ニ神ノ大ナル睿智ヲ業ト爲ス聖

使徒ヨハニスルニコリナテ人ニ達スル書ニ謂テ曰ク我等十字架ニ釘セ
 夫レニ對シテ基督ヲ傳テイウテヤ人ニ其礎ヲ爲スルハ人ハ視テ愚
 ト爲ス然レモ召サレタル者ニ於テハイウテヤ人モエルリ人モ神ノ
 能ク爲シ神ノ智トナス(哥前一ノ廿三廿四)我等奧妙秘密ナル神ノ智ヲ
 言フ即チ神ガ諸世ノ先ニ我等ヲ榮テ得セシメシカ爲ニ預定セシ所
 以者ナリ(同上三ノ七)又他書ニ於テ此ノ神ノ定制ヲ計圖ノ奧妙不可思
 儀ナルコトヲ論シテ後呼ソテ曰ク深哉神ノ富ト智ト識ヲ測ルカカラ
 哉哉其審判ヤ索ムヘカラザル哉其踪跡ヤ(羅馬十一ノ卅三) 賜テハ 賜テハ
 ○十四神ノ旨ノ性質 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ 賜テハ
 神ノ旨ハ神ノ旨其者ト受造物ニ對スル關係ノ二点ヨリノ觀察スルヲ
 得可シ甲ノ点ヨリ觀察スルニ神ノ旨ハ(甲)其本性ヲ以テスレバ無限ニ
 自由ナル者ニシテ(乙)其自由ノ作用ヲ以テスレバ至テ聖ナル者ナリ又乙

力点ヨリニ觀察スルニ(甲)先ツ至仁ナリ何トナレハ仁慈ハ凡ソ天下ノ
 智識ヲ存スルト有セザルノ受造物ニ對スル神ノ諸ノ作用ノ首領ナル
 原因ニ對シテ(乙)亦ニ細カニ之ヲ云ヘテ神ノ旨ヲ智識ヲ具スルノ受
 造物ニ對シテ眞正確實ナリ何トナレハ神ノ旨ハ人々ニ德義法ヲ示シ
 且大抵此法ヲ履行セシメシガ爲メ約束ヲ予テ以テ其德義ヲ行フチ
 獎勵スレバ(丙)又公義ナリ何トナレハ神ノ旨ハ人々ノ品行動作ヲ監視シ其
 功徳何ニ應ズ之ヲ報答與フベシナリ是ニ由テ之ヲ觀レテ神ノ旨ハ
 重ナリ性質ニ對シテ(丁)亦ニ公義ナリ何トナレハ神ノ旨ハ人々ノ品行動作
 無○限○ノ○自○由○ガ○リ○神○ヲ○無○限○ニ○自○由○ニ○稱○ス○ル○所○以○ハ○彼○等○事○内
 中○無○限○ノ○自○由○ガ○リ○ス○ル○ト○テ○問○ハ○ス○凡○テ○已○ム○チ○得○サ○ル○ノ○勢○ニ○迫○ラ○レ
 或ハ強制セラル、ガ如キナラシ專ラ其ノ至極完全ナル自己ノ智識ノ
 思想ニ基ツキテ事ヲ行フガ故ナリ、彼ハ其ノ欲スル所ノ事ヲ行ヒ並ニ

其行ヲ所ノ事ヲ自ラ欲スルガ如クニ成就スルナリ、聖書ハ

(甲)概シテ神ガ凡ソ其行ノ所ニ於テ無限ニ自由ナリ、其旨ノ欲スル
所ニ循テ万事ヲ行フテ證ス(以弗一ノ十一)細カニ云ヘハ神ノ自由ニ

(乙)世界ヲ創造シ於テ示ス、曰ク我等ノ神ハ天ニ在リ地ニ在リ凡ソ欲ス
ル所ヲ行フ(聖詠百十三ノ十一)

(丙)世界ノ照管ニ於テ示ス、曰ク彼已ノ旨ニ循テ天ノ軍ト地ノ居民ト間
ニ行フ人能ク其手ヲ止メ之ニ向テ爾何ヲ爲セシカト曰フナシ(但以四

ノ卅二)至上者ハノ國ヲ主リ其ノ欲スル者ニ之ヲ賜フ(同上四ノ十四、
廿二廿九)雀ハ一分金ノ爲ニ售ラル、ニ非ズヤ若シ爾ガ父ノ旨ナク

シヤ其ノ一モ地ニ隕テズ爾ノ頭髮モ亦皆數ニテ(馬太十ノ廿九三十)言
テ人ヲ贖フ、ニ於テ示ス、蓋在天ノ父ハ其旨ノ善意ニ循ヒ、耶穌基督ニ

由テ我等ハ己ノ義子ト爲サシヲテ預定シ(以弗一ノ五)而ノ救主基督ハ

我等亦父也神ノ旨ニ循ヒ我等ナ此ニ惡世ヨリ救ヘシトシ我等ノ罪
 (丁)爲ニ已チ捨テヌリ榮光世々ニ彼ニ歸セシ(加拉一ノ四五)
 (戊)吾人ナ更生シ及聖ニスルヲ於テ示ス蓋彼已チ旨ニ循ヒ眞理ナ言
 事以テ我等生シ我等チ父其遺ル所ノ者チ初實テ果列如キ者下爲ラ
 又彼ノ王(雅各一ノ一八)我等各人神ノ顯チ賜ヒ以テ益ヲ獲セシ
 又神ノ由テ此人ニ智慧ノ言ヲ賜ヒ亦其神ニ由テ彼ノ人ニ知識
 (官州賜又)凡チ此等以事ヲ行フ同此以一神ノ其意ニ任セシ
 各人ニ頌與(羅馬七ノ一二)哥前十二ノ七八十一
 (己)至聖神ニ吾人ハ神チ聖ナキ者ト稱シ以テ神ガ毫モ罪ニ染マズ且
 罪ヲ行フ能ハズ其行ヲ所ニシテ悉ク德義法ニ合ハサルヲ故ニ亦已
 (不造物ニ對シテモ惡ヲ惡ミテ只善ヲ愛スルヲ確認スルヲ聖書
 其實ニ此事ヲ証シテ神ハ) 誠ニ

(甲)全ク罪ニ染マズト爲ス曰ク神ハ眞實ニシテ毫モ罪愆ナキ(復傳卅三
 ノ四)神ハ乃チ光ニシテ少クモ暗ナキ(約翰一書一ノ五)彼ハ乃チ潔シ(同上
 三ノ三)
 (乙)全ク德義法ニ合フト爲ス聖書ハ此レニ應シテ(概シテ)神チ聖ナ
 キ者ト稱ス曰ク主我カ神ハ聖ナリ(聖詠九十八ノ九)約翰十七ノ十二(聖
 詠九十二ノ一)彼レノ言ハ聖ナリ(聖詠百四ノ四十三)彼レノ律法ハ
 聖ナリトシ(羅馬七ノ十二)彼レノ臂ハ聖ナリトシ(聖詠九十七ノ一)彼レ
 ノ途ハ聖ナリトシ(同上七十六ノ十四)在天ノ神使等ハ神ノ寶座ニ圍
 繞シテ常ニ相呼シテ聖ナル哉聖ナル哉聖ナル哉主サワチテ全地ハ
 其榮光ニ充サルト云フヲ證ス(以賽六ノ三)又默示十五ノ四參看(三)吾人
 ニモ彼レノ純全ナル聖德ニ倣ヒ地ニ於テ彼レノ名チ聖ニスヘキヲ誠
 ム曰ク爾チ召スノ聖ナル者ニ倣フテ爾モ亦自ラ宜ク凡ソ行フ所ノ者

ニ於テ聖ナルハシ蓋録シテ云ルア爾我聖ナリ爾至亦宜ク聖ナル
 ヲシ(彼前二ノ十五十六) 然レテ惡キ者ハ主ノ惡キ所
 (丙)惡キ善キハ愛大ト爲ス曰ク心ノ乖戾ナキ者ハ主ノ惡キ所
 則完全ノ途ヲ行フ者ハ乃チ主ノ悦ブ所ナリ(箴言廿二ノ二十)惡者ハ途
 ハ主ノ惡キ所ナリ義ニ從フ者ハ其愛スル所ナリ(同上十五ノ九)主ハ凡
 シ不法ヲ行フ者ヲ憎ム(聖詠五ノ六) 然レテ惡キ者ハ主ノ惡キ所
 三。無限ノ仁慈ナリ。神ノ仁慈トハ神ガ常ニ己ヲ受造物ガ各其本性ニ其
 情狀ニ應ジテ受クルヲ得可キホド之ニ其仁慈ヲ與フルヲ意アリ且實
 ニ之ヲ與フルノ性質ヲ指シテ云フナリ此仁慈ハ之ヲ受クル者ノ狀態
 又異ナルニ循テ各其稱ヲ異ニス即チ受クルニ堪フルノ徳ナキ者ニ與
 フルハ之ヲ恩寵ト稱シ(羅馬十一ノ卅五)以弗二ノ五患難ヲ忍ビ扶助
 聖要スル者ヲ救助トテ顯レルヲ以テ稱シ(路加三ノ七十三七十四)

八。哥後一ノ三罪人ハ寛宥シ其悔改反省スルヲ待テ其罰ヲ猶豫スル
 ハ之ヲ恒忍ト稱シ(羅馬五ノ四三ノ廿五)罪人爲メ以テ罰ヲ輕減スル
 之ヲ慈悲ト稱スルガ如シ(同上十一ノ廿二)聖書ニ神ノ仁慈ヲ示ス所甚
 多。即チ

(甲)一般ニ示ス所ヲ舉レハ神ヲ稱シテ(イ)當ニ仁慈ノ者ト爲スノミナラ
 ズ獨リ仁慈ノ者ト稱ス曰ク主ヲ讚榮セヨ蓋彼ハ仁慈ニシ其憐ハ世々
 ロアレバナリ(聖詠百十七ノ二)神ヨリ外ニ善ナル者ナシ(馬可十ノ十
 八)(ロ)當ニ宏慈者矜恤者ト稱スルノミナラズ宏慈ノ父ト稱ス曰ク主ハ
 宏慈及ヒ矜恤寛忍及ヒ鴻恩ナリ(聖詠百二ノ八)神我等ノ主耶穌基督ノ
 父宏慈ノ父及ヒ諸ノ安慰ヲ賜フ神ハ頌美セラル(哥後一ノ二三)當
 ニ愛ト名ツクルノミナラズ愛ノ神ト名ツク曰ク神ハ乃チ愛ナリ凡
 シ愛ニ居ル者ハ即チ神ニ居リ神亦彼ニ居ル(約翰一書四ノ十六)同八節

參看爾等和睦也。愛和平之神必爾等。倍ニセン(哥後十三ノ十一)
 (乙)受造物ニ對シテ示ス曰ク主ハ悉クノ者ニ仁慈ナリ其宏慈ハ其悉ク
 ノ作爲ニアリ(聖詠百四十四ノ九)彼レ手ヲ開ケバ皆賜(仁慈)ニ鑿カサル
 (同上百三ノ廿八)
 (丙)特ニ人々ニ對シテ示ス即チ(イ)神ハ我等ノ父ナリト爲ス曰ク地ニ在
 ル者ヲ稱シテ父ト爲ス母レ蓋爾ノ父ハ惟一即チ天ニ在ル者ナリ(馬太
 廿三ノ九爾當ニ是ノ如ク祈禱ス)云ク天ニ在マズ我等ノ父ヤ(同上
 六ノ九)(ロ)神ハ愛ヲ垂レテ吾人ノ悉クノ祈禱ニ意ヲ傾クト爲ス曰ク爾
 等惡ヲリト雖モ尙善賜ヲ以テ爾ノ子ニ賜フヲ知ル况ヤ爾ガ天ニ在ル
 ノ父善賜ヲ以テ之ヲ求ム者ト賜ハザランヤ(同上七ノ九、十一)遂ニ
 (ハ)神ノ行ハタル救贖ノ大事ヲ以テ神ガ吾人ニ無限ノ仁慈ヲ垂ルノ
 赫著ナル證ト爲ス曰ク神世ヲ愛スルニ甚ク其外獨生ノ子ヲ以テ之ニ

賜ヒ凡ソ之ヲ信スル者ヲシテ沈淪ヲ免カレテ永生ヲ得セシメタル(約
 翰三ノ十六)神其獨生ノ子ヲ世ニ遣ハシ我等ヲ救フ由テ生ヲ得セシ
 ム神ハ我等ニ於ケルヲ愛此レニ於テ顯ハレタリ我等神ヲ愛スルニ非
 ス乃チ神我等ヲ愛シ其子ヲ遣ハシテ我等ノ罪ノ爲ニ息怒ヲ祭ヲ作セ
 シム愛即チ茲ニ示ス(約翰一書四ノ九、十)神ハ愛ニ由リテ生ズル
 四、全ク眞正及ビ確實ナリ。吾人ガ神ヲ眞誠ノ者ト稱シ確實ノ者ト認ム
 ル所以ニ神ガ凡ソ人々ニ啓示スル所ノ者ハ常ニ一トシ眞正確實ナラ
 サルナキガ故ニシテ之ヲ詳言セバ人ニ約チ與ワルキハ常ニ必ズ其言
 ヲ實行シ又人ヲ威嚇スルキハ亦必ズ其事ヲ實施スルガ故ナリ
 (甲)主ハ眞神ナリ(耶利十ノ十、約翰三ノ卅三)眞理ノ神(聖詠三十ノ六)及ヒ
 無謊ノ神ナリ(提一ノ三)神ハ謊ヲ能ハズ(希伯六ノ十六、十七、十八)

(乙)彼レノ言ハ真理ナリ(約翰十七ノ十七)主ノ言ハ淨キ言ナリ(羅ニ於テ
 土ヨリ淨クシラレテ七次鍊ラレタル銀ナリ)聖詠十一ノ七(真正確實ノ
 言ナリ)默示廿二ノ五、廿二ノ六(神ハ必ズ其約ヲ威嚇ヲ實行ス、聖書ハ明ニ此事ヲ證セリ)
 (甲)神ノ言ヲ謂フ曰ク神ハ人ノ如ク説ハラズ人ノ子ノ如ク諭カシキ其
 ノ已ニ言ハル者豈ニ行ハザヤ其ノ已ニ語ル者豈ニ成サザヤ
 (民數廿三ノ十九)我等宜ク認ムル所ノ望ヲ固執シテ動カサル也蓋約
 セシ者誠信ナリ(希伯十ノ廿三)我等誠ナラサルモ彼レ仍誠ナリ蓋彼
 レ己レニ背ク能ハザヤ(提後二ノ十三)爾ヲ召ス者誠ナリ彼必
 ス行ハシ(帖前五ノ廿四、復傳七ノ九參看)
 (乙)神ノ約ハ威嚇ヲ言テ謂テ曰ク蓋神凡ソ許ス所ヲ者彼ニ在テ是ヲ爲
 シ彼ニ在テ誠ヲ爲ス(哥後一ノ廿)我誠ニ爾等ニ告ク此代未ダ逝カザル

且此事皆成テ天地ハ廢セシ惟我が言ハ廢セズ(馬可十三ノ三十卅一、
 路加廿一ノ卅三)五、無限ノ公義ナリ、茲ニ公義ト稱スルハ神ガ凡ソ德義心ヲ具フル者ニ
 各其行ニ循テ報酬ヲ爲スノ性質ヲ指シテ云フ者即チ善人ヲ賞メ
 惡人ヲ罰スルヲ云フナリ(甲)聖詠者ノ言ナリ曰ク神ハ義
 概シテ神ハ公義ナルヲ證スルモ主ハ(甲)聖詠者ノ言ナリ曰ク神ハ義
 概シテ勇毅ナルヲ審判者ナリ(聖詠七ノ十三)主ハ義ヲ愛ス(同十ノ
 七)(乙)救主ノ言ナリ曰ク人子將ニ父ノ榮ヲ以テ其諸使ト偕ニ降臨スル
 時各人ノ行フ所ニ循テ之ヲ報ヘシトス(馬太十六ノ廿七)(丙)使徒パウロ
 ノ言ナリ曰ク彼レ各人ニ報ウルニ其行フ所ヲ者ニ循ハシトス、
 蓋神ハ人ヲ偏視セサルナリ(羅馬二ノ六十一)細カニ云ハハ神ガ義人ノ行フ所ヲ善行ヲ爲シ之ヲ賞スルヲハ

(甲)聖詠者之ヲ證ス曰ク爾ノ名ヲ愛スル者ハ爾ヲ以テ自ヲ罰ラントス
蓋主ヤ爾ハ義人ニ稱テ降セバナリ(聖詠五ノ二十三)

(乙)使徒ハバツル之ヲ證ス曰ク我已ニ善戰ヲ戰ヒ已ニ我ガ馳驟ノ程ヲ盡
シ己ニ信ヲ守レシ今ヨリ後義ノ冕アリテ我ガ爲ニ備藏ス主即テ公義
ノ審判者彼ノ日ニ於テ之ヲ以テ我ニ賜ハシ獨リ我ニ賜フノミナラズ
亦凡ソ彼レノ顯著ヲ慕フ者ニ賜ハシ(提後四ノ七八)奴僕或ハ自主ヲ論
スルナク各人其行フ所ノ善ニ循テ主ヨリ報ヲ受ク(以弗六ノ八)

又神ガ罪人ノ行フ所ノ惡事ノ爲ニ之ヲ罰スルヤハ聖書之ヲ證スルニ
(甲)一ヨハ昔神ヲ罰テ行ヒタル夥多ノ例ヲ以テ即テ罪ニ陥リタル元
祖ノ樂園ヲ逐ハレタル如キカインノ運命ノ如キ大洪水ノ如キソドム
ゴモラノ未運ノ如キ是ナリ又二ヨハ之ヲ證スルニ未來ノ恐ルベキ審
判日ヲ以テ即テ各人此ニ出テ、嚴格ノ陳辨ヲ爲シ其ノ出ス所ノ虛言

ノ爲ニモ陳辨シテ(馬太十二ノ卅六)惡人ハ永火ニ處セラレベシト爲ス
(同上廿五ノ四十二)加之聖書ノ證スル所ヲ見ルニ(乙)主ノ詛ハ惡人ノ家
ニ降ルト云ヒ(箴言三ノ卅三)主ハ彼等ノ不法ヲ彼等ニ反シ(彼等ノ惡業
ヲ以テ主我ガ神ハ彼等ヲ亡ボサント云(聖詠九十三ノ廿三)又(丙)神ヲ燬
盡スノ火ト名ツク曰ク我等ノ神ハ燬盡スノ火ナリ(希伯十二ノ廿九)(丁)
神ヲ人ノ如ク形容シテ怒及ヒ報讎ヲ行フ者ト爲ス曰ク神ノ怒天ヨリ
顯ハレ凡ソ不義ヲ以テ眞理ヲ阻ム者ハ諸ノ不虔不義ヲ罰ス(羅馬一ノ
十八)主云ク報讎ハ我ニ在リ我之ヲ報イント(同上十二ノ十九)仇ヲ報ニ
ルノ神ヤ主仇ヲ報ユルノ神ヤ已チ顯ハセヨ(聖詠九十三ノ一)

○十五神ガ本體ニ因テ惟一ナルノ眞理
神ヲ以テ諸ノ高尚ノ完全ヲ具備スル無極無限ノ者トスルヨリノ自カ
ラ神ヲ惟一ナリト爲サドレ夫得ズ何トナレバ苟モ健カナル智識ヲ以

ヲ思考スルキハ無極無限ニ均ク完全此上ナキ者ハ決テニツ若クハ多ク有ルベキノ理ナクレバナリ聖書ハ吾人が前ニ枚擧シタルノ性質ヲ神ニ付スルト共ニ神ヲ惟一ノ者ト名ツク

一、神ノ惟一ナルノ眞理ハ舊約ニ最多ク述フル所ナリ即チ一
〔甲〕神自カライズライリ人ニ語ルノ言ニ見ユ曰ク視ヨ々々此レ即チ我ナリ我ノ外ニ神アルナシ〔復傳廿三ノ卅九〕我ハ乃チ原始ノ者我ハ乃チ末後ノ者我ノ外ニ神アルナシ〔以賽四十四ノ六〕

〔乙〕モイセイガイウデイヤ民ニ語ルノ言ニ見ユ曰ク爾カシテ爾ノ主神ハ乃チ神ニシテ其他ナキヲ知ラシメシトス〔復傳四ノ卅五〕又曰クイズライリヤ聽クヨ主我等ノ神ハ惟一ノ主ニシテ同土六ノ四

〔丙〕聖詠者ノ言ニ見ユ曰ク主ノ外孰カ神タルヤ我神ノ外孰カ神タルヤ〔聖詠十七ノ卅二〕蓋爾ハ大ニシテ奇跡ヲ行フ爾ハ獨神ナリ〔八十五ノ十〕

二、新約ニ於テ神ノ惟一ノ眞理ヲ示ス亦明々白々タリ

〔甲〕救主自ラ一士子ガ何チカ諸誠ノ首ト爲スト云ハルニ問ニ答ニテ曰ク諸誠ノ首ハ即チイズライリヤ聽クヨ主爾等ノ神ハ一主ニシト〔馬可十二ノ廿八廿九〕又救主ガ天父ニ祈ルノ言ニ曰ク夫レ永生ハ他ナシ爾獨一ノ眞神ヲ知ル是ナリ〔約翰十七ノ三〕

〔乙〕聖使徒パウエルハ偶像ニ獻シタル物ヲ食スト付キテ疑問ノ起ルニ際シコリントノ門弟ニ誠メタル中ニ左ノ言アリ曰ク偶像ニ獻シタル物ニ付テハ我等偶像ハ世ニ於テ無爲ニシテ神ハ惟一他ナキヲ知ル謂テ神ト爲ス所ノ者或ハ天ニ在リ或ハ地ニアリテ多神多主有ルガ如シト雖レ我等ニハ一神即チ父アリ万物之ヨリ我々我等之ニ歸ス又一主即チ耶穌基督アリ萬物之ニ由リ我等亦之ニ由ル〔哥前八ノ四五六〕

〔丙〕又使徒パウエルハ他書ニ於テ人ハイウデヤノ禮儀法ヲ行フニ由ラズ

是ナリ
 枝葉ノ説トハ
 第一神ハ本體惟一ナルヲ以テ其三位ハ互ニ相均ク且一體ナリ即チ父モ神ナリ子モ神ナリ聖神モ亦神ナリ然レモ三ツノ神ニ非スシテ惟一ノ神ナリ
 第二然レモ其個位三ツナルヲ以テ個々ノ性質ニ由テ互ニ相同シカラズ父ハ何者ヨリモ生マレズ子ハ父ヨリ生レ聖神ハ父ヨリ出ヅ
 故ニ至聖三者ノ定理ハ之ヲ分析スレハ左ノ三定理ヲ含ム即チ(第一)神ハ本體惟一ニシテ三位アルノ定理(第二)神ノ個位同等一體ナルノ定理及ヒ(第三)三位其個々ノ性質ニ因テ相異ナルノ定理是ナリ
 第一神ハ本體惟一ニシテ其個位三ツア事

○十七此定理ニ關スル教會ノ教ノ要領

第一正教會ガ吾人ニ教ヘテ神ハ本體(Substantia)ニ由テ惟一ナリト云フハ父及子及聖神ハ惟一ノ相分レザル本性(Natura)惟一ノ相分レザル神性惟一ノ相分レザル神ノ性質及ヒ完全ヲ有ストノ意ヲ顯ハスナリ而シテ又神ガ個位(Persona)ニ於テ三者ナリト云フハ父及子及ヒ聖神ハ其本體惟一ニシテ相分レザルモ之ニ三ツノ不羈獨立分ツカヲザルノ個位アリテ各個々特別ノ性質ヲ有シ三者互ニ相異ナルトノ意ヲ顯ハスナリ聖大ワシリイ曰ク『聖三者ニ總體ノ者ト特別ノ者アリ總體ノモノハ本體ニ屬シ個位ハ各三者ノ特性ヲ示スト』ト神學者聖グリゴリイ曰ク『甲ハ神ノ本性ヲ指シ乙ハ三者個々ノ性質ヲ指スト』ト第二全地公會ノ諸父モ此意ヲ以テ西方ノ諸主教ニ送ルノ書ニ記セリ曰ク『我等ノ教ハ洗禮ニ應シテ我等ニ父及ヒ子及ヒ聖神ノ名ニ因テ信スベキヲ即チ父及ヒ

子及ヒ聖神ノ惟一ノ神性能力本體ト三ツノ全キ個位ノ分ツヘカラザ
 ル尊嚴及ヒ其永遠ノ國ヲ信スベキヲ教ユ⁽¹⁾第二、聖教會ガ吾人ニ神
 個位ヲ混スベカラサルヲ誠ルハ吾人ガ神ノ個位ヲ混シタル異端者⁽¹⁾
 入迷謬ニ陷ルヲ未然ニ防キ且吾人ニ諭シテ彼ノ異端者ノ想像シガ
 如ク父及ヒ子及ヒ聖神ヲ認メテ同一ナル神ト三ツノ名稱若クハ其形
 像若クハ顯象ニ過キズト爲シ或ハ其ノ三ツノ性質ト爲シ或ハ其能力
 若クハ作用ト爲ストナク乃チ神性ノ獨立不羈ト三位ト認メシ
 スル者ナリ何トナレバ三者ノ各位即父及子及聖神各神ノ智チ有
 其他凡ソ神ニ屬スルノ性質ヲ具ヘツ、亦個々特別ノ性質ヲ有スルガ
 故ナリ蓋父ノ個位子ノ個位聖神ノ個位各相同シカラズ⁽²⁾而ノ又聖教
 會ガ吾人ニ神ノ本體ヲ分ツベカラサルヲ誠ルハ吾人ガ此本體ヲ分
 チタル異端者⁽²⁾ノ迷謬ニ陷ルヲ未然ニ防キ且吾人ニ教ヘテ父及ヒ子

及ヒ聖神ハ其本性ニ因テ一ナガ故ニ三聖ノ神ニ非ズ乃チ各相分レ
 スシテ彼此相借ニ個々ノ性質ニ由テ相異ナルモ智意及ヒ其他神ノ
 諸性質ヲ同ウシ三ツノ物體ノ存在スルガ如キニ非ズ其本性惟一
 ナルモ互ニ全ク相異ナル者タルヲ知ラシメントスルモノナリ
 (I)例ヘバ第一世紀ニ巫者シモンアリ、第二世紀ニオラクセイアリ、第
 三世紀ニノイタイ、サウエリイ、サマサトノパワル等アリ、第四世紀ニ
 アンキフノヤルケルアリ、此異端者等ハ概シテ又ソテイトリユアリ
 (2)例ヘバアリッポム(大約五百四十年)及ヒ其徒弟并ニ煩瑣哲學派ノ
 スツニガン、マトル、アベリヤル等ナリ、此異端者等ハ概シテ三神教党ト
 稱セラル、⁽¹⁾ニ至聖三者ノ奧義ヲ指示スルハ經典ニ載ルニ
 ○十八箇約ニ至聖三者ノ奧義ヲ指示スルハ經典ニ載ルニ

神の本體惟一ニシテ其個位三ニシテ又其真理ハ新約書ニ於テ最明カニ啓示サレタリト雖正舊約ニ於テモ之ヲ指示スル所アリ、今之ヲ分テ三段ト爲ス事得可シ、
 第一、惟一ナルノ神ニ位五ニテ其位ニ示ス所アリ、此ニ關スルモノヲ(甲)神ガ(大)創造(ハ)先テ述ベタルノ言ナリ、神曰ク我等宜ク我等ノ像ト肖トシ依リテ人ヲ造ルベシ(創世二ノ廿六)(乙)罪ニ陥リタルノ元祖ヲ樂園ヨリ逐フニ先テ述ベタルノ言ナリ、神曰ク此ガ罪ニ能ク善惡ヲ別クシ我等第一ニ彷彿タシ(同上三ノ廿二)(丙)塔ヲ築キタル後言語ヲ混淆シ衆民ヲ散スルニ先テ述ベタルノ言ナリ、主曰ク來レ我等降臨シテ其口音ヲ滑訛之徒ガ言語通セザラシメシ(同上廿六)(七)
 第三、又惟一ノ神ニ三位アルヲ示ス所アリ、即チ左ノ如ク示サレタリ

(甲)聖創世紀記者ハ神ガマムリヤノ橡樹ノ下ニ於テアウラアムニ現ハレタリト記シテ神(イ)エゴ(ロ)マムリヤノ橡樹ニ在テ之ニ顯現セシメタル事ヲ述ベテ其前ニ立テリト云ヒ而シテ後直ニ語ヲ繼テ曰ク之ヲ見テ則チ幕門ヨリ趨リ出テ、之ヲ迎ヘ地ニ俯伏シテ曰ク主ヤ若シ爾(原語)ノ恩ヲ蒙ラハ請フ僕ヲ離レテ去ル母レト(創世十八ノ一、二、三)是ノ如クアウラアムハ三人ヲ見テ一人ニ伏拜シ是即チ彼ノ三人ヲ見テ聖三者ノ與義ヲ悟リ而シ之ヲ拜スルヤ恰モ一人ニ對スルカ如クニシテ三位ナル惟一ノ神ヲ確認シテ其寶座ヲ圍繞シテセラフ、
 (乙)預言者イサヤハ光榮ヲ滿被スル主ヲ見テ其寶座ヲ圍繞シテ云フ事證ス(以賽六ノ三)茲ニ三次聖ガ所載聖ナル哉聖ナル哉ト云フヲ以テ神ニ三位アルヲ示シ、主サワタフト云フヲ以テ其本體ノ惟一ナルヲ示

第三、又舊約三別々三至聖三者各位ノ個體ト神性トヲ述ベ併セテ其名ヲ記スル所アリ例ヘバ(甲)父及ヒ子ト個體ト神性トヲ證スルツ言ヲ擧レ
 (乙)曰ク主我ニ謂ヘリ爾公我の子我今爾ヲ生メリト(聖詠二〇七)生我が主ニ云ク爾我右ニ坐坐(同上百九)黎明以前ニ我爾ヲ生メリ
 (同上三節)(乙)聖神ノ個體ト神性トヲ證スルコト亦前二者ノ如クイサソ呼テ曰ク今主イエソウト其神性我ヲ遣ハセリ(以賽四十八)十六而多神
 (即チ)即チイエソウト神(將ニ)其(メ)シヤ即チ子ナリ(上ニ)安居セソトス即チ智慧不明者ノ神謀略ト剛毅ノ神知識ト敬虔ノ神ナリ彼又將ニ神ヲ畏ル、ノ神ニ滿被セソトス(同上十一)ノ二三
 ○十九(甲)神ノ個體三ツアルコト其本體ノ惟一ナルコト關スル新約

至聖三者ノ與義ニ關スル最明白ナル證ハ新約書ニアリテ其證甚多シ而シテ二ノ神ノ個體三ツアルコト併セテ其本體惟一ナルノ意ヲ示シ
 二ハ特ニ神ノ個體ノ實在ト三位各相異ナルノ意ヲ示シ三ハ特ニ專ラ其本體ノ惟一ナルヲ示ス第一ノ意ヲ示ス者左ノ如ク
 一、救主ガ使徒ヲ普世ノ傳道ニ遣ハスニ先ダテ之ニ子トタルノ誠ナリ曰ク爾等往テ萬民ヲ誨ヘ父ト子ト聖神ノ名ニ因テ之ニ洗テ施セ馬太廿八ノ十九茲ニ明カニ父及子及聖神ノ三者ヲ指名シ截然之ヲ區別シテ之ニ惟一ノ名ヲ付スルヲ見ルベシ此語ヲ了解スルニハ必ズ
 (甲)救主ノ自ラ之ヲ了解セシ如ク又使徒等ノ之ヲ了解スルベキガ如クセサルベカラズ救主ハ曾テ屢使徒等ニ父ト云フヲ以テ特ニ已チ此世ニ遣ハシ別ニ已チテ證スル(約翰五ノ卅二)ノ神父ヲ指シ(同上六ノ卅八卅九、四十、同七ノ十六、十八、廿八及其他)子ト云フヲ以テ已チ指シ(使徒等

其實彼等認テ神ヨリ出タル神の子ト爲セリ馬太十六、十六、約翰
 十六ノ三十ヲ見ルベシ又聖神傳云フテ以テ彼等父ヨリ使徒等ニ遣ハ
 シテ已レニ代オシムベシト約ヨル別ノ保惠師ニ指サト爲ス此意ヲ
 示セリ同上十四ノ十六、十五、十六故ニ合亦救主ノ右ノ語ニ更ニ新
 ナルヲ說明チ付セザルヲ以テ見レバ彼等父及ヒ子及ヒ聖神ト云
 フヲ以テ神ノ三ツノ個位ヲ指サタルハ勿論ノヨリテ使徒等モ此意
 ナリテ之ヲ解ク者ハ疑ナクナリ救主ハ亦曾テ使徒父前並ニ其聽衆
 ノ前ニ於テ現在在等ノ語氣ヲ以テ名ニ因テ或ハ名ヲ以テ或ハ名ニ
 託ス等語ヲ用ヒ而シテ常ニ之ヲ以テ尊貴能力光榮權柄ノ意ヲ示シ
 シタル亦屢見所ナリ例ヘテ我々我父ノ名ニ因テ來ルト云ヒ約翰五
 ノ四十三我々我父ノ名ヲ以テ行フ所ノ諸行我々爲ニ證ヲ作スト云ヒ
 同上十六、廿五我々名ニ託シテ鬼ヲ逐ク云ヒ馬可十六ノ十七、二十三

我々名ニ由テ集ルルヲ云云(馬太十八ノ二十一)ガ如ク故ニ救主今
 又使徒等父及ヒ子及ヒ聖神ノ名(此字原語)ニ因テ人々ニ洗ヲ施ス
 チ命之ヲ以テ神ノ三位ノ同尊同貴ナル計ニ其權柄能力光榮ノ同
 ナルヲ示シ隨テ其本體亦惟一相分レサル所以ヲ示セシヤ疑テキ
 (乙)聖使徒等ニ次テ基督教會ガ右ノ語ヲ了解セシガ如ク也サル矣カテ
 又基督教會古ヨリ常ニ父及子及ヒ聖神ト云フ三ツノ個位トシ其名
 ニ因テ洗禮ヲ行ヒ而シテ彼等子及ヒ聖神ト云フ劣ルト爲シ或ハ其能力
 及ヒ性質ニ過キテト爲シテ獨ニ父ト云フ因テ洗禮ヲ行ハントシ或ハ
 聖神ト云フ子ト云フ劣ル者ト云フ父及ヒ子ト云フ名ニ因テ若クハ獨リ子ト云フ
 名ニ因テ洗禮ヲ行ハントシ或ハ其異端者ト云フ又救主ノ述ヘタル名
 ニ因テ洗禮ヲ行ハントシ或ハ其異端者ト云フ又救主ノ述ヘタル名
 ニ因テ洗禮ヲ行ハントシ或ハ其異端者ト云フ又救主ノ述ヘタル名

一、本體ヲ指ス者トセリ、第二全地公會ノ諸父書ニ曰ク我等以教ヲ
 洗禮ニ應ジテ吾人ニ父及ヒ子及ヒ聖神ノ名ニ因テ信スベキト即チ父
 及ヒ子及ヒ聖神ト惟一ノ神性能力本體ヲ信スベキヲ教マシトテ
 二、神學者聖トシテ言フ曰ク天ニ在リテ証ヲ作ス者三ツアリ父ハ
 リ言ナリ聖神ナリ而シテ此三ツノ者乃チ一ナルト(約翰一書五ノ七)此
 語ハ前節ヲ引キタルノ語ヨリモ更ニ明ニ神ニ個位ノ三ツアルコト其
 本體ニ惟一ナルノ意ヲ示スナリ、神ニ個位ニ三ツアルコト示スト爲スハ
 父ト言ト聖神ト三證者ト稱スルカ故ナリ是ニ由テ三者ノ互ニ相異ナ
 ルヲ知ルベク且首及ヒ聖神ハ父ト相並ニテ證者トセラル、以テ見
 レバ此二者ハ唯父ノ二ツノ性質若クハ其能力或ハ作用ニ非ズ、父
 ト同シキ者タルコト亦明カナリ、本體ノ惟一ナルコト示スト爲スハ首及ヒ
 聖神ハ父ト同シキ神ノ性質本體ヲ有セズ、之ニ劣ル受造的ニ性質

ヲ有セシム、此三者ハ父ト間ハ差アリ、此三者乃チ一ナル
 トハ決シテ言フ能ハサルベシトテ、
 ○二十、(乙)神ハ三位ノ實ニ個體ヲ具フルトニ關スル新約ノ證
 新約ニ特ニ神ノ個位ノ實ニ個體ヲ具フルトテ證スル者ノ中一ハ概シ
 テ三位ノ個體ヲ具フルコト其相異ナル者タルコト示シ一ハ細カニ或
 ハ子ノ個體ヲ具フルコト示シ或ハ聖神ハ個體ヲ具フルコト示ス
 第一、神ノ三位ハ皆實ニ個體的ノ者ニシテ互ニ相異ナル者タルコト示
 ス者左ノ如シ
 一、福音ニ神ハ顯現ヲ記スルコト語ナリ曰ク耶穌既ニ洗禮ヲ受ケテ水ヨ
 リ上ル天之ガ爲ニ開ケ神ノ神鶴ノ如ク降リテ其上ニ止マルヲ見ル天
 ヨリ聲アリテ云ク此乃チ我が愛子我が喜悅スル所ノ者ナリト(馬太三
 ノ十六、十七)茲ニ天ヨリ子ノコトヲ證スルノ父トイハルコトニ於テイテ

アソヨリ洗滌受ルノ子子有形ノ狀ヲ以テ鶴ノ如ク子ニ降ル聖神ノ區別ヲ示ス。誠ニ昭々スリ。...

二、救主カ使徒等ニ聖神ヲ遣ハス。ヨハネ約テスルノ言ナリ曰ク我將ニ父ニ求メントス而シテ彼別ニ保惠師ヲ以テ爾等ニ賜ヒ其ヲシテ永ク爾等ト偕ニ居ラシメシメシ保惠師即チ父我カ名ニ託シテ爾等ニ遣ハサントスルノ聖神ハ將ニ衆理ヲ以テ爾等ニ教ヘ爾等チシ我ガ凡ソ爾等ニ言フ所ノ者チ憶ハシメントスト(約翰十四ノ十六廿六)茲ニ至聖三者ノ三位ノ個體ヲ區別スルノ益明カナリ即チ我將ニ求メントストノ語ハ子ヲ指シ父ニ求メントストノ語ハ父ヲ指シ別ノ保惠師ト云フノ語ハ聖神ヲ指スナリ茲ニ別ノ保惠師ト云フヲ以テ見レバ聖神ノ子ト異ナルコト明カニ父之ヲ遣ハサントスト云フヲ以テ見レバ其ノ父ニ異ナルコト亦明ナリ而シテ此保惠師ハ子ニ代テ使徒ニ衆理ヲ教ヘンガ爲ニ遣ハサ

ル。ト云フヲ以テ見レバ亦子ト同シキ者タルヲ知ルベシ。

三、聖使徒パウロガ云リシフ人ニ書スルノ言ナリ曰ク願クハ吾生耶穌基督ノ恩ト神父ノ愛及ヒ聖神ノ交親爾衆ト偕ニセシヨト(哥後十三ノ十三)茲ニ聖使徒ハ信者ニ子即チ耶穌基督ト聖神ヨリ神靈的ノ幸福ヲ賜ヒラシメテ望ムコト父ニ求ムルト毫モ異ナルナク而シテ彼等ニ求ムル所ノ幸福ハ各相同シカラズ是則チ子ト聖神ハ父ト同シキ者ニノ三者皆相均シ又皆互ニ相異ナルコト明カナリ。

第二、細カニ云ヘキ聖書ハ

一、父ノ個體ヲ證シテ(甲)知識ヲ有スト爲ス曰ク父ノ外子ヲ識ル者ナシ(馬太十一ノ廿七)乙)意旨ヲ有スト爲ス曰ク我已ガ意ヲ求メス乃チ我ヲ遣ハセシ父ノ意ヲ求ム(約翰五ノ三十)丙)作用ヲ有スト爲ス曰ク今ニ至ルマデ我カ父之ヲ行フ(同五ノ十七十九)詳ニ之ヲ云ヘバ父ハ世ニ子ヲ

遣ハセリト云ヒ(同六ノ卅九)聖神ヲ遣ハスト云ヒ(同十四ノ廿六)父ハ子
 ヲ愛スト云ヒ(同三ノ卅五)世ヲ愛スト云ヒ(同十六)人々ニ真理ヲ啓示ス
 ト云ヒ(馬太十六ノ十七)凡ソ求ムル者ニ幸福ヲ賜フト云ヒ(同七ノ十二)
 罪ヲ赦スト云ヒ(同六ノ十四)救フト云ヒ(約翰十二ノ廿七)榮スト云ヒ(同
 十七ノ五)其他枚舉ニ違アラズ
 二、子ノ個體ヲ證シテ子モ亦父ト同ク(甲)知識ヲ有スト爲ス曰ク父ノ
 我ヲ識ル如ク我又父ヲ識ル(約翰十ノ十五)(乙)意旨ヲ有スト爲ス曰ク父
 曰我爾カ我ニ賜フ所ノ者ヲノ我カ在所ニ於テ我ト偕ニセシメント
 欲ス(同十七ノ廿四)(丙)作用ヲ有スト爲ス曰ク今ニ至ルマデ我が父之ヲ
 行ヒ我亦行フ(同五ノ十七)卅六詳ニ云ヘバ子ハ世ニ臨ミ吾人ノ救贖ノ
 爲ニ藉身シ(同一ノ十四)天ニ昇ルニ及ンデ父ヨリ此世ニ別ニ保惠師
 ヲ遣ハスト云ヒ(同十五ノ六)十六(七)子ハ父ト世ヲ愛スト云ヒ(同十ノ

十一)十四ノ卅一)人々ニ啓示ヲ傳フルト云ヒ(同一ノ十八)凡ソ求ムル者
 ニ幸福ヲ賜フト云ヒ(同十四ノ十三)罪ヲ赦スト云ヒ(馬可二ノ九)其他
 枚舉ニ違アラズ
 三、聖神ノ個體ヲ證シテ聖神ニ父及ヒ子ト同ク(甲)知識ヲ有ストナス
 曰ク人ノ情ハ其内ニ在ルノ神ヨリ外誰カ能ク之ヲ知ラン是ノ如ク神
 ノ情ハ神ノ神ヨリ外亦能ク之ヲ知ル者ナシ(哥前二ノ十一)(乙)意旨ヲ有
 スト爲ス曰ク聖神ト我等ト意ヲ決シテ他負ヲ以テ爾等ニ負ハシメズ
 (行傳十五ノ廿八)(丙)作用ヲ有スト爲ス曰ク神ノ顯各人ニ賜フテ益ヲ獲
 セシム、此等ノ事ヲ行フハ同ク此レ一神ノ意ニ任セテ各人ニ頒
 與スルモノナリト(哥前十三ノ七)詳ニ云ヘバ聖神ハ子ノヨリ證シ且
 之ヲ榮スト云ヒ(約翰十五ノ廿六)十六ノ十四)人々ヲ更生スト云ヒ(同三
 ノ五至八)之ニ諸ノ真理ヲ教フト云ヒ(同十四ノ廿六)將來ノ事ヲ示スト

云正(同十六)十三(牧師)立ルト云と(行傳廿ノ廿八)其他枚舉ニ違アラ
 ○廿二(丙)神ノ三位(本體惟一ニ分ツベカラサル)ニ關スル新約
 聖書ニ特ニ神ノ三位ノ本體ノ惟一ニ分ツベカラサルヲ證ス
 最モ著明ニ箇條以テ左ノ如シ
 一、新約ニ於テ預言者イサヤノ異象ヲ説明スルノ語ナリ、イサヤ書
 第六章ニ載スル所ヲ見ルニ預言者或時主(イエゴワ)ノ聲ヲ聞クガ高ク且
 舉上ノ位ニ坐シテ其榮光赫灼タルヲ見タルニ(一至四)主預言者ニ謂テ
 曰ク爾往キ斯民ニ告ケテ云ヘ爾等聽クベシ然レモ聰ラザラン爾等視
 ルモ然レモ見ザラズト蓋斯民ノ心頑ナリト(九十)茲ニハ彼ノ特ニ舊
 約ニ於テ知ラレシイエゴワ及ヒ、イサヤ書ニ稱セラレタルノ神父ヲ指シ

ヤ固ヨリ論ヲ俟タザルガ然ルニ福音者聖イサヤノ此預言ヲ指シ
 テイサヤノ神ノ子ノ榮光見之ヲ指シテ云ヘト云ヒ(約翰十二ノ四
 十)又聖イサヤノ行傳及ヒ云ヘ人命ヲタル者ハ聖神
 本體惟一ニシテ(約翰一書五ノ七)三者皆共ニ分ツベカラサル一ノ神
 性ト分ツベカラザルノ尊嚴榮榮及ヒ分ツベカラザルノ作用ヲ有スル
 ト爲スニ非ズンバ預言者ハ父ヲ見併セテ子ヲ見タリト爲シ父ノ聲
 ヲ聞キ併セテ聖神ノ聲ヲモ聞キタリト爲スカ如キトハ決シテ有リ得可
 二、救主ガ我ト父ト一ナリト云フノ言ナリ(約翰十ノ三十)茲ニ神子ガ本
 體ト神性ト由テ父ト一ナルヲ云フ所以ハ本文ヲ見テ明カナリ、イ
 三、人ハ救主ノ此言ヲ聞キ石ヲ拾テ之ヲ擲クトシ且曰ク我等善事

又爲ニ石ヲ以テ爾ヲ擊ツニ非ズ乃チ靈演ノ事ハ爲メ五明爾實ニ人ヲ
 辨而釋之己ヲ以テ神ト爲スニ因ルト然ルニ主交イウテ人ノ見解ヲ
 非カレトシ己ノ言ヲ之ト異タルノ意味ニ辨解セサルノ故ナラズ自ラ
 我ハ神トナリト云フモ決シテ靈演ノ事ヲ云フニ非スト斷言シ而シテ後
 其ノ父ノ名ニ托シテ行ヒタル所ノ事ヲ指示シテ曰ク是ハ爾等チ父
 我ニ在リ我父ニ在ルヲ知リテ信セシメムガ爲メ我ハト(卅一)乃至卅八
 此外子ノ父ト一體ナルヲ指示スル所ハイデアノ福音五ノ十九十四
 ノ九十六ノ十五十七ノ十等ナリ
 三使徒ガ聖神ノ下チ云フノ言ナリ曰ク神ハ其神ヲ以テ會テ我等ニ啓
 示セリ蓋シテ察セサル所ナク亦神ノ深情ヲ察スル情ハ其内ニ在
 ノ神ヨリ外誰カ能ク之ヲ知ラシ是ノ如ク神ノ情モ神ヨリ外亦能
 シ之ヲ知ル者ナシ今我等斯世ノ神ヲ受ルニ非ズ乃チ神ヨリ出ル神

ナリト(哥前二ノ十一)茲ニ最著目スルキハ(甲)聖神ガ最完全ニ神ヲ知
 ルト爲スノコナリ救主ハ會テ此事ヲ以テ父ト己トニ歸シ之ヲ以テ己
 ノ神タルコト己ガ父ト等シキコトヲ證スル者トナセリ(馬太十一ノ廿八)
 故ニ今聖神ニ關シテモ爾カ云ハサルベカラズ(乙)次ニ聖神ヲ稱シテ神
 ヲリ出ツルノ神ト爲ス是即チ聖神ハ無ヨリ造ラレタル者ニ非ズ受造
 物ニ非ズニ神ト同一ノ本性ヲ具フル者タルヤ明ナリ(丙)又聖神ガ神
 ニ對スルノ關係ヲ形容シテ恰モ人ノ神(靈)ノ人ニ於ケルガ如キ者ト爲
 ス是レ即チ吾人ノ神(靈)ハ吾人ノ衷ニアリテ肉身上共ニ一箇ノ人間ヲ
 形ツシルガ如ク聖神モ神ニアリテ之ト一體ヲ成ステ示メナリ
 ○廿二古教會ガ至聖三者ノ奧義ヲ信シタルノ證
 基督教會ハ聖書ノ斯ク明カナルノ教ニ循ヒ傍テ聖傳ノ證ニ基キテ其
 創立ノ時ヨリ常ニ至聖三者ノ奧義ヲ信セシ今日信スル所ト恰モ符

節ヲ合ズルガ如シ、之ガ確證ハ左ノ如シ
 一、聖使徒ヨリ傳ハリテヨケヤ公會前諸所ノ教會ニ用ヒテシタルノ信
 經ナリ、例ハ使徒律例ニ載スルノ信經、專ラ東方教會ニ於テ聖洗機密
 ナ行フキ採用シタル者ヲ見ルニ曰ク「我惟前ノ生レサル惟一ノ眞神全
 能者、基督ノ父ハ、及ヒ其獨生ノ子萬物ニ先ズ生レ諸世ノ先父ノ旨
 ニ因テ生レ而シテ造ラレサル父主耶穌基督ヲ信シ且領洗ス」又聖
 神即世ノ始ヨリ諸聖人ノ主ニ作用ヲ顯ハシ後吾主耶穌基督以約
 循テ父ヨリノ使徒等ニ遺ハサレタル保惠師ニ由テ領洗ス云々
 二、初代教會ノ奉神禮式及ヒ慣習ナリ、即チ(甲)授洗式ナリ、教會ニ洗禮
 行フキ救主ノ誠ニ循ヒ常ニ父及ヒ子及ヒ聖神ノ名ニ因テ之ヲ行ヒ且
 使徒ノ傳ニ基キテ必ズ領洗者ヲ三次水中ニ入レ之ヲ以テ益、明ニ授洗
 者并ニ領洗者ガ惟一ナル神ノ同尊同貴ナル三位信ス、此ヲ表證セ

(乙)小讀詞ナリ、教會ガ往時ヨリ最多ク用ヒタルモノハ「光榮ヲ子ニ由
 リ聖神ニ於テ父ニ歸ス」或ハ「光榮ヲ父及ヒ子ト聖神トニ歸ス」ノ二式
 ニシテ又時トシテ「光榮ヲ父及ヒ子及ヒ聖神ニ歸ス」ト唱ヘタリ(丙)晚課
 ノ感謝ノ歌ナリ、聖太ウリイハ古代ノ「ハリスネ」ガ聖神ガ父及
 ヒ子ト同尊同貴ナルヲ信セシヲ示サント、此歌ノ中ヨリ「父ト子ト
 神ト聖神ト讚揚ス」トノ語ヲ引キタリ
 三、初代人教會ガ彼ノ至聖三者ヲ定理ヲ傷ケシトモシ者ニ對シテ下
 タルヲ宣告ナリ、會此ノ如キ徒出テ、其邪說ヲ弘メシトスルコトアレバ
 諸會ノ信徒就中牧師等ハ乍チ之ヲ目シテ新說ヲ主張スル者異端ヲ唱
 フル者ト爲シ舉テ之ニ敵シ而シテ教會ハ猶豫スルコトナク直ニ之ヲ正教
 徒ノ社會ヨリ斥ツケタリ即チ神ニ三位アルノ說ヲ排セントシタル
 ラクセイ、ノエチイ、サワエリイ、サモサト、バワエルノ如キ及ヒ是ヨリ先キ

子ノ神性及ヒ子ガ父ト一體ナルノ定理ヲ排シタル「エウイナニト」党「ダリ
 ノ」党ノ如キ其著名ナルモノナリ
 四、初三世紀間ノ教會ノ聖師父等ノ證ナリ例ヘバ(甲)羅馬ノ聖「クリスチ
 ト」曰ク「我等ハ惟一ノ神ト惟一ノ基督及ヒ我等ニ注カレタル恩寵ノ惟
 一ノ聖神ヲ有スルニ非スヤ云々」(乙)アシナヒヤノ聖「マテウス」曰ク「天
 ノ星宿ノ創造セラレザル時ニ存セザル三日ハ三者即チ神ト其言及ヒ其
 睿智(聖神)ノ像ナリ」(丙)テルトリアン曰ク「惟一ノ神ノ三位ハ即チ父及ヒ
 子及ヒ聖神ナリ」(テラクセイ)駁スル書第廿一章(丁)「バタラノ聖」ノ「ラヂ
 イ」曰ク「父及ヒ子及ヒ聖神ノ國ノ一ナル」ハ其本體ノ惟一ナルト其主
 權ノ惟一ナルガ如シ故ニ吾人ハ惟一ノ三位ナル神始ナキ者造ラレザ
 ル者終ナキ者永遠ノ者ニ同一ノ叩拜ヲ爲ス(戊)聖「イポリト」曰ク「誠ニ父
 及子及ヒ聖神ヲ信スルニ非スンバ惟一ノ神ヲ認ムル能ハス」(己)「アレキ

サンドリヤ」ノ「ヂイ」ニ「イ」曰ク「若シ夫レ個位ハ三ナル以上ハ即チ別々
 ノ者ナリト云ハシカ異端者ハ之ヲ好マサルモ實ニ三ナリ然ラズンバ
 全ク神ノ三位ノ理解ヲ無ク歸セン」
 第二、此第二ノ神ノ個位ノ同等及ヒ一體ナル事
 ◎廿三、此定理ニ關スル教會ノ教ノ要領
 聖教會ハ神ノ個位ノ同等一體ナルノ定理ヲ言顯ハスニ左ノ語ヲ以テ
 ス曰ク「父ハ神子ハ神聖神モ亦神ナリ然レバ三ツノ神ニ非ス」(「
 神ナリ」ト此ノ如ク三者即チ父及ヒ子及ヒ聖神各別々ニ神ト稱スル
 ハ彼等各獨立ノ者ニシテ神ノ悉クノ完全ヲ具フルガ故ナリ然レバ父及
 ヒ子及ヒ聖神ノ三者ハ三ツノ神ニ非ス「
 皆共ニ神ノ完全ヲ具ヒ皆共ニ惟一ノ本體惟一ノ神性、惟一ノ意旨惟一

等神父ヨリ恩寵安和ヲ得ンヲヲ語テ置キ(羅馬一六七、哥前一八三、哥後一ノ二及其他)且之ニ一心一口神吾主耶穌基督ノ父ヲ讚榮スルニキ
 夫諭ス(羅馬十五ノ六)乙)獨一ノ神ト稱ス曰ク我等ニ一ノ神ヲ非耶父
 ナリ萬物之ヨリテ(哥前八ノ六)丙)頌美セラル、ノ神ト稱ス曰ク神即チ
 我等ノ主耶穌基督ノ父慈悲ノ父全慰ヲ施ス、ノ神ヲ頌美セラレヘ(哥
 後二ノ三)
 ○廿五、子ノ神性及ヒ子ガ父ト一體タル事ヲ明カシ、其體主
 第一、聖三者ノ第二位即チ吾人ノ救贖ヲ爲ス藉身シタル神子ノ神ナル
 事并ニ彼ガ父ト一體タル事亦明カニ聖書ニ示ス所ナリ、凡テ眞神ニ
 屬スベキモノハ聖書悉ク之ヲ神ノ子我カ主耶穌基督ニ屬スル爲ス即
 一、神ノ名ナリ、聖書ニ神ノ子(甲)神ト稱ス曰ク元始言アリ言ハ神ト借

ニセリ言ハ即チ神ト是言元始神ト借ニセリ、言肉身ト成ル(約
 翰一ノ二、十四)乙)藉身シタル神ト稱ス曰ク大ナル哉敬虔ノ秘義神
 ハ肉體ニ於テ顯ハレリ(提前三ノ十六)丙)主神ト稱ス曰ク爾當ニ自ラ
 慎ミ亦全群乃聖神ノ爾ヲ彼ニ立テ、監督ト爲ス所ノ者ヲ慎ミ主神ガ
 己ノ血ヲ以テ獲シ所ノ教會ヲ牧スベシ(行傳廿八)丁)眞神ト稱ス曰
 ク我等神ノ子來リテ我等ニ賜フニ光ト智トヲ以テシ我等チ眞神ヲ
 識ラシメントスルヲ知ル我等其眞子耶穌基督ニ在ラシ此乃チ眞神及
 ヒ永生ナリ(約翰一書五ノ廿)戊)大ナル神ト稱ス曰ク神ノ救ヲ施スノ恩
 衆人ニ顯著シ我等ニ不敬虔ト世俗ノ慾トヲ棄テ、廉潔公義敬虔ニシ
 今世ヲ度生シ我ガ望ム所ノ福及ヒ大ナル神我カ救主耶穌基督ノ光榮
 ノ顯現ヲ仰慕スベキヲ教フ(提多二ノ十一、十二)己)頌美セラル、ノ
 神ト稱ス曰ク義子ノ分ト榮光盟約律法祭儀應許皆之(イウテヤ人)ニ屬

ス列祖ハ彼等ニ屬シ基督亦肉體ニ因テ彼等ヨリ生レタリ即チ萬有ノ
 上ニ在ルノ神ニノ永遠頌セラルベキ者ナリ阿民(羅馬九ノ四五)
 二、神ノ本性ナリ此ヲ證スルモノハ特ニ聖使徒パウロノ左ノ言ナリ曰
 ク大ナル敬虔ノ秘義神ハ肉體ニ於テ顯ハレタリ(提前三ノ十六)凡ソ
 神性ニ充滿スル者ハ悉ク形ヲ爲シテ之(耶穌基督)ニ居ル(哥羅二ノ九)
 三、神父ト全ク同等ナリトス曰ク今ニ至ルマデ我父之ヲ行ヒ我亦行ヌ
 (約翰五ノ十七)蓋父ノ凡テ行フ所ノ者子モ亦之ヲ行フ(同上十九)父ハ死
 者ヲ復起シテ之ヲ甦スガ如ク子モ亦是ノ如ク其ノ欲スル所ノ者ヲ甦
 ス(廿二)蓋父已レニ生テ有ツカ如ク其子ヲシテ亦已ニ生テ有ツカ(廿
 六)
 四、神父ト一體ナリトス此意ハ救主ノ言ニ見ユ曰ク我ハ父ト一ナリ(約
 翰十ノ三十)我ヲ見シ者ハ即チ己ニ父ヲ見シナリトス我レ父ニ在リ

而シテ我ニ在リ(同上十四ノ九十一)若シ我ヲ識ラバ則亦我カ父ヲ識
 ラシ(八ノ十九又十四ノ七)參看我ノモノハ皆爾ノモノ爾ノモノハ我ノ
 モノナリ(十七ノ十)凡ソ父ノ有スル所ノ者ハ皆我ノモノナリ(十六ノ十
 五)
 五、神ノ諸性質ナリ即チ(甲)永遠ナリ曰ク父ヤ今爾ト僭ニ我カ創世ノ先
 爾ト僭ニ有スル所ノ榮ヲ以テ我ヲ榮セヨ(約翰十七ノ五)我ハ乃チアル
 フニ及ヒ(乙)オメガ(原始ノ者及ヒ末後ノ者)默示一ノ十(乙)自在ナリ曰ク父已
 ニ生テ有ツカ如ク其子ヲノ亦已レニ生テ有ツカ(約翰五ノ廿六)丙)在
 ラサル所ナキヲナリ曰ク天ヨリノ降り依然天ニ在ルノ人子ヨリ外曾
 テ天ニ升ル者ナシ(約翰三ノ十三)丁)全知ナリ曰ク耶穌已チ以テ彼等ニ
 托セズ人悉ク其知ル所タルニ因ルナリ又人ノ他人ヲ證スルヲ庸ユル
 ナシ其ノ人ノ中藏ヲ知ルヲ以テナリ(約翰二ノ廿四廿五)凡ソ智慧知識

ノ蓄積一切彼中隱藏ス(哥羅二ノ三)戊全能ナリ曰ク父死者ヲ復起セシメ
之ヲ甦スカ如ク子モ亦是ノ如ク其ノ欲スル所ノ者ヲ甦ス(約翰五ノ廿
一)己光榮ナリ曰ク若シ之ヲ識ラバ榮光ノ主ヲ十字架ニ釘セサザルナ
ラ(哥前二ノ八又雅各二ノ一參看)七榮光ノ主ヲ十字架ニ釘セサザルナ
六神ノ作用ヲ成且有ラユル者ノ上ニ權アリト爲ス即チ神ノ子ハ(甲)造
成者ト稱セラル曰ク萬物彼ニ由テ造ラレ凡ソ受造ノ者彼ニ由テ造ラ
レサザルナシ(約翰一ノ三)萬物彼ニ由テ造ラレ天ニ在ル者ト地ニ在ル者
見ルヘキ者ト見ル可カラサル者或ハ寶座或ハ首制或ハ權柄或ハ能力
ヲ論スルナク萬物彼ニ由リ且彼ノ爲ニ造ラル(哥羅一ノ十六)乙照管
者ト稱セラル曰ク彼レ萬物ニ先ダテ萬物彼ニ由テ立ツ(同上十七)彼其
大能ノ言ヲ以テ萬物ヲ扶持ス(希伯一ノ三)丙萬物ノ主宰諸王ノ王諸主
ノ主ト稱セラル曰ク彼イスラエリノ嗣ニ道ヲ傳ヘ耶穌基督ニ由テ之

三平和ヲ宣フ蓋彼ハ万物ノ主ナリ(行傳十ノ卅六)其衣ト股ト名ヲ書
スルアリ曰ク諸王ノ王諸主ノ主(默示十九ノ十六)四有智ノ受造物
若シ神トシテ尊敬即拜スル爲ス曰ク衆ヲシテ子ト敬
スルコト父ト敬スルカ如ク然ラシメゾトス凡ソ子ト敬セザル者即チ
之ヲ遣セ父ト敬セザルナリ(約翰五ノ廿三)天ニ在ル者地ニ在ル者及
ビ地下ニ在ル者トテ耶穌ノ名ヲ對シテ膝ヲ屈セシメ且凡ソノ舌ヲ
ノ耶穌基督ヲ稱シテ主ト爲シ榮光ヲ歸セシメトシ(腓立三ノ十
十一)五古教會ガ神ノ子トシテ神性ヲ信シタルコトヲ證スル者ハ左
列如シ(一)ニケキ公會前教會ニ用ヒラレタルノ信經ナリ例ヘバ使徒律例ニ載
スル信經ハ耶穌基督ヲ稱シテ神ノ獨生ノ子萬物ニ先テ生シ諸世ハ
先父ノ旨ヲ由テ生レ而シテ造ラレキ者ト爲シキル者トシテ教會ヲ信

經云「諸世ノ先父ヨリ生マレタル神ノ獨ニ子万物ヲ造リタル人真神」ト稱シテヤサキ教會ノ信經ニハ「神ノ言神ヨリ生レタル神」ト云フ、諸世ノ先父ヨリ生レタル者」ト稱スルモノハ、舊約ノ神ニ對シテ、新約ノ神ニ對シテ、
 三四世紀前公會ニ於テ或ハ公會ノ名ヲ以テ編成シタル牧師以信認書ナサシ例ヘバアレキサンドリヤ教會ノ牧師ガ牧主ノ神性ヲ排シタルサ
 ンクトノババニ送リタル書翰中ニ載スルノ信認ナリ曰ク「我等神ノ像其首及ヒ睿智ヲ承認シテ神ノ子ト爲シ眞神ト爲シ一ニ永遠ノ者ニテ個位ト爲ス彼ヲ見エサルノ神ト見エル者ト爲リタル者ナリ何レナレバ彼ヲ嫌ヒ生レ肉體ニ於テ顯ハレタルノ神ニ提前三テ十六乃チ黎明ノ前ニ腹負ヒ(聖詠百九十三)即チ神父ヨリ生マレタル者ナレバチリ、彼其本性ニ由テ主及ヒ父ノ言ニシ父ハ之ニ由テ万物ヲ造リタル聖ナル諸父之ヲ父ト一體ナル者ト稱ス、蓋彼等ハ我等

ニ彼ノ「ト夫神ナリト教ヘタリ」又同ク右ノ異端者ニ送リタルノ書ニ載スルアンテオヒヤ公會(二百六十九年ニ開ク)ノ信認ナリ曰ク「凡ソ神ノ子ハ創世ノ先既ニ神ナリント「ト排斥シ而シテ神ノ子ヲ認メテ神ト爲スハ即チ二神アリトスル者ナリト言フ者ハ我等之ヲ教會ノ定規ニ背ク者ト見做ス此事ニ關シテハ天下ノ諸教會皆吾等ト説ク同クス、
 一、神啓ノ書モ亦皆神ノ子ヲ以テ神ト爲スト」

三、教會ガ神ノ子即チ耶穌基督ノ神性ヲ排シタルノ異端者ヲ正教徒ノ社會ヨリ斥ケタル「トナリ即チケリソフ、エリ、チソフ、オドト、カ、ル、ボク、ト、サ、モ、サ、ト、ノ、バ、ワ、ニ、及、ヒ、ア、リ、イ、等、并、ニ、其、党、人、ヲ、斥、ケ、タル、ハ、最、モ、明、カ、ニ、且、ナリ此事件ニ於テ全教會ガ神ノ子ノ神性ヲ信スル「トハ最モ明カニ且最モ嚴カニ顯ハレタリ」
 四、古教會ノ牧師及ヒ教師ノ私説ナリ例ヘバ(甲)羅馬ノ聖クリメント曰

「兄弟等爾等基督耶穌神靈及ヒ生者死者ノ審判者トノ想思セ
 〔一〕我ハ爾等ヲ聰明ニシタル我
 ガ神基督耶穌ヲ讚揚ス吾ガ聞ク所ニ由リテ爾等ハ誠ニ肉體ニ由テ
 ヲ生レテ生レ神性ニ由テ神ノ子タル我等ヲ主ト信スル甚篤ニ
 云フヲ以テナリ」〔丙〕聖イロネイ曰ク「諸預言者諸使徒及ヒ聖神自ラ彼
 等其自神稱シ生ト稱シ永遠ノ王獨生者及ヒ藉身ヲ以テ吾等稱ス」
 五異邦人並ニ我ノイハル人ノ評ナクホアガトヲヤシ帝國上リタ
 ルヲ書シ「ハリステイアニシ等」旭日東天ニ升ルヲ相集テ基督ヲ讚揚ス
 ルノ歌ヲ歌ビ怡モ神ニ事フルガ如シト記セリ「ツエリスハ」ハ聖ステイア
 ノ「ガ神自ラ人々ヲ救フガ爲メ斯世ニ來リト云ヒ神ハ生レタリ神ハ
 釘ニラレタリ」ト信スルヲ嘲笑罵詈ヲ遂ニ神ヲ藉身シタリトス

基督教ノ教ヲ以テ論スルハ神ノ變化レタリト爲サシルベカラズ
 下推論セリ致命者メウステインソ著名ナル書中ニトリフ「ラント云ヘ
 ウデ、ヤ人ハ神ガ人ト爲レリト云フハ信スベカラザル且有り得可ラ
 サルコナリトシ基督教ヲ駁シタリト記ス」
 ○廿六、聖神ノ神性及ヒ彼ガ父及ヒ子ト一體タリ事ハ第一
 第二、聖書ニ聖三者ハ第三位タル聖神ノ神タルト彼ガ父及ヒ子ト一
 體タルヲ證スルコト子ノ神性ヲ證スルト異ナルナリ即チ聖書ハ聖神
 一、神ト名ツク例ヘバ〔甲〕聖使徒ペートルアナニヤテ責メテ曰ク「アナ
 ヲ欺何爲テ撒但爾ノ心ニ滿チ聖神ヲ欺クヲ致ス乎、ハ、爾ハ人ヲ欺
 クニ非ズ乃チ神ヲ欺クナリ」〔行傳五、三、四〕〔乙〕聖使徒パウロハ信者ヲ神
 ノ殿ト稱シテ曰ク爾豈知ラズヤ爾ハ乃チ神ノ殿ニシテ神ノ神爾ノ中

乃至七及十一(茲ハハ聖神ノ作用ヲ以テ主耶穌及ヒ神父ノ作用ト全ク相均ラス)(丙)聖書中神ノ三位ヲ併セ記スルニ當リ其順序ノ同クガラキルニ由テ見ユ即チ或ハ父ノ名ヲ首位ニ置キ次ニ子ノ名ヲ記シ終ニ聖神ノ名ヲ記スルアリ(馬太廿八ノ十九)或ハ初メ父ノ名ヲ記シ次ニ聖神ノ名ヲ記シ終ニ子ノ名ヲ記スルアリ(彼前一ノ二)或ハ初メ子ノ名ヲ記シ次ニ父ノ名ヲ記シ終ニ聖神ノ名ヲ記スルアリ(哥後十三ノ十三)又或ハ第一ニ聖神ノ名ヲ記シ第二ニ子ノ名ヲ記シ第三ニ父ノ名ヲ記スルアリ(哥前十二ノ四、五、六)是レ益明ニ三者ノ位ノ同等ナルヲ示スナリ

四、神ノ諸性質有リテナス例ハ

(甲)全知ナリ曰ク彼即チ眞理ノ神至ラハ爾等ニ教フルニ諸ノ眞理ヲ以テ示シ、且必ス將來ノ事ヲ以テ爾等ニ示サシ(約翰十六ノ十三)神ノ察セサル所ナク亦神ノ深情ヲ察ス(哥前二ノ十)

(乙)在ラサル所ナキナリ、聖神ノ此性質ハ彼ガ普天下ニ散在スル衆ノ心ヲアソビテ同時ニ住ミ及ヒ働キ爲スト云フニ由テ明カシキ曰ク神ノ神爾等ニ居ル、凡ソ基督ノ神ナキ者ハ彼ニ屬セサルナリ(羅馬八ノ九、十一、十四、十六、廿六、廿七)爾等モ亦聖神ニ由テ其中ニ共ニ建ラレテ神ノ室トナレリ(以弗二ノ廿二)

(丙)全能ナリ、此意ハ特ニ聖神ガ不羈獨立ノ全權ヲ以テ信者ニ異常ノ恩賜ヲ頒與スルニ由テ見ユ曰ク神ノ顯各人ニ賜フテ益ヲ獲セシム神ニ由テ此人ニ智慧ヲ言テ賜ヒ亦此神ニ由テ彼ノ人ニ知識ノ言ヲ賜ヒ亦此神ニ由テ或人ニ信ヲ賜ヒ亦此神ニ由テ或人ニ醫治ノ恩ヲ賜ヒ亦或人ニハ奇蹟ヲ行ヒ或人ニハ預言ヲ或人ニハ諸神ヲ辨シ或人ニハ方言ヲ言ヒ或人ニハ方言ヲ譯スルノ恩ヲ賜フ然レモ此等ノ事ヲ行フハ同ク此レ一神ノ意ニ任セテ各人ニ頒與スルモノナリ(哥前十二ノ七乃

證ヲ舉グル時ニ於テ略之ヲ示セリ其證ハ即チ(甲)古時ノ信經ニ蓋
 教會ハ此信經ニ於テ信者ニ父及ヒ子及ヒ聖神ヲ均ク信スベキヲ教誨
 聖神ヲ稱シテ保惠師ト爲シ創世ノ時ヨリ諸聖人ニ作用ヲ顯ハシ預
 言者ノ口ヲ藉リテ啓示ヲ宣ベ後主耶穌ノ約ニ循テ父ヨリ諸使徒ニ遺
 ハサレタル者ナリトセリ(乙)常ニ父ト子ト聖神均ク奉リタル古時ノ
 小讀詞ナリ(丙)古時ノ晚課ニ常ニ父ト子ト聖神均ク謳歌セラル歌テ
 (丁)聖洗機密ノ執行式ナリ蓋教會ハ洗ヲ授ルニハ常ニ必ズ父ト子ト
 聖神ノ名ニ因テ三次領洗者ヲ水ニ入ルノ式ヲ以テセリ今又更ニ我
 輩ニ茲ニ述ナル聖神ノ一ニ教ニ適切ニ關スル諸父ノ説ヲ舉ゲテ證ト
 爲サシテ其證ニ入ルニハ蓋ニ父ト子ト聖神均ク奉リタル古時ノ
 羅馬ノ聖タリメントハ聖神ヲ稱シテ父ヨリ出ツルノ聖ニ正キ神
 ト爲ス是レ則チ父ト異ナリテ之ト一體ナル者ト爲スガリ

テルトルアン曰ク神ノ神ノ神ヨリ神ノ子ノ神タル所以ハ彼等ガ神ヨ
 リスルガ故ナリ』
 アレキサンドリヤノ聖ディオニシイ曰ク荷モ仁慈ナル聖神ニ對テ褻瀆ノ
 言ヲ發スル者ハ必ズ罰ヲ受ケサル能ハズ蓋聖神ハ神ナレハナリ』
 奇蹟者聖グリゴリイ曰ク神ヨリ出テ、子ニ由テ顯ハレタルノ聖神ハ
 一ナリ、ハ、完全ナルノ三者ハ光榮ヲ以テ永遠ヲ以テ國ヲ以テ相分
 レズ且相離レサル者ナリ故ニ聖三者ニハ造成ニ係ル者ナク服役ノ者
 ナク外ヨリ加ハル者ナク凡ク先ニ無クシテ後ニ加ハルガ如キ者アル
 ナシ父ハ未曾テ子ト偕ニセズ有リタルトナク子モ亦聖神ト偕ニセ
 ス有リタルトナク三者ハ乃チ變化ナク變易ナク常ニ相同シ』
 パトラノ聖ノブヂイ曰ク吾人ハ其旨ノ善意ニ依テ(以弗一ノ五)吾人ノ爲
 ニ人ト爲リタルノ子ニ分ツベカラザルノ神性ニ由テ父ガ已ト一體ト

ルノ聖神ト共ニ居ルヲ信ス』又曰ク『父ハ決シテ父ヲササルコトナク子ハ決
 シテ子ヲササルコトナク聖神モ亦決シテ其ノ個位ニ相應スル者ヲササルコ
 トナク聖三者ノ個位ハ各永遠モ他ノ個位トノ交モ國モ失フコトナシ』
 第三 神ノ三位其個々ノ性質ニ由テ相異ナル事
 ○廿七 此定理ニ關スル教會ノ教
 正教會ガ神ノ三位ガ其個々ノ性質ニ由テ相異ナルヲ教フルルノ左ノ如
 シ曰ク『一ノ神性ニ父及ヒ子及ヒ聖神ノ三位アリ父ハ乃チ世ノ先ニ其
 本體ヨリ子ヲ生シ聖神ヲ出ス者ナリ子ハ世ノ先ニ父ヨリ生レ之ト一
 體ナリ聖神ハ永遠ニ父ヨリ出テ、父及ヒ子ト一體ナリ』正教宗門上篇
 第九問ノ答『故ニ父及ヒ子及ヒ聖神即チ生レヌ者生ル、者及ヒ出ツル
 者ハ神性ニ於テ其個位ヲ異ニスルモ本體ハ然ラズ即チ自ラ相分レヌ

モノナリ』同上第十二問ノ答又他書ニ曰ク聖三者ノ個位ノ差別ヲ云ヘ
 『神、父、他位ヨリ生ル、ニ非ス又出ル、ニ非ス、神ノ子ハ永遠ニ父ヨリ
 生レ、聖神ハ永遠ニ父ヨリ出ツルナリ』正教訓蒙信經第一條ノ解

○廿八 神、父ノ特質

神、父ノ特質ニ關スル正教會ノ教ハ聖書ニ之ガ確固タルノ根據アリ、此
 ニ關スル者ハ(甲)救主ノ言ナリ曰ク父已ニ在テ生テ有ツカ如ク子ナ
 亦是ノ如ク已ニ生テ有タレト(約翰五ノ廿六)此語ニ由テ見レバ父ガ
 何者ヨリモ其存在ヲ受ケス何者ニモ創造セラレズ何者ヨリモ生マレ
 ズ出テサルヤ明カナリ(乙)子ニ對シテ父ト稱スルノ言ナリ此證甚多
 例ヘバ曰ク父ノ外子ヲ識ル者ナク子及ヒ子ノ樂シテ示ス所ノ者ノ外
 亦父ヲ識ル者ナシ(馬太十一ノ廿七)衆ヲシテ子ヲ敬スルコト父ヲ敬スル
 ガ如ク然カラシメントス子ヲ敬セサル者ハ即チ之ヲ遣ハセシ父ヲ敬

セサルナリト(約翰五ノ廿三)又神父ガ子ヲ生ムト爲ス言ナリ曰ク主我ニ謂ヘリ爾ハ我ノ子我今爾ヲ生メリ(聖詠二ノ七我黎明ノ前ニ腹ヨリ爾ヲ生メリ)同上百九ノ三(丙)又神父ヲ聖神ノ源ナリトスル言ナリ曰ク父ヨリノ爾ニ遣ハサントスルノ保惠師即チ眞理ノ神父ヨリ出ツル者來ル時彼將ニ我ガ爲ニ證ヲ作サントス(約翰十五ノ廿六我等斯世ノ神ヲ受ルニ非ス乃チ神ヨリ出ルノ神ナリ)哥前二ノ十二

是ニ由テ視レバ(甲)父ガ三位中ニ在テ常ニ首位ヲ占メ(馬太廿八ノ十九)聖三者ノ第二位ト稱セラレ、所以ノ理明カナリ(乙)又神ニハ神性ノ本源ハ唯父ノミナルト明カナリ何トナレバ子ト聖神ハ獨リ父ヨリシテ其存在ヲ受レバナリ(丙)又父ハ本體ヲ以テ惟一ナルモ個位ヲ以テ相異ナルノ聖三者各位ヲ聯結糾合スルカ如キ者タルト明カナリ何トナレバ子及ヒ聖神ハ父ヨリ其源ヲ受ケ之チ己ノ

本源トノ獨リ之ニ歸向スレバナリ

○廿九、神子ノ特質

神子ノ特質ニ關スル正教會ノ教モ前ト同シク聖書ニ確固タルノ根據アリ、彼ハ聖書ニ(甲)屢神父ノ子ト稱セラレ例ヘバ曰ク父ハ子ヲ愛シテ己ノ凡テ行フ所ノ者ヲ以テ之ニ示ス、父ガ死者ヲ復起シテ之ヲ甦スガ如ク子モ亦是ノ如ク其欲スル所ノ者ヲ甦ス(約翰五ノ廿廿一)(乙)獨生ノ子ト稱セラレ曰ク神世ヲ愛スルト甚シク其獨生ノ子ヲ以テ之ニ賜セ凡ソ之ヲ信スル者ヲシテ沈淪ヲ免カレテ永生ヲ得セシメントス(同上三ノ十六、十八)且(丙)父ノ懷ニ在ル者ト稱セラレ曰ク未曾テ神ヲ見シ者アラズ惟獨生ノ子父ノ懷ニ在ル者之ヲ彰明セリ(同上ノ十八)(丁)眞誠ノ子ト稱セラレ曰ク我等神ノ子來リテ我等ニ賜フニ光ト智トヲ以テシ我等チノ眞神ヲ識ラシメントスルヲ知ル我等其眞子耶穌基督

ニ在ラシ(約翰一書五ノ廿)戊寅子ト稱セラル曰ク己ガ子(希臘ノ原語)ヲ
 惜マヌシテ我等衆人ノ爲ニ之ヲ捨テタル者豈萬物ヲモ彼ト偕ニ我等
 ニ賜ハザラシヤ(羅馬八ノ卅三)吾人ハ既ニ聖書ガ主耶穌ニ神ノ本質神
 ノ性質アルヲ示シ父及ヒ聖神ト一體ナリトスルヲ明知スルヲ以テ右
 ニ舉ケタルノ聖言ト其他聖書中ニ主耶穌ヲ神ノ子ト稱スルハ眞ニ神
 ノ子タルノ意ヲ以テスル者ニシテ實意的ニ非サルコトハ今之ヲ證スルニ
 及ハザルベシ

茲ニ注意スベキコトアリ(甲)神ノ子生マレタリト云フハ永遠ヨリ生
 レタルコトヲ云フ故ニ其始ナク亦其終ナシ是ヲ以テ神父自ラ子ニ
 向テ我黎明ノ前ニ爾ヲ生メリト云(聖詠百九ノ三)是即チ諸世ノ先
 始ナク生メリノ意也又我今爾ヲ生メリト云(聖詠二ノ七)是即チ唯
 今生ミタリ若クハ永遠ニ生ムノ意也又(乙)子ハ父ヨリ生レ而ノ之

ト相離レズ若クハ相離レズ生レ且生ル、ナリ故ニ子ハ父ノ懷

ニ在ル者(約翰一ノ十八)父ニ在ル者(同十ノ卅八)ト稱セラレ

○三十、神、聖神ノ特質

第一、聖神ノ特質ニ關スル正教會ノ教ハ救主ガ使徒等ニ語リタルノ言
 ヲリノ直接ニ取リタルモノナリ曰ク我將ニ父ヨリノ爾等ニ遣ハサ
 トスルノ保惠師即チ眞理ノ神、父ヨリ出ル者來ル時彼將ニ我カ爲ニ證
 ヲ作サントスト(約翰十五ノ廿六)茲ニ父ヨリ出ツル者ト云マハ聖神ノ
 永遠父ヨリ出ツルコトヲ云フ者ニシテ其ノ一時世ニ遣ハサル、コトヲ云
 フニ非ザルナリ、此意ハ

一、救主ガ右ノ語ヲ述ベタルノ目的ヨリノ見ニ、抑此語ヲ載スル一場ノ
 談話(十四至十六章)ノ主意ヲ按スルニ救主ガ己ノ門徒ト別ル、ノ期近
 ツキタルヲ以テ專ラ門徒ノ心ヲ慰メントシ己ノ代リニ聖神ヲ遣ハサ

ンヨチ約シ初メ之ヲ別ノ保惠師ト稱シテ永ク使徒ト偕ニ居ル者ト爲
 シ(十四ノ十六)次ニ之ヲ眞理ノ神ト稱シテ使徒ニ衆理ヲ教ヘ彼等ニ凡
 ツ神師基督ニ聞キタル所ノ者ヲ記憶セシムル者ト爲シ(十四ノ十六)而
 ノ後此將來ノ保惠師眞理ノ神ハ受造物ノ類ニ非スノ父ヨリ出ル者也
 トノ言ヲ加ヘタリ(十五ノ十六)是即父ヨリ永遠ノ存在ヲ受クル者ニ
 取モ直サズ神ノ一ノ個位ナリトノ意也救主ガ右ノ言ヲ加フルコトハ談
 話ノ主意ノ爲ニ實ニ必要欠ク可ラザル者ニシテ此語ヲ加ヘスニハ使徒
 等モ未全ク其心ヲ慰ムルコト能ハザルベシ何トナレハ彼等ハ此語ヲ聞
 テ始テ彼等ノ將來ノ師タル者ハ神ナルヲ以テ今其將ニ別レシトスル
 神ヨリ出タル神ノ眞誠ノ子馬十六ノ十六約十六ノ卅ニ實ニ代ルヲ得
 可キヲ確認スルヲ得タレバナリ加之救主ガ使徒ニ聖神ノコトヲ告ケタ
 ルコト少カラズト雖聖神ノ果ノ何者タルト其位ノ如何ナルヤハ未曾テ

彼等ニ之ヲ説明セシコトナキヲ以テ殊ニ右ノ語ヲ加フルコト必要ナリ
 二右ノ語ノ聯絡配置ヨリノ見ユ若シ假リニ父ヨリ出ル者ト云フハ聖
 神ノ永遠ノ發出ヲ云フニ非スニテ唯其ノ一時世ニ遣サルコトヲ云フ
 者トセバ先ツ救主ノ詞ニ不可思議ナル重複ノ語アリ其爲サニル可カ
 ラズ此解ニ從ヘバ即チ左ノ如クナルベシ「我將ニ父ヨリノ爾等ニ遣
 サントスルノ保惠師即チ眞理ノ神父ヨリノ遣ハサルハ者來ル時彼將
 ニ我カ爲ニ證ヲ作サントス」下加之茲ニ聖神ヲ遣ハストコトハ將來ニ
 關シ且是ヨリ先キ救主ガ聖神ヲ遣ハストコトヲ云フキモ亦常ニ之ヲ將來
 ニ關シ例ヘバ父ノコトヲ證シテ彼將ニ別ニ保惠師ヲ以テ爾ニ賜ハント
 スト云ヒ(約翰十四ノ十六)或ハ父將ニ我カ名ニ託シテ遣サントスト云
 ヒ(同上廿六)又己ノコトヲ證シテ我將ニ父ヨリノ遣ハサントス(同十五ノ
 廿六)ト云ヒシコト今出ツルノ語ヲ現在ニシタル所以ノ理ヲ見出スル能

然ルヤ若シテ語ハ果シテ聖神ノ永遠以發出サ云ハ者ハ池
 ハ教主ヲ詞ヲ決シ重複シ語ヲ出ツルノ語ニ怪シムキ所ナキソ
 ナラズ茲ニ成ルベク明カニ聖神ノ永遠ヲ發出即チ其不變不易ヲ發
 出テ示シテカ爲メハ教主ガ言ハ己以永遠ヲ示サシカ爲メ現在
 以語ヲ用ヒテテウシテ有テサレノ先ニ我在リ(約翰八章五十八)云
 ヒ我カ知リ冷又出ツルノ語ヲ必ズ現在ニ爲サズルベカラサル所以ナ
 知ラシムルハ、聖神ノ永遠ヲ發出、神ノ永遠ヲ發出、神ノ永遠ヲ發出
 三、基督教會ノ古代ノ輿論ヲ以テ確然之ヲ證スルニ足ル蓋其輿論ヲ察
 スルニ教主ガ父ヨリ出ツル者ニ云フ語ニ聖神ノ永遠ヲ發出ノ意ヲ
 含ム者ニ今此事ハ深ク論スルニモ及ハズ實ニ此意ヲ以テ教主ノ
 語ヲ解シテ讀者大クモリ神學者ガリゴリ金口イサヤ等ノ如
 神教會ノ著名ノ師父ノミナテハ全地公會(第二ノ)舉テ此說ニ從ヒ現ニ

信經ニ此ヲ出ツルノ語ヲ插入シタル事ヲ示スヲ以テ既ニ足レリトス
 第三、神聖神ノ特質ニ關スルニ教ハ教會亦古ヨリ之ヲ奉セリ、此事ヲ證
 スル者ニ、
 一、古時ノ信經ノ例ニ(甲)奇蹟者聖グリゴリイハ信經ニ曰ク「神ヨリ
 存存ニ受テ出ツルノ意」由テ人々ニ顯ハレタル聖神ハ惟
 一ニ「此信經ニ聖グリゴリイノ時ヨリ衆民ニ普ク教ハ大意ヲ知ラ
 シメテガ爲メ」教會ヲ採用スル所ト爲レリ(乙)又聖エドワ
 ニ「證ニ依ルニ第一全地公會ノ時ヨリ三百七十三年ニ至ルニ聖
 洗機密ヲ受ケントスル者ヲ教マシガ爲メ教會ニ用ヒテレタルノ信經
 ニ曰ク「我等信テ聖神生テ施ス」主父ヨリ出テ父及ヒ子ト信テ崇拜讃
 榮セラル」

二、全地公會ノ教ナリ、例ハ(甲)ケサリヤノ主教レヲンテ、イハ第一全地公會ニ於テ公會ニ列席セシ人々ニ代リ説明ヲ求メタル或哲學士ニ答ヘテ曰ク「言フベカラザルノ狀ヲ以テ子ヲ生ミタルノ父ト父ヨリ生レタルノ子ト父ヨリ出テ、子ト同性ナル聖神ノ惟一ノ神性ヲ認ムベシ」ト(乙)第二全地公會ニ於テ諸父ノ信經ニ加ヘタル言ノ中ニ「父ヨリ出テ父及ヒ子ト偕ニ叩拜讚榮セラル、者」ト云フノ語アリ(丙)第四全地公會ノ諸父ガ皇帝マルキヌメニ定理ニ關スルノ書ヲ上リタルガ其中ニ云ヘルアリ曰ク「聖教ノ防禦者ハコンスタンチノールノ公會ニ於テ眞理ノ利器ヲ以テ聖教ニヨレバ聖神ハ主神ニ其ノ父ヨリ出ツル者タルヲ證シテ異端者ノ奸謀ヲ挫キタリ」ト云フニ及ビ、(丁)第三教會ノ古時ノ諸師父ノ教ナリ例ハ(甲)聖大ワシリイ曰ク「造成者タル言ガ天ヲ堅メタル如ク神ヨリ及神ヨリ出ツルノ神ハ凡ソ己レニ

有スル所ノ諸能力ヲ以テ自ラ之ニ加ヘタリ」(乙)神學者聖グリゴリイ曰ク「神ハ誠ニ父ヨリ出ツルノ聖神ナリ然レモ子ノ如クナラズ何トナレハ其出ツルヤ生ル、ノ狀ヲ以テモスシテ乃チ發出ノ狀ヲ以テスレバナリ且若シ之ヲ明カニセシトモ更ニ新ナタルノ語ヲ用ヒザルベカラズ」(丙)聖金口イサアソ曰ク「マケドニイノ徒ハ言フ可クサルノ狀ヲ以テ父ヨリ出ツルノ聖神ヲ神ナリト信スルヲ欲セサリキ」(丁)シリヤノ聖エフレム曰ク「聖神ハ生ル、ニ非ス乃チ父ノ本體ヨリ出ツ」(戊)ダマスクノ聖イサアソ曰ク「子ハ生レヨリテ父ヨリス聖神モ同ク父ヨリス」(己)雖モ生レニヨラズレテ發出ニ由ル而シテ生ト發出ノ間ニ差別アルコトハ吾人之ヲ知ルト雖モ其差別ノ狀果ノ如何ナルヤハ之ヲ知ラス唯子ノ生レモ聖神ノ發出モ偕ニ父ヨリスルヲ知ル故ニ凡ソ子ト(聖)神ノ有スル所ノ者ハ皆父ヨリ有スル所ノ者ナリ」

後、部、神ノ造物主及照管者ヲ事
 ○卅三、此定理ニ關スル教會ノ教及ヒ本部ノ編成ハ、
 第三、神ニ造物主及ヒ照管者ヲ事ニ關スル正教會ノ教ハ、
 全能者天下地見ニ見エザル萬物ヲ造リ主ナリ而シテ更ニ
 詳ニ神ノ造物主ヲ事ハ正教會之ヲ吾人ニ教フルヲ左ノ如ク、無論神
 凡チ天軍ヲ造リテ善ク己ノ榮ヲ讚美者ト爲シ而シテ其智世界ヲ
 造リ、此世界ニ其受ク、所以恩ニ由リテ神ヲ知出恒ニ全以其旨ニ服
 從、其次、神ニ無ヨリコノ見ニ、物質ノ世界ヲ造リ終ニ非物質ニ
 且智識ニ靈魂ト物質的ノ肉身ヨリ成ルル人ヲ造リ、コノ斯ク

テ成セ、人ニ神ガ非物質ト物質的ノ二世界ヲ造リ、者タル
 世界ノ形狀ヲ具ワルガ故ナリ、正教宗門上篇十八問ノ答、又神ノ照管者
 ス曰ク、我等凡ソ見ユルト見エサルノ有ラユル萬物ハ皆神ノ照管ヲ以
 テ、神ノ自ラ之ヲ造ラサルニ固ク、神ハ唯之ヲ洞見シテ許スノミ
 ナリ、神ノ惡ニ其高尙ナル仁慈ヲ以テ之ヲ導テ人ノ裨益ヲ爲ス、但
 節、人間ニ、
 第三、我輩人明晰ニコノ教會ヲ教誨説述セシカ爲メ、(一)初メ神ガ造物主
 及照管者トシテ、神靈界、物質界及小世界ヲ造リ、人間ニ對スル總體

關係ヲ述ベ(三)次ニ神ガ造物主及ヒ照管者トシテ神靈界ニ對スルノ關係
 (三)其ノ人間ニ對スルニ關係ハ教會ノ教フル所ニヨレバ各特別緊要ノ意義
 合有スルガ故ナリ而シテ神ガ造物主及ヒ照管者トシテ物質界ニ對スル
 ノ關係ハ教會ノ教理上特別緊要ノ点ナク其世界ニ對スル總体ニ關係
 述フニ時言フ所ヲ以テ己ニ足レリト爲スニ由リ更ニ此關係ヲ細述
 スルニ要ナキナリ

第一章 神ガ造物主及ヒ照管者トシテ世界ニ對スル總体ノ關係

○卅二、創造ノ解、神ハ世界ヲ創造セリ、世界ハ永遠ヨリ存在スルニ非

一、創造トハ之ヲ直解スレバ無ヨリ物ヲ造リ出スノ謂ナリ故ニ吾人ハ
 神ガ世界ヲ創造セリト云フニ即チ神ガ(甲)審ニ凡ニ已ノ外ニ在ル所ノ
 萬物ヲ造リタルメミナラズ(乙)乃チ萬物ヲ無ヨリ造リ(丙)隨テ世界ハ永
 遠ヨリ存在スルニ非ス即チ時ニ於テ若クハ時ト共ニ造ラレヨリナリ
 意ヲ顯ハスナリ

二、神ハ凡ニ已ノ外ニ在ル所ノ萬物ヲ造リテ世界ノ源因者ナリ、此證左
 ノ如シ(甲)預言者ヨリ、日クイヤコフ神ニ助ケラレ己ノ主神ヲ持
 者ハ福ナリ、即チ天地海及ヒ凡ニ其中ニ在ル者ヲ造リシ神ナリ(聖詠百
 四十五ノ五、乙 エズラ日ク神ヨ爾ハ獨リ主ナリ爾ハ天及ヒ諸天
 天トテ衆軍トシテ造リ又地及ヒ其中ノ萬物ト諸海及ヒ其中ノ萬物ヲ
 造レリ且爾悉ク之ヲ生存シ天トテ衆軍爾ヲ崇拜ス(尼希米九ノ六)(丙)使徒

萬物之造レテ神ハ乃チ天地ノ主ニシテ手造ノ殿ニ居ラズ(行傳十七)
 卅四)又エウレノ人ニ與ラレテ書ニ謂テ曰ク凡ソ家ニ必ク之ヲ建テ者
 アリ惟萬有以建テ者ハ乃チ神ナリ(希伯三ノ四)又(行傳十七)
 三)神ハ萬物ヲ無ヨリ造レリ此真理ハ(甲)聖創世記記者ノ言由テ見ユ
 曰ク元始ニ神天地ヲ創造セリ(創一)即崇未ダ萬物有ラズル
 時ニ創造セシナリ(乙)舊約教會ノ信スル所ニ由テ見ユ、アンテ、オフノ審逐
 受テニキヨク勸メテ曰ク我が子ヤ爾ハ天地及其中ニ在ル所ノ萬物ヲ
 見テ神ガ無ヨリ此萬物ヲ創造シ且人類モ亦此ヲ如クシ(即チ無ヨリ)
 造ラレタル事ヲ知レ(マツカワ第二書七ノ二十八)丙)新約ニ主ハ萬物ヲ
 創造セリト云ヒ(哥羅一ノ十六、以弗三ノ九)又萬物彼ニ本ツキ彼ニ由リ

彼ニ終ル(羅馬十ノ卅六)ト云ヒ又萬物彼ニ由テ造ラレ凡ソ有ル所
 者ハ彼ニ由テ造ラレタルナリ(約翰一ノ三)ト云フノ言ニ由テ見ユ即チ
 物質其者モ自カラ生ズルコト能ハザリシナリ(丁)又聖使徒(エペソ)ガ我等
 信ニ由テ世ハ神ノ言ニ由テ造ラレ見ル所ニキヨク勸メテ見ル所ニキヨク
 リテ造ラレタル事ヲ知ル(希伯十一ノ三)ト云フ言及ヒ神ハ無ク稱シテ有ト
 爲ス(羅四ノ十七)ト云フハ之ガ明證ナリ(三)又(行傳十七)
 四)世界ハ永遠ヨリ存在セシ事非スシテ時ニ於テ若クハ尙詳ニ之ヲ云
 へハ時ニ共ニ造ラレタリト爲スル意ハ明ニ(甲)聖詠者ノ言ニ見ユ曰ク
 山未ダ生セオ爾未ダ地ト全世界ヲ造ラザルノ先キ且世ヨリ世マデモ
 爾ハ神ナリ(聖詠八十九ノ三)乙)神ノ子ノ言ニ見ユ曰ク父歎爾今我ヲ
 天爾ト借ニ世ノ未ダ有ラザル先キ我カ爾ト借ニ有セシ所ノ榮ヲ獲セ
 レヌヨ(約翰十七ノ五)丙)同ク神ノ子即チ三位ノ一ナル神ハ睿智ガ舊約

於テ述^レキタル言ニ於テ見ユ曰ク永遠ヨリ始初ヨリ未ダ地有^ルル
 先キ我者セラレ^ル未ダ深淵有^{ラズ}未ダ多水ノ泉源有^{ラズ}我
 我已生^レ山尙未^ク實^{ラズ}未^ク有^ラサル先キ我已^ク生^レカ
 箴言八ノ廿三至廿五
 ①卅三、至聖三者ノ諸位創造ニ與カ^リタルヲ以テ、
 聖書ニ概テ神ガ世界ヲ創造セ^リト爲^ス創一ノ一、以賽四十五、七、耶
 利十ノ十二、聖詠百十三ノ廿三同百三十三ノ三、行傳十四ノ十五、同十七
 ノ廿四、哥前十一ノ十二、希伯三ノ四、外世界ヲ創造^ス以テ之ヲ
 一、神父ニ歸^ス、例ヘ^ル曰ク我等ニハ一ノ神父アリ、萬物之ヨリヌ、哥前八
 ノ六、希伯三ノ十、又使徒ノ新譯ノ言ニ曰ク主ヤ爾、乃チ天地海及^テ其
 中ノ萬物ヲ造^レル神ナ^リト此語ニ至聖三者ノ第一位タル神父ヲ指^ス
 曰ト疑ナ^レ何トナレ^ル下文ニ曰ク爾ハ爾ノ僕我ガ祖ヌ、^レ曰ク以

テ聖神ニ言テ云ク諸族何爲^テ騷^キ諸民何爲^テ徒^ニ謀^ルヤ地ノ諸王與
 リ諸侯相集^テ主ト其^ノ基督ヲ攻^ムト彼等果^シ此城ニ集^リテ爾ノ膏^ヒ
 シ所ノ墜子耶穌ヲ攻^ムト行傳四ノ廿四至廿八、
 二、神子ニ歸^ス、例ヘ^ル曰ク萬物彼^レ由^テ造^ラル凡^ソ有^ル所^リ者彼^レ由^テ
 テ造^ラレザ^レナ^シ約翰一ノ三、又曰ク天ニ在^リ地ニ在^ル者ヲ論^スルナ
 シ萬物彼^レ由^テ造^ラレ^ル、萬物彼^レ由^テ且彼ガ爲^スノ造^ラレ^ル受^ル哥
 羅一ノ十六、又希一ノ三參看、
 三、神聖神ニ歸^ス、義人オ^チテ此事ヲ謂^テ神^ノ神我^レヲ造^レト云^ヒ約百
 卅三ノ四、聖詠者ハ天ハ主^ノ言ニテ造^ラレ^ル天ノ全軍、其口ノ氣^ノ神ニテ
 造^ラレ^ルト云^ヒ聖詠卅二ノ六、又同上百三ノ三參看、又聖創世紀記
 者ハ神ノ神ハ世界創造ノ時水面ヲ覆育シテ恰^ニ新造ノ物質ニ生命ヲ
 賦^スルカ如^キ者ト爲^セリ創世一ノ二

(第一)教會ノ聖師父ハ至聖三者ノ各位ガ世界ノ創造ニ與リタルノ
 狀ヲ示セシテ欲ク『父ハ子ニ由リ聖神ヲ以テ世界ヲ造レリ』ト云
 ヒ或ハ『萬物ハ父ヨリ子ニ由リ聖神ヲ以テ造ラレタリ』ト云ハ
 而シテ此ハ如キ教ハ聖書ニ基ツクモノナリ即チ萬物父ヨリシ(哥前
 一弗三ノ六同後五ノ十八)子ニ由リ(約一ノ三希六ノ二)聖神ヲ以テ(ホ
 一弗三ノ十八)ト云ヒ又ハ萬物彼ニ本ツキ彼ニ由リ彼ニ終ル(羅十一
 一ノ三十六)ト云フ是ナリ聖大ワシリハ明ニ此意ヲ述ヘテ曰ク『彼等
 (神使ヲ云フ)創造ヲ於テ創造ノ首初ノ因タル父ト造成ノ因タル子
 ト成全ノ因タル聖神アルヲ思フベシ即チ服事スルノ神(神使ヲ云
 フ)父ノ旨ニ因テ其存在ヲ受ケ子ノ作用ヲ以テ存在ニ導カレ聖神
 ノ臨在ヲ以テ存在ニ全備セラレタリ』(一)此ハ教會ノ三位ノ三位
 (第二)甲)至聖三者ノ三位共ニ創造ニ與カリタリト爲スズ教會三者

一、一體タルノ教ト三者皆其本性ト神タルノ性質ニ由テ全ク相同シ
 二、ト爲スノ教ヨリシ自然ニ出ルモノナリ而シテ(乙)三者ノ各位ガ創造
 三、ニ與カリタルノ順序ト其多少ハ全ク三者個位ノ順序ト相互ノ關
 四、ニ係ニ相當スルナリ
 五、○卅四、神ガ世界ヲ創造シタルノ狀
 六、神ノ言ヲ按ズルニ神ハ世界ヲ創造スルニ
 一、智識及ヒ睿智ヲ以テセリト爲ス曰ク主ハ睿智ヲ以テ地ヲ基ツケ智
 識ヲ以テ天ヲ建テタリト(箴言三ノ十九又聖詠百三十五ノ五參看)即チ
 永遠ノ事ヲ悉ク其ノ將ニ造ラントスル所ノ物ヲ洞見セシ至極睿智ナ
 ルノ思想ニ適應シテ造レリ蓋神ハ永世ヨリ其ノ凡ソ行フ所ヲ知ル(行
 傳十五ノ十八)
 二、意旨ヲ以テセリト爲ス即チ全ク其欲スル所ニ循テ創造シ決シ己ム

ヲ得ザルニ事情ニ由テ造リタルニ非サルナリ曰ク我等之神天日地
 ニ凡テ其欲スル所ヲ行フ(聖詠百十三ノ十一)主ハ凡ソ欲スル所ヲ天ニ
 地ニ海ニ諸淵ニ行フ(同百卅四ノ六)神曰ク光アルベシト即チ光アリ、
 神曰ク
 三、言ヲ以テセリト爲ス神曰ク光アルベシト即チ光アリ、
 水中宜ク穹蒼アルベシト是ニ於テ此大如キアリ、
 水宜ク一所ニ匯リ乾土ヲ現ハスベシト是ニ於テ此大如キアリ云々(創
 一ノ三、六、九及其以下)彼言フテ即チ成ル命ヲ即チ造ラレタリ(聖詠百
 四十八ノ五)然レテ教會ノ聖師父ハ茲ニ神ノ言ト云フヲ以テ吾人ノ詞
 ニ等シキ音聲言語ヲ指スト爲サス只彼ノ無ヨリノ宇宙万物ヲ造リタ
 ル神ノ全能力ヲ指圖若クハ表顯ニ過キズト爲ス、
 四、吾人ノ智識ヲ以テ全ク曉リ得ヘカラザルニナリトス曰ク我等信
 由テ世ハ神ノ言ヲ以テ造リ見ユル者ハ見エキル者ヨリテ造ラレタ

ルヲ知ル(希伯汁一ノ十三)種類ヲ創造シタルノ順序
 一、○卅五、神ガ受造物ノ重キル種類ヲ創造シタルノ順序
 正教會ノ教ニ由ルニ神ハ最初ニ神靈界ヲ造リ而シテ後六日ノ間ニ物質
 世界ヲ造リ遂ニ第六日ニ人ヲ造レタリト爲ス(正教訓蒙第一條ノ解)
 第二、神ハ最初ニ神靈界ヲ創造セシメ、此教ノ由テ基ツク所ハ
 三、聖創世記記者ノ言ナリ曰ク元始ニ神天地ヲ創造スト(創一ノ一)今吾
 人ガ目ニ見ル所ノ天ハ其穹蒼及ヒ星宿ト共ニ後ニ至テ造ラレ(同上)
 六、八、及十四至十七)タルガ故ニ茲ニ天ト云フヲ以テ穹蒼若クハ凡ソ
 世人ヲ呼ビテ天ト爲ス所ノ者ヲ指スト爲スヘカラズ乃チ聖書ニ於テ
 常ニ天ニ住スト爲ス(哥羅二ノ十六)ノ諸靈ヲ指スト爲スヲ以テ當レリ
 トス何トナレバモイセイハ地即チ太初ノ物質ニアリタル如キ混沌タ
 ル狀ヲ以テ此ノ天ニアリト爲サレハナリ若シ果シ然ラニハ神使

神ヨ以外未タ天物モ有ラシキ時ニ造ラレテ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 タルナリト云フ事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 三、神自ラ其ノ言語ヲ以テ言ナリ曰ク我星宿ヲ造リテ我カ使悉ク大
 聲我ヲ頌讚セ又ト(約百三十八)茲ニ神使ガ第四日ニ星宿ヲ造ラセ
 タル時神ヲ讚揚セリト爲ヌ夫以テ見レハ即チ之ヲ先テ造ラレタル
 明ナリト云フ事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 三、教會ヲ聖師父ノ神使ガ物質世界ニ先テ造ラレタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 確然疑フ事カラサズ神ノ受造物ノ首ト爲セタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 聖大ツキリ曰ク世ノ未ダ有ラサル先ニ世界外ニ諸能力(即チ神使)ニ
 適當ノ時ニ越テ永遠ニ恒ニ保續スルノ情狀アリタリ萬物ヲ創造者
 及ヒ造成者ハ此レニ主ト愛スル者ノ幸福ニ適當スル無形ノ光ト智ア
 リテ見エサレ者及ヒ吾人ノ得テ了解スヘカラサズ無形ノ造物ノ修飾

ヲ造レリ吾人ハ此造物ニ付テハキ名稱ヲモ發明スル能ハズ彼等ハ
 乃チ現エタル世界ヲ究メテ「神ノ受造物ノ首ト爲セタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 神學者聖ツキリ曰ク神ハ最初ニ神使ト天軍トヲ意ヒ而シ其意ハ
 即チ事實ヲ爲リテ言フ之ヲ成シ聖神ノ之ヲ全クセリ初造ノ者
 ハ彼レノ悦フ所ヲ爲リタルニ由リ他ノ見ユル物質世界ヲ意ヒテ
 此レ即チ天地及ヒ其間ニ在ル所ノ整然タルモノナリト云フ事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 金口聖イサア曰ク「神ハ神使神使長及ヒ其他ノ無形体ノ者ヲ創造セ
 リ而シ之ヲ創造スルヤ他ノ故ニ非ス即チ唯其仁慈ヲ以テセザルヤ、
 己ニ彼等ヲ造ルニ及ビ前ト同シキ理由ヲ以テ入ト云フ(見ユル)世界
 ヲ造レリ」ト云フ事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セタル事トハ神ノ受造物ノ首ト爲セ
 第三、神ハ六日ノ間ニ物質世界ヲ造リ遂ニ第六日目ニ人ヲ造レリ即チ
 創世記ノ開卷ニ記スルガ如ク吾人ハコノモイセイノ言フ所ヲ認メテ

歴史は爲るべき事カラス何ト云ハレハ
 一、モテセル自ラ之ヲ認メテ歴史は爲るべき事ニ因テ抑、モイセルハ此記
 ナリトイズライリ人ニ世界及ヒ人間ノ創造者タル神ノ下ノ確實正當
 ナルヲ理解傳ヘシト欲シテ書キタル已ニ史書ノ開卷ニ載セテ故
 ニ若シモイセルハ茲ニ何人モ解スヘクテ其奥妙ノ意ヲ含マセタラ
 シニ是レ其素志ニ背キテ爲ル事ト爲レ得サレバ加之モイセル
 此後ハズラシク與人共ニ與ヘテ之ヲ安息日ノ律法トシテ此說ニ基ツクト爲
 シ此法ヲ述フ時ニ當リテ益明ニ此ノ六日創造ノ說ヲ述ベテ之ヲ彼曰
 以爾宜ク安息日ヲ記憶シテ之ヲ聖ト爲スベシ六日ノ間ハ宜ク勞シテ
 爾等諸工ヲ作スベシ第七日ハ乃チ爾等主神ノ安息日也是日ハ諸工ヲ
 作ス毋レハ、蓋六日ノ間ニ主ハ天地海ト其中ノ万物トヲ創造シ七
 日ニ至テ安息セ故ニ主ハ安息日ヲ祝フテ之ヲ聖ト爲セリ(出埃廿ノ

八至十二)又曰ク古クテイサカノ嗣宜ク安息日ヲ守リ其歴代ニ迄ルマデ
 之ヲ祝スベシ、蓋六日ノ間ニ主ハ天地ヲ創造シ第七日ニ至リ安
 息休憩セリ(同上三十一ノ十六、十七)

三、他ノ聖書ノ記者等ハモイセル所ニ認メテ歴史ト爲シタルニ
 因テ例ヘバモイセルハ己ノ書ニ神ハ言テ以テ世界ヲ造リ而シテ神
 ハ其ノ初造ル混沌タル物質ノ上ニ覆育セリ(創一ノ二)ト記スルニ聖詠
 者ハ呼シテ曰ク天ハ主ノ言ニテ造ラレテ天ノ衆軍ハ其日ノ氣(神)ニテ造
 ラレタリト(聖詠三十二ノ六)聖詠者又曰ク彼言ヘバ則チ成命スレバ
 則チ顯カレタリト(同上九)又モイセルハ元始ニ暗ハ創造セラレタル所
 ナリ萬物ヲ蔽ヒ而シテ神ハ光アルベシト曰ヘバ即チ光ヲ創一ノ三)ト記
 スルニ聖使徒パウロハ其書ニ謂テ曰ク光ニ命ヲ暗ニ照サシムル
 神ハ我等ノ心ヲ照ス神ノ榮耶蘇基督ノ面ニ顯ケル事ヲ知ラシムル

ヲ致ス云々(哥後四ノ六)又モイセイハ神ガ穹蒼以下ノ水ト穹蒼以上ノ水トヲ分テリ(創一ノ七)ト記スルニ聖詠者ハ神ノ諸ノ造物ヲ呼ンテ造物主ヲ頌讚スルニ當リ諸天ノ天ト天ヨリ上ナル水ヤ彼(主)ヲ讚メ揚メ
 曰(聖詠百四十八ノ四)ト云テ此穹蒼ノ上ニ在ル水ハ行テ記ス又モイセイ
 利ハ神ガ日月星辰ノ如キ天ヲ列光ヲ造リタルハ一ハ以テ時ヲ號ト爲
 サメガ爲メナリ(創一ノ十五)ト記スルニ聖詠者亦呼シテ曰主ハ月ヲ
 造リテ時ヲ定メト(聖詠百三ノ十九)ト記スルニ
 三、教會ノ聖師父等ガモテセリノ言ヲ所ヲ認メテ歴史ト爲シタルニ因
 於即チアズテイセイビヤノエオフィル、トッボリ、大カシ、チ、金口、チ、ア、シ、大
 アズ、チ、イ、ア、シ、チ、ロ、イ、ニ、サ、ノ、グ、リ、ゴ、リ、イ、エ、ピ、フ、ニ、イ、フ、エ、オ、ド、リ、ト、等
 大カシ、チ、イ、ア、シ、チ、ロ、イ、ニ、サ、ノ、グ、リ、ゴ、リ、イ、エ、ピ、フ、ニ、イ、フ、エ、オ、ド、リ、ト、等
 八、モイセイハ言フ所ノ六日創造ノ説ニ關シテ注意スルニキ者左ノ如

シ、二、モイセイハ創造ヲ二大種類ニ區別シテ順次ニ行ハレタル者ト

爲ス其一ハ即チ眞ニ創造ト言フヘキニシテ造物主ガ無ヨリ萬物
 ヲ造リタル太初ノ創造ナリ即チ元始ニ神ガ天地ヲ創造シテ(創一
 ノ二)世界ノ有ラレタル萬物ノ根原若クハ萌芽ヲ含有スル所ノ物質
 ヲ造リタル者はナリシラフノ明哲ナル子モ此意ヲ以テ世々ニ生
 活スル者ハ萬物ヲ造レリ(シラフ書十八ノ二)ト云ヘリ又其三ハ即
 チ既ニ備ハリタル初造ノ混沌タル物質ヨリ造リ出セシムルニ六
 日ノ間ニ行ハレタル所ノ創造是ナリソノモツガ神ノ全能ノ手ハ
 世界ヲ混沌タル物質ヨリ創造セリ(智慧書十一ノ十八)ト記スルハ
 コノ創造ヲ指シテ言ヘシト固ヨリ疑ナシ
 二、モイセイハ全物質世界ノ起源(即チ世界開闢説)ヲ述フル者ニ

一地球ノ起源即(テ)地原之理(ト)説ク(ト)非(ク)何(レ)ナ(レ)モイセイ
 ハ始(メ)神(ハ)天(地)即(チ)全世界(ヲ)創造(セ)リ(ト)云(ヒ)而(シテ)後(ニ)光(ノ)創造(天
 ノ)穹(蒼)ヲ(創造)并(ニ)列(光)即(チ)日(月)星(ヲ)創造(シ)テ(記)ス(レ)バ(ナリ)然
 レ(モ)亦(一)方(ヨリ)之(ヲ)見(レ)バ(モ)イセイ(ハ)此(地)ト(此)地(上)ニ(接)息(ス)ル
 者(ヲ)起(原)ヲ(記)ス(ル)ヲ(以)テ(主)眼(ト)ナ(シ)之(ヲ)述(ス)ル(ノ)殊(ニ)詳(密)コ(シ)
 テ(天)ト(天)上(ノ)諸(物)ニ(關)シ(テ)ハ(唯)此(地)ニ(關)係(ス)ル(ノ)ヲ(述)ベ(傍
 ラ)之(ヲ)言(フ)ガ(如)キ(ノ)意(ヲ)以(テ)記(ス)ル(ノ)固(ヨ)明(カ)ナ(リ)故(ニ)例(ニ)
 ハ(天)上(ノ)列(光)ノ(創造)ヲ(記)ス(ル)ニ(當)リ(テ)ハ(唯)彼(等)ガ(此)地(ニ)關(係)ス
 有(ス)ル(所)ノ(關)係(ノ)ヲ(述)ベ(之)ニ(名)ヲ(與)シ(性質)ヲ(付)ス(ル)ニ(モ)皆(唯
 コ)ノ(地)ヨリ(取)與(ス)且(付)ス(ル)ヲ(得)可(キ)者(ヲ)以(テ)記(ス)ル(ノ)固(ヨ)明(カ)ナ(リ)
 三、モイセイ(ハ)世界(ト)地球(ヲ)起(源)ヲ(記)ス(ル)者(ニ)シ(テ)其(改)新(ノ)ヲ(述)
 云(フ)ニ(非)ズ(何)ト(ナ)レ(バ)元(始)ニ(神)天(地)ヲ(創造)セ(リ)ト(記)ス(是)レ(即)チ

未(タ)一(物)モ(有)ラ(サル)時(ニ)創(造)セ(シ)コ(シ)云(フ)ナ(リ)後(又)神(曰)ク(宜)ク
 光(有)ル(ベ)シ(ト)即(チ)光(アリ)シ、宜(ク)穹(蒼)アル(ベ)シ、天(ノ)穹
 蒼(ニ)宜(ク)列(光)アル(ベ)シ(ト)云(フ)ガ(如)キ(モ)皆(是)レ(明)ニ(會)テ(一)物(モ)有
 ラ(サ)リ(シ)コ(シ)証(ス)ル(ノ)言(ナ)リ(遂)ニ(モイセイ)ハ(夫)レ(是)ヲ(如)ク(天)地
 及(ヒ)其(衆)軍(皆)備(ハ)レ(リ)(創)二(ノ)一(ト)云(フ)ノ(言)ヲ(以)テ(其)記(ヲ)終(ル)ヲ
 見(レ)バ(是)即(チ)此(時)始(メ)テ(備)ハ(リ)始(メ)テ(終)ハ(レ)ル(者)ニ(シ)テ(前)ニ(ハ
 一)物(モ)有(ラ)サ(リ)シ(コ)シ(明)カ(ナ)リ

四、モイセイ(ハ)神(ガ)最(初)ノ(創)造(ニ)無(ヨ)リ(萬)物(ヲ)生(セ)シ(時)ノ(ミ)ナ(ラ
 ズ)六(日)ノ(間)彼(ノ)已(ニ)完(備)シ(タル)ノ(物)質(ヨ)リ(ノ)世(界)ノ(諸)種(ノ)物(体
 ヲ)造(リ)シ(時)ニ(モ)自(ラ)己(ノ)直(接)ノ(能)力(ヲ)以(テ)働(キ)シ(コ)シ(證)ス(神)曰
 シ(宜)ク(光)有(ル)ベ(シ)ト(即)チ(光)アリ(神)曰(ク)水(中)宜(ク)穹(蒼)アル(ベ)シ(ト
 是)ニ(於)テ(此)ノ(如)キ(アリ)神(曰)ク(地)ハ(宜)ク(各)其(類)ニ(從)テ(有)生(ノ)諸(動

物ヲ生スルハ是ニ於テ此ノ如キアリ云々是ニ由テ之ヲ觀レバ
 世界ト地球ハ万有ノ勢力ト法則ニ從テ成立セリト爲スベカラサ
 ルヤ誠ニ明ナリ此勢力ト法則ノ世界ニ其作用ヲ顯シタルハ既ニ
 此世界ガ其完全ノ存在ヲ受ケタル後ニアルモノニ即チ神ガ此
 世界ニ與ヘタル所ノ者ナリ然レモ神ガ天地ヲ造リ已テ全能力ヲ
 以テ諸種ノ物体ヲ造リシキハ固ヨリ自ラ萬有ノ法則ト勢力ニ從
 ヘタルニ非ズ例ヘバ神ガ初人ヲ創造スルヤ直ニ之ヲ成年ノ者ニ
 造レリ(地上ノ諸動物モ亦皆然リ)然ルニ今万有ノ勢力ト法則ニ循
 フキハ初人ガ成年ニ達スルマデハ必ス數多ク年月ヲ要スベシ
 五、モイセイノ所謂創造ノ六日ハ尋常ノ日ヲ謂フナリ何十ナレバ
 モイセイハ各日ヲ分ツニ晝夜ヲ以テシテ夕有リ朝有リ是乃チ
 第一日、夕有リ朝有リ是乃チ第二日云々云々云々ナリ加

八之我輩ガ前ニ述ヘタル如クモイセイハ神ガ六日ノ間ニ悉ク萬物
 ヲ創造シ之ヲ終ル旨及ビ安息シテ第七日ヲ聖ト爲セシユニ準シ
 テイズライカ人ニ誠ムルニ一週ノ間六日ヲ操作シ第七日ヲ安息
 日ト以テ己ノ主神ニ獻スヘキヲ以テセリ(出埃廿ノ八至十一及三
 十一ノ十六十七)

六、モイセイガ世界ノ六日創造ノ下ニ記スル者其目的普ク衆人ニ
 了解シ易カラシメント欲スルニ在ルヲ以テ格物學士人如クコソ
 之ヲ述ベス賢明ニ神ノ默示ヲ蒙レル宗敎ノ師ノ如クコソ之ヲ
 記ス故ニモイセイガ萬事ニ關シテ傳フル所ノ理解ハ皆固ヨリ眞
 實ナレドモ人間一般ノ思想ニ適應シテ之ヲ述ブレ例ヘバ造物主ノ
 高尚ナル作用ヲ云フニ當リテハ可能丈ケ其高尚ノ点ニ應シテ之
 ヲ述ブレト雖モ有形物ニ相當スル形容ヲ以テ之ヲ述ベ物体世界

ノ諸物ヲ記スルニモ、學士ノ看ルカ如クニ記セスノ平人ノ目ヲ見
ユルカ如クニ記ス

○卅六、神ノ世界ヲ創造セシ所以及ヒ其目的
正教會ハ吾人ニ此事ヲ教フルコト左ノ如シ曰ク「宜ク信スヘシ神ハ仁且
至善ニシテ自ラ極全極美ナレドモ亦他ノ諸物ヲノ已チ讚揚シ已チ惠
ニ浴ハシメントシテ無ヨリ世界ヲ造レリ」正教宗門上篇第八問ノ答是
即チ教會ハ純ラ造物主ノ無限無量ノ仁慈ヲ以テ世界創造ノ因ト爲シ
又受造物ガ一ハ造物主ノ榮ヲ顯ハシ一ハ自ラ幸福ヲ享受スルコトヲ以
テ世界創造ノ目的トナスナリ
一、至上者ガ此宇宙ヲ造リタル所以ノ意若クハ原因ハ彼レノ無限ノ仁
慈ナリ、聖書ニ(甲)此意ヲ合ム所ハ神ヲ至極完全ノ者ト爲シ(馬太五ノ四
十八)至極光榮ノ者トナシ(同廿三ノ十)至極幸福ノ者ト爲シ(提前一ノ十

一)何人ニモ何物ニモ需ツ所アラサル者ト爲シ(行傳十七ノ廿五、廿六)永
遠ヨリ世界ノ有ラサルヲ獨リ存在セリ(聖詠八十九ノ三、以弗一ノ三、四)
ト爲スノ所ナリ是ニ由テ視レバ神若シ他ノ諸物ヲ生スルヲ欲セス
ハ永遠ニ至ルマデモ亦自ラ存在スルヲ得タリシナラン(乙)又明カニ右
ノ意ヲ顯ハス所ハ吾人ノ目チ神ノ造物ニ向ケテ主ハ悉クノ者ニ仁慈
ナリ其宏慈ハ其悉クノ作爲ニアリト云ヒ(聖詠百十四ノ九或ハ吾人ヲ
シテ創造ニ於テ顯ハレタル神ノ矜恤ヲ承認セシメテ主ヲ讚榮セヨ其
憐矜恤ハ世々ニアレバナリ、睿智ヲ以テ天ヲ造リシ者(チ讚榮セ
ヨ)其憐ハ世々ニアレバナリ地ヲ水ノ上ニ定メシ者(夫讚榮セヨ)其憐ハ
世々ニアレバナリ(同上百三十五ノ一至九)ト云フノ言ナリ
二、世界創造ノ目的ハ先ツ神ノ榮ヲ顯ハスヲ大リ、聖書ニ(甲)概シテ此意
ヲ顯ハスハ主ガ已チ爲メニ万物ヲ造レリト云ヒ(箴言十六ノ四)並ニ

萬物彼ニ本ツク(希伯二ノ十)ト云フノ言ニメ(乙)更ニ明白直接ニ此意ヲ顯ハス天ハ神ノ光榮ヲ傳フト云ヒ(聖詠十八ノ一)又全地ハ主サワチ
 フノ光榮ヲ以テ充滿ス(以賽六ノ三)ト證スルノ言ナリ(丙)又確然明白ニ
 右ノ意ヲ顯ハスハ吾人ニ誠メテ故ニ宜ク爾ノ身ヲ以テ爾ノ靈ヲ以テ
 榮ヲ神ニ歸スヘシ此レ皆神ニ屬スレバナリト云ヒ(哥前六ノ廿)又爾等
 或ハ食ビ或ハ飲ミ何ノ行ヲ論ヒテ悉ク宜ク神ノ榮ノ爲ニ之ヲ行フ
 ベシ(哥前十ノ三十一)ト云フヲ言ナリ(丁)又爾等ハ
 三、世界創造ノ第二ノ目的ハ造物其者ヲ幸福ヲ享受セシムルコトナリ
 若シ夫レ神ハ此宇宙萬物ヲ造ルヤ他ノ諸物ヲシテ亦存在ノ快樂ヲ受
 ケルメ之ヲ欲スルヤ仁慈ニ浴セシムルコト欲スルヲ其無限ノ仁慈ニ由
 テ之ヲ遺ルコトセバ世界創造ノ目的ノ一モ亦茲ニ存スル言ハス
 テ明ナリ神ハ此目的ニ應ジ常ニ息マラスニ己ハ造物ニ惠ヲ施シ(行傳

十四ノ十七)自ラ生命ト呼吸ト萬物トヲ以テ衆ニ予ヘ(同上十七ノ廿五)
 且我等ヲ樂マシメシトシテ諸物ヲ豐カシ賜ヒ(提前六ノ十七)萬物ハ其賜
 ニ充テレ(聖詠百三ノ廿八)悉クノ生ケル者ニ惠ミテ賜フ(同上百四十四
 ノ十六)加之徳義心ヲ具フルニ受造物即チ人間ハ其首要ノ目的タル造
 物主ヲ讚榮スルコトニ趨向シツ、之ヲ以テ既ニ己ノ幸福ヲ受クルナリ
 何トナレハ彼等ガ直ニ神ヲ讚榮スルニハ救世主ノ我等ニ誠メタルガ
 如ク善行ト敬虔ノ生活ヲ以テスルノ外他ニ道ナシ(馬太五ノ十六)而シテ
 善行ノ結果ハ彼レノ幸福ヲ教ニヨレバ即チ幸福ニシ(同上五ノ三至十
 二)又敬虔ハ使徒ノ言フ如ク凡ソノ事ニ於テ益アリ今生及ヒ來生
 應許ヲ得ルカ故ナリ(提前四ノ八)
 ○卅七、神ノ造物ヲ善美ナルコトヲ示スル言ハ、
 聖書ハ凡ソ神ノ造リタル所シモノハ皆善美ニ造ラレタリト爲ス即チ

聖創世記記者ハ創造ノ日述フルニ當リテ數々神之ヲ觀テ善ト爲ス
 ト記(創二ノ四、十、十二、十八、廿一、廿五其記ヲ結フニ當リテ曰ク神ハ凡
 ツ其造ル所ノ者ヲ觀テ甚善ト爲スト(同上三十節)後代ノ記者モ亦皆此
 意ヲ顯ハス例ヘバ聖詠者曰ク主ヤ爾ノ工業ハ何ゾ多キヤ皆智慧ヲ以
 テ作レリト(聖詠百三ノ廿四)傳道ノ書ニ曰ク萬物ヲ造ル各美ヲ其ノ已
 ノ時ニ爲セリト(三ノ十一)聖使徒パウエル曰ク神造ル所ノ者皆美ナリト
 (提前四ノ四)

第二 神ガ世界ノ照管者タル事
 ○卅八 神ノ照管ノ解其作用及ヒ種類
 一、神ノ照管トハ神ガ常ニ其ノ全能ト睿智ト仁慈トヲ以テ受造物ノ生
 存ト勢力ヲ保護シ之ヲ善良ノ正鵠ニ向ハシメ善ハ之ヲ幫助シ又善

ニ遠サカルニ由テ起ル所ノ惡ハ之ヲ絶テ若クハ之ヲ改メテ善良ノ結
 果ニ歸セシムルノ作用ヲ云フナリ(正教訓蒙信經一條ヲ解)
 二、神ノ照管ノ解果ノ此ノ如シトスレバ此ニ三ツノ作用有ルヲ知ルベ
 ヲ即チ造物ヲ保護シ之ヲ幫助シ及ヒ治理スルヲナリ、造物ヲ保護スト
 ハ全能ノ神ガ全世界并ニ凡ソ世ニ有ラニル萬物ヲ其生存ヲ保タシ
 ヲ併セテ其能力法則動作ヲ保護スルノ作用ナリ又造物ヲ幫助ストハ
 至仁ノ神ガ造物ヲシテ其自己ノ勢力法則ヲ利用セシメシ、亦之ニ己
 ノ幫助ヲ顯ハシ其働キヲ爲ス時ニ於テ之ヲ助ケルノ作用ナリ彼ノ智
 識ト自由ヲ具ヒ神靈的ノ生活ニ上達セシガ爲メ常ニ神ノ恩寵ヲ要ス
 ルノ人間ハ殊ニ深ク此作用ヲ感覺スルナリ然レバ神ガ人間ニ對シテ
 實際其幫助ヲ顯ハスハ唯彼等ガ自ラ好メテ善ヲ擇ビ之ヲ行フ時ニ
 アルモノニ彼等ガ恣ニ惡ヲ擇ビ之ヲ行フ時ノ如キハ神ハ只其事ヲ

行フヲ放任スルノミコシテ決シテ幫助ヲ與フルニ非サルナリ何トナレ
 ハ神ハ決シテ惡ヲ行フ能ハズ而シテ其ノ自ラ人間ニ與ヘタル所ノ自由ハ
 之ヲ奪フコトヲ欲セサレバナリ又造物ヲ治理スルハ無限ニ睿智ナルノ
 神ガ造物ノ生命ト働キトナシテ之ニ預定セラレタルノ正鵠ニ向ハシ
 メ惡事ハ可能丈ケ之ヲ改メテ善良ノ結果ニ歸セシムルノ作用ナリ是
 ニ由テ之ヲ視レバ前記セル神ノ照管ノ作用ハ互ニ相異ナル者タルコ
 明カナリ即チ保護ナルモノハ造物ノ生存并ニ其勢力ト作用トニ關係
 シ幫助ハ專ラ勢力ノ一点ニ關シテ治理ハ造物ノ勢力ト作用トニ關ス之
 ナ約言セバ神ハ世界ノ萬物ヲ保護シ獨リ善事ノミヲ幫助シ惡事ハ只
 人ノ之ヲ行フニ任セ且萬物ヲ治理スルナリ
 三、神ノ照管ハ通例之ヲ分テ二類ト爲ス即チ一般ノ照管及ヒ個々ノ照
 管是ナリ、一般ノ照管ハ全世界一般ニ關シ又其種類ノ如何ヲ問ハズ萬

物ニ及フ所ノ者ニシテ個々ノ照管ハ世界ノ個々ノ物ニ及ビ微々瑣細
 ノ者アリトモ一トシテ此ノ照管ヲ受ケサルモノナシ正教會ガ神ハ『小ヨ
 リ大ニ至ルマテ詳ニ萬事ヲ知リ又搭別ニ各造物ヲ照管ス』正教宗門上
 篇廿九問ノ答ト信スルハ無論照管ニ右ノ二種類アルヲ認ムルモノナ
 リ

○卅九神ノ照管ノ眞實ナルコト

第一、神ガ世界ヲ照管スルノ眞實ナルコトハ聖書ニ其證多クノ勝テ數フ
 ヘカラズ例ヘバ(甲)イナフノ書ニ曰ク神ハ地ノ極ヲ鑒ミ遍ク天下ヲ觀
 ル(廿八ノ廿四)又曰ク諸活物ノ氣ト諸人ノ靈其手ニ在ルニ非ズヤ(十二
 ノ十)乙)聖詠ニ曰ク爾地ヲ立テ、地即チ立ツ爾ノ定ニ循テ皆立テ今ニ
 至ル蓋悉ク爾ニ務ム(百十八ノ九十、九十一)マトフエイノ福音ニ曰ク爾ノ
 父天ニ在ル者ノ子トナルベシ蓋彼其日ヲ善者不善者ノ上ニ升セ雨ヲ

義者不義者ノ上ニ降ス(五ノ四十五)丁使徒行傳ニ曰ク(神ハ)未ダ嘗テ已
 ナ無證ニ遣サズ乃チ人ヲ惠ミテ雨ヲ天ヨリ降ラセ果實時ヲ以テ蕃生
 シ糧食ト喜悅トヲ以テ我等ノ心ヲ滿タス(行傳十四ノ十七)
 第二、教會ノ聖師父ハ一ハ神ヲ以テ世界ノ造物主ト爲スノ理解ニ基ッ
 キ一ハ世界ヲ以テ神ノ創造ニ係ルト爲スノ理解ニ基ッキ智識上ヨリ
 シ亦照管ノ眞實ナルコトヲ證セリ
 一、彼等ガ第一ノ理ニ基ッキテ言フ所ヲ舉レバ曰ク(甲)造物主ノ仁慈ヲ
 ル無限無量ナルヲ以テ專ラ其仁慈ニ因テ造リタル己ノ造物ヲ照管セ
 ズシテ之ヲ放棄スルノ理決メ有ルナシ(乙)又曰ク造物主ハ在ラザル所
 ナキヲ以テ凡ソ有ラユル造物ト偕ニ直接ニ其狀況ト需求ヲ洞觀ス
 故ニ神ニ或ハ仁慈ヲラズ或ハ活動セザランコトハ世界ヲ照管スルコ
 ナカル可キモ此理決シ有ルナシ(丙)又曰ク造物主ハ全能ナルヲ以テ世

界ヲ照管スルコト甚容易ナリト
 二、教會ノ諸師ガ世界ヲ觀察シテ特ニ其意ヲ注シ所ハ(甲)世界ハ素ト無
 ヨリシ存在ヲ受ケ恒ニ無ノ下ニ在ルヲ以テ神ノ照管ヲ受クハ自ラ存
 在スルコト能ハサルベシト云フノ点ト(乙)世ニ神ノ照管ヲクシハ今吾人
 ノ目撃スルガ如キ整々タルノ秩序此世ニ行ハレスシテ物皆其界ヲ越
 ヘ秩序紛乱シテ自滅ヲ招クベシト云フノ点ニアリ
 ○四十、神ノ照管ノ各作用并ニ其ニ大種類ノ眞實ナルコト
 第一、聖書ハ概シテ神ガ世界ヲ照管スト爲シツ、亦其照管ニ三ツノ作
 用アリト爲ス即チ神ハ

一、造物ヲ保護スト爲ス(甲)聖詠者ハ百三ノ聖詠全篇ニ於テ之ヲ詳述シ
 殊ニ左ノ諸節ニ之ヲ明示ス曰ク彼等ハ皆爾ヨリ時ニ隨フテ食物ヲ予
 フルヲ待ツ(廿七)彼等ニ予フレバ受ケ爾ノ手ヲ開ケハ賜ニ饜サレ(廿八)

爾ノ顔ヲ隠クセバ懼レ彼等ノ氣ヲ取上レバ死シテ塵ニ歸ル(廿九爾ノ氣神)ヲ施セバ造ラレ爾ハ亦地ノ面ヲ新ニス(三十)又(乙)使徒パウエル曰ク神ハ需ツ所アル者ノ如ク人手ノ事アル所トナラズ自ラ生命ト呼吸ト萬物トヲ以テ衆ニ予フ(行傳十七ノ廿五)

二、造物ヲ幫助シ及ヒ放任スト爲ス、聖書ニ神ガ造物就中德義心ヲ具フルノ人間ヲ幫助ストノ意ヲ顯ハスコ左ノ如シ曰ク神ハ其大能ノ言ヲ以テ萬物ヲ扶持ス(希伯一ノ三)曰ク生ヲ萬物ニ施ス(提前六ノ十三)曰ク神ハ己ノ善意ニ循テ我等ノ中ニ行ヒ我等ヲ志ヲ立テ事ヲ行ハシム(腓立二ノ十三)曰ク我等彼ニ頼テ生キ且動キ且存ス(行傳十七ノ廿八)是ナリ又聖書ハ神ノ放任ノ意ヲ示ス例ハ聖使徒パウエル異邦人ノコトヲ謂テ曰ク此ニ緣テ神ハ其醜慾ヲ縱ニスルヲ聽セリト(羅馬一ノ廿六)又イウデヤ人ノコトヲ謂テ曰ク神之ニ賦スルニ昏昧ノ靈見サルノ目、聞カ

サルノ耳ヲ以テセリト(同上十一ノ八)

三、造物ヲ治理スト爲ス、神ノコノ作用ヲ證スルモノハ(甲)ダウイド王ノ祈禱ナリ曰ク主ヤ大ト能ト榮ト勝ト威ト俱ニ爾ニ屬ス蓋凡ソ天ニ在リ地ニ在ル者皆爾ニ屬ス、爾ノ手ニ能ト力アリ凡ソ物ヲ大ダラシメ且堅フスルハ皆爾ノ權内ニアリト(歷代上廿九ノ十一十二)(乙)預言者ダニイルノ言ナリ曰ク彼レ時ト序トヲ變シ王ヲ廢シ王ヲ立テ智慧ヲ以テ智慧者ニ賜ヒ知識ヲ以テ明哲者ニ賜フ(但以二ノ廿四)

第二、又聖書ハ神ノ照管ノ作用ハ概シテ世界ト諸種ノ物体ニ及ブノミナラズ亦特ニ其創造シタル所ノ各物体ニ及ブト爲ス即チ啻ニ一般ノ照管アルノミナラズ個々ノ照管アリト爲ス、此意ハ

一、聖詠者ノ言ニ見ユ曰ク悉クノ者ノ目ハ爾ヲ望ム爾ハ時ニ隨フテ彼等ニ糧ヲ賜フ爾ノ手ヲ開キ恵ヲ以テ悉クノ生イル者ニ飽カセ給フ(聖

詠百四十四ノ十五十六又曰夕琴ヲ以テ我カ神ニ歌ヘヨ彼ハ雲ヲ以テ
 天ヲ覆ヒ地ノ爲ニ雨ヲ備ヘ山ニ草ヲ生シ人ノ需メニ野菜ヲ生セシム
 食ヲ以テ獸ニ予ヘ彼ヲ呼フノ鴉ノ雛ニ予フ(同上百四十六ノ七至九)
 二、救主ノ言ニ見ユ曰ク爾ノ父天ニ在ル者ノ子トナルニ蓋彼其日チ
 善者不善者ノ上ニ升セ雨チ義者不義者ノ上ニ降ス(馬太五ノ四十六試
 二) 天空ノ鳥チ觀ヨ彼レ稼セズ穡セズ倉ニ積マズ然レモ爾ノ天父之チ
 養フ爾ハ鳥ヨリ貴キニ非ヌヤ(同上六ノ廿六試) 思ヘ野ノ百合ノ花如
 何ニノ長スルヤ彼レ勞セズ紡セス惟我爾ニ語ラシシロモシハ榮華ノ
 極ニ於テヌヲ其衣猶コノ花ノ一ニ及バヌ夫ノ野草ハ今日存シテ明日
 滅ニ投セラル、モ神猶之チ衣被スル此ノ如シ況ニ爾等小信ノ者チヤ
 (廿八至三十) 二雀ハ一分金ノ爲ニノ售ラル、ニ非ヌヤ若シ爾ノ父許サ
 ズヤ則チ其一モ地ニ隕チヌ爾ノ頭髮モ亦皆數ヘラル(十ノ廿九三十)

神ガ己ノ悉クノ造物チ照管セスト爲シ若クハ彼レノ照管ハ唯世
 界ノ大ナル物體ト物體ノ大種類チ包括スルノミニニ微々タルノ
 小物體ニマデ其効用チ及ホサズト爲ストハ神ガ其ノ悉クノ造物
 チ照管スル能ハサルカ若クハ之チ照管スルチ欲セスト爲スニ非
 スンバ言フ可ラサルナリ然レモ神ハ知ラサル所ナク至極睿智
 ニノ且全能ナルチ以テ第一ノ説チ可トスル能ハズ又神ハ無限ニ
 仁慈ニノ且常ニ動作スルチ以テ(約翰五ノ十七) 第二ノ説チモ可ト
 スル能ハズ神若シ獨大ナル物體ノミナラズ瑣細微小ノ者ヲ創造
 スルモ自ラ己ノ威嚴チ損スル所ナシト思惟シタランニハ之チ照
 管スルモ亦敢テ其威嚴チ損スルノ理ナシ况ンヤ物體ハ唯其相互
 ノ比較ト吾人ノ見ル所ニ由テ大小ノ差チ呈スルニ過キヌシテ造
 物主全能者ノ無限ノ威嚴ニ對シテハ世ニ一モ大ナル者ナク又凡

ソ神ノ之ヲ存在チ得セシメタル所ノモノナラバ彼レノ無限ノ仁慈ニ對シテ一モ小ナル者アルホキニ於テサヤ

○四十一、至聖三者ノ諸位照管ニ與カルト
聖書ハ照管ノ事モ亦創造ノ事ノ如ク神ノ三位皆之ニ與カルト爲ス即チ照管ヲ以テ

一、神父ニ歸ス、例ハ救主ノ言ニ曰ク爾ノ父天ニ在ル者ノ子ト爲ルベシ蓋彼其日ヲ義者不義者ノ上ニ升セ雨ヲ善者不善者ノ上ニ降ス(馬太五ノ四十五)試ニ天空ノ鳥ヲ觀ヨ彼レ稼セズ穡セズ倉ニ積マズ然レモ爾ノ天父之ヲ養フ(六ノ廿六)

二、神子ニ歸ス、聖使徒神子ノヲ謂テ曰ク彼萬物ニ先ダチ萬物彼ヲ以テ立ツ(哥羅一ノ十七)彼レ大能ノ言ヲ以テ萬物ヲ扶持ス(希伯一ノ三)

三、神聖神ニ歸ス、聖詠者ハ神父ヲ呼ンデ云フノ言ニ於テ聖神ガ物体世

界ヲ照管スルノ意ヲ述ヘテ曰ク彼等ハ皆爾ヨリ時ニ隨フテ食物ヲ予フルヲ待ツ彼等ニ予フレハ受ケ爾ノ手ヲ開ケハ賜ニ饜サレ爾ノ顔ヲ隠クセバ懼レ彼等ノ氣ヲ取上クレバ死シテ塵ニ歸ル爾ノ氣(神)ヲ施セバ造ラレ爾ハ又地ノ面ヲ新ニス(聖詠百三ノ廿七至三十)ト又使徒ハ聖神ガ道德界ヲ照管スルノ意ヲ述ヘテ曰ク恩賜殊ナルアリ惟神ハ同ク一ナリ、ハ、神ノ顯各人ニ賜フテ益ヲ獲セシム、ハ、此等ノ事ヲ行フハ同ク此レ一神ノ意ニ任セテ各人ニ頒與スルモノナリ(哥前十二ノ四、七、十一)

第貳章 神ガ造物主及照管者トシテ神靈界ニ對スル關係ノ事

○四十二、神靈界ノ善靈及ヒ惡靈ニ區別セラル、事并ニ神ガ造物主及ヒ照管者トシテ彼等ニ對スルノ關係

正教會ノ教ニ依ルニ神靈界ハ二種ノ靈ヨリ成ル一ハ即チ善靈ニシテ別ニ神使ト稱セラル二ハ即惡靈若クハ魔鬼ナリ神ハ此魔鬼ヲモ善靈ニ造リタレドモ其意ニ由テ惡ト爲レリ(正教宗門上篇十九至廿一問ノ答)神ガ造物主トシテ善靈ト惡靈ニ對スルノ關係ハ相異ナル所ナシ即チ神ハ二者ニ均シク存在ヲ賜ヒ亦之ニ同一ノ本性勢力才能ヲ賦與シタリ然レモ照管者トシテ善靈ト惡靈ニ對スルノ關係ハ相同シカラズ即チ善靈ニ對シテハ其ノ善事ヲ行フヲ助ケ其存在ノ目的ニ應シテ之ヲ治理シ惡靈ニ對シテハ曾テ其ノ罪ニ陷ルヲ聽シ今又其ノ惡ヲ行フニ任セ只之ヲ制限シテ可能善良ノ正鵠ニ向ハシメントス

譯者云善靈惡靈ノ靈ノ字并ニ鬼或ハ汚鬼ノ鬼ノ字ハ原文聖神ノ神ト同字ナリ故ニ之ヲ神ニ改ムベキ答ナレドモ神使ヲ指シテ善神ト云ヒ惡鬼ヲ指シテ惡神ト云ヒ又ハ之ヲ神或ハ汚神ト稱スルハ甚紛ハシキヲ以テ茲ニ靈若クハ鬼ト譯セリ

第一 善靈即チ神使ニ對スルノ關係

○四十三、神使ノ解、其存在ノ確實ナルコト及ヒ彼等ノ神ニ造ラレタル

第一、アソシロス(希臘語譯スルハトハ職稱ニシテ其性質ヲ示スモノニ非ズ故ニ聖書ニ於テ「イニゴワ」ノ諸ノ使者即チ其旨ヲ人ニ報スルノ諸人ニ此稱ヲ付スルモ亦怪ムニ足ラザルナリ例ヘバモイセイニ付シ(民數廿ノ十六)其他ノ預言者ニ付シ(哈基一ノ十三、以賽卅三ノ七)救主ノ前驅ニ付シ(馬太十一ノ十)諸使徒ニ付シ(路九ノ五十二)教會ノ司長ニ付スル(馬拉二ノ七、黙一ノ廿二ノ一)ノ類ナリ然レモ聖書ニ於テ眞ニ神使ト稱スル所ノ者ハ神ト異ナリ又人ト異ナル一種特別ノ神靈的ノ者ナリ而シテ此者タル實地存在スル者ニシテ想像的ノ者ニ非ザルナリ即チ

一、イナブノ書ニ載スル所ヲ見ルニ曰ク人豈神ヨリ義ナラシヤ人豈其行フ所ニ於テ過ナカラシヤ視哉神其僕ヲ信セズ其使ニ欠典ヲ視ルト(約百四ノ十六十七)此ニハ明カニ神使ヲ以テ神ト區別シ又人ト區別シ其本性ニ由テ人ヨリ稍高尚ナル者ト爲スナリ

二、聖詠者ハ稍其語氣ヲ強ウシテ人ト神使ノ間ニ亦右ノ如キ比較ヲ爲ス曰ク主ヤ人ハ何物タル爾之ヲ憶フヤ人ノ子ハ何物タル爾之ヲ顧ルヤ爾ハ彼ヲ神使ヨリ少ク降ラシメ光榮ト尊敬ヲ以テ之ニ冠ラセタリ(聖詠八ノ五、六)

三、救主基督教ヘテ曰ク

(甲)凡ソ人ノ前ニ我ヲ認ムル者ハ人ノ子モ亦將ニ彼ヲ神ノ使ノ前ニ認メントス 第八ノ前ニ我ヲ諱ム者ハ我必ス彼ヲ神ノ使ノ前ニ諱マントスト(路十二ノ八、九)是ニ由テ之ヲ觀レハ神使ハ人類ト異ナル一種特別

ノ受造物タルヤ明ナリ

(乙)彼ノ日彼ノ時人之ヲ知ルナリ即チ神使ト人子ト亦之ヲ知ラズ惟父之ヲ知ルノミト(馬可十三ノ三十二)茲ニハ神使ヲ以テ天ニ居ル者人ヨリモ完全ナルノ知識ヲ有スル者ト爲シ且父及ヒ子ノ實在スルガ如ク疑ヒナク存在スル者ト爲スナリ

(丙)夫レ復生ノ時娶ラズ嫁カズ乃チ神ノ使ノ天ニ在ルガ如シト(馬太廿二ノ三十)此語ハ無論神使ヲ以テ實在ノ者ト爲スモノナルニ救主ガ神使存在ノ理ヲ否斥シタル(サドケイ)人(行傳廿三ノ八)ニ對シテ之ヲ述ベタルニ由テ益其意ノ深キヲ知ルベシ

四、使徒パウエルハ其最愛ノ門徒テイモフニ書シテ曰ク我神ト主耶穌基督ト其ノ選チ蒙リタル神使ノ前ニ於テ爾ニ諭シテ此ヲ守ラシムト(提前五ノ廿二)若シ夫レ此ノ如ク使徒ハ神父及ヒ主耶穌ト偕ニ神使ヲ以

テ證者ト爲ストセハ自ラ之ヲ以テ實在ノ者ト爲スヤ言ハスシテ明ナ
 リ又使徒ハエウレイ人ニ與フルノ書ニ於テ救主ヲ神使ニ比シテ曰ク
 彼レノ神使ニ超越スル猶彼ガ得ル所ノ名ノ神使ヨリ尊キガゴトシ蓋
 神何ノ神使ニ對シテ曾テ爾ハ乃チ我カ子我今爾ヲ生メリト云フヤ、
 、又冢子チノ世ニ入ラシムル時曰ク神ノ使皆當ニ之ヲ拜スベシト
 (希一ノ四至六)
 第三、神使ノ神ニ造ラレタルトハ聖書ガ神ノ子ヲ指シテ万物之ガ爲ニ
 造ラレ凡ソ造ヲ受ル者之ニ由テ造ラレザルナシト云ヒ(約一ノ三)又ハ
 萬物彼ニ由テ造ヲ受ク天ニ在ル者ト地ニ在ル者見ルヘキ者ト見ル可
 ラザル者或ハ寶座或ハ主制或ハ權柄或ハ能力ヲ論スルナク万物彼ニ
 由リ且彼ガ爲ニ造ヲ受ク(哥羅一ノ十六)ト云フノ言ヲ以テ之ヲ明示
 ス茲ニ見ルベカラザル者トハ見ルヘキ物質世界ニ相反スル神靈界ノ

一、神使ハ神ナリ、聖書明ニ此事ヲ教示ス即チ(甲)概シテ神使ヲ指シテ彼
 等皆服事ノ靈(神)ニシテ凡ソ救ヲ得ント欲スル者ニ服事センカ爲メ遣
 ハサル、者ニ非ズヤ(希一ノ十四)ト云ヒ(乙)又細カニ之ヲ云ヘハ神靈ノ
 固有ノ性質即チ智ト意ト具フルト爲シテ彼等ハ吾人ノ救贖ノ奧義
 チ察セント欲スルノ望アリト云ヒ(彼前一ノ十二)此世ノ末日ヲ知ラズ
 ト云ヒ(馬可十三ノ卅二)彼等ハ聖ナル者ナリト云ヒ(馬太廿五ノ卅一)又

一、神使ハ神ナリ、聖書明ニ此事ヲ教示ス即チ(甲)概シテ神使ヲ指シテ彼
 等皆服事ノ靈(神)ニシテ凡ソ救ヲ得ント欲スル者ニ服事センカ爲メ遣
 ハサル、者ニ非ズヤ(希一ノ十四)ト云ヒ(乙)又細カニ之ヲ云ヘハ神靈ノ
 固有ノ性質即チ智ト意ト具フルト爲シテ彼等ハ吾人ノ救贖ノ奧義
 チ察セント欲スルノ望アリト云ヒ(彼前一ノ十二)此世ノ末日ヲ知ラズ
 ト云ヒ(馬可十三ノ卅二)彼等ハ聖ナル者ナリト云ヒ(馬太廿五ノ卅一)又

一、神使ハ神ナリ、聖書明ニ此事ヲ教示ス即チ(甲)概シテ神使ヲ指シテ彼
 等皆服事ノ靈(神)ニシテ凡ソ救ヲ得ント欲スル者ニ服事センカ爲メ遣
 ハサル、者ニ非ズヤ(希一ノ十四)ト云ヒ(乙)又細カニ之ヲ云ヘハ神靈ノ
 固有ノ性質即チ智ト意ト具フルト爲シテ彼等ハ吾人ノ救贖ノ奧義
 チ察セント欲スルノ望アリト云ヒ(彼前一ノ十二)此世ノ末日ヲ知ラズ
 ト云ヒ(馬可十三ノ卅二)彼等ハ聖ナル者ナリト云ヒ(馬太廿五ノ卅一)又

(丙)彼等ヲ以テ神ヲ觀ル者馬太十八ノ十神ヲ頌讚スル者(以賽六ノ三)神ノ旨ヲ行フ者聖詠百二ノ廿ト爲ス

二、神使ハ無形体ノ神ナリ、能ク聖書ノ言ヲ玩味セバ此意明ナルベシ即チ聖書ハ神ノ神タルヲ證シテ神ハ乃チ神ナリ(約四ノ廿四)ト云フガ如ク亦神使ノ神タルヲ證ス(希一ノ十四)而シテ神ニハ骨肉ナク(路廿四ノ卅九)救主基督ガ復生ノ後閉チタルノ戸ヲ通リテ其門徒ノ處ニ至リタルガ如キ榮セラレタルノ肉体(約廿ノ十九)モ尙且之ヲ有セズト爲ス又神使ハ肉身ヲ有スルノ人々ニ反シテ娶ラズ嫁カスト云ヒ(馬太廿二ノ三十)且死スル能ハズト爲ス(路廿ノ卅五)卅六)教會ノ聖師父等モ明ニ神使ノ無形体ナルノ教ヲ述ブ例ヘバ(甲)聖アファナシイ曰ク『神使ハ有智非物質的ニノ謳歌スル不死ノ者ナリ』ト(乙)ニッサノ聖グリゴリイ曰ク『智識ヲ具フルノ受造物ハ無形體ノ者ト肉身アル者トニツニ分タル無形體ノ

者ハ即チ神使ニシテ肉身アルモノハ即チ我等人間ナリ』ト聖金口曰ク『神ハ神使神使長及ヒ其他ノ無形體ノ者ヲ造レリ』ト(ママス)ノ聖イサアノ曰ク『神使ハ有智自由無形體ニノ神ニ服事スル者ナリ』ト

三、神使ハ人ノ靈魂ヨリハ稍、完全ナレドモ有限ナルノ神ナリ、完全ナレドモ有限ナルハ

(甲)概シテ其本性ニ由ルナリ、聖詠者ガ人ハ神使ヨリ少ク降レル者ナリ(聖詠八ノ六)ト云フノ言ニ於テ此意明カナリ是即チ神使ハ人ニ勝ルト雖モ唯少ク勝ルノミ又使徒パウエルガ神ノ獨生ノ子ガ神ノ威嚴ヲ具フルヲ證スルニ當リテ神ノ子ガ神使ニ超越スト云ヒ(希一ノ四、十四)并ニ使徒ペートルガ人間ノ贖罪主ガ其肉身ヲ以テ天ニ昇リタル後受ケタル所ノ榮ヲ象リテ神使、主制能力皆其下ニ服セリト云フ(彼前三ノ廿二)ハ亦皆此意ヲ含ミテ云フモノナリ

(乙)其智ニ由ルナリ、使徒等ガ救主ニ此世ノ末日ノ下チ問ヒタル時之ニ
 謂テ曰ク彼ノ日彼ノ時人之ヲ知ルナシ即チ神使ト人子ト亦之ヲ知ラ
 ズ惟父之ヲ知ルノミト(馬可十三ノ卅二)是ニ由テ視レバ神使ノ知識ガ
 人ノ知識ヨリモ高尚ナルヲト此知識ニ際限アルヲ明カナリ
 (丙)其力ト能トニ由ルナリ、聖書ニ神使ハ力ト能トヲ以テ吾人ニ勝ルヲ
 證ス(彼後二ノ十一又聖詠百二ノ廿參看)然レモ神使ノ能ニハ際限アリ
 テ自ラ奇跡ヲ行ヒ得可キカ如ク大ナラズ、主神イズライリノ神獨リ奇
 迹ヲ行フ者ハ讚揚セラル(聖詠七十一ノ十八)

○四十五、神使ノ數及ヒ其階級即チ天ノ神品職イエラヒヤ

第一、聖書ハ神使ノ世界ヲ非常ニ廣大ナル者ニ象ル、舊約ノ機密洞見者
 ノ一八ハ夢ニ於テ亘古ヨリ常ニ在ル者其實座ニ坐スルキ之ニ役事ス
 ル者千々アリ其前ニ侍坐スル者萬々アルヲ見タリ(但七ノ九、十)又新約

ノ機密洞見者ハ神ノ位ノ四周ニアル衆神使ノ聲ヲ聞キ、其數万
 々千々ナルヲ觀タリ(黙五ノ十一)又神ノ子ガ人類ヲ救フガ爲メ此世ニ
 降臨シタル時衆天軍之ヲ讚美セリ(路二ノ十三)主ハ其萬々ノ聖神使ト
 與ニ臨ミ以テ鞠ヲ衆ニ行ヒ諸ノ不敬虔ノ人ヲ責メントス(猶大十四)凡ソ
 誠心救主基督ヲ信スル者ハ亦皆神使ノ衆軍ト相交ハルニ至ルヘシ(希
 十二ノ廿二)

第二、此ノ如ク勝テ數フベカラザル多クノ神使ハ特別ノ階級ニ分タル
 使徒パウエルガ神ノ子ノ下チ謂テ萬物彼ニ由テ造ヲ受ク天ニ在ル者ト
 地ニ在ル者見ルベキ者ト見ルベカラザル者或ハ寶座或ハ主制或ハ執
 政或ハ權柄ヲ論スルナク萬物彼ニ由リ且彼レノ爲ニ造ヲ受クト云
 ヒ(哥羅一ノ十六)又救主ガ昇天ノ後ニ得タルノ榮ヲ象リテ父ハ天ニ於
 テ之ヲ巳ノ右ニ坐セシメ諸ノ執政權柄能力主制ニ超ヘシメタリト云

フハ(以弗一ノ廿廿二)是レ明カニ神使ノ階級ノ區別ヲ示ス者ナリ加之
 聖書ガ神使ニ付スルノ名稱ヲ以テ見ルモ其位ノ相異ナルヲ知ルニ足
 ル例ヘバ一ヲ神使ト名ツケ(彼前三ノ廿二)又一ヲ神使長ト名ツル(帖前
 四ノ十七猶大九)カ如キ是ナリ、教會ノ此事ヲ信スルコトハ第五全地公會
 (五百五十三年)ニ徴シテ之ヲ知ルベシ當時オリゲンハ説ヲ爲シテ神使
 ハ其能力ト位ニ由テ互ニ全ク同等ニシテ始メ階級ニ分タル、ガ如キコ
 ナカリシモ後其中罪ニ陷ル者アルニ及ンデ其間ニ階級ヲ生セリト主
 張セシニ公會ハ其説ヲ否定セリ

第三細カニ之ヲ云ヘバ正教會ハ天ノ神品職ノ階級ヲ教フルコト左ノ如
 シ曰ク『神使ハ九品ニ分レ而シテ九品ハ更ニ三級ニ分ル第一級ニ居
 ル者ハ神ニ尤近キ者ニ即チ寶座ヘルウイム及セラフイムナリ第二級ニ
 居ル者ハ主制、權柄及ヒ能力ナリ第三級ニ居ル者ハ神使、神使長及ヒ執

政ナリト(正教宗門上篇第廿問ノ答)此ノ如キノ分割ハ

(甲)一ハ聖書ニ基ツク、聖書ニ悉ク右ニ擧ケタル神使ノ級稱ヲ載スルヲ
 以テ之ヲ證スベシ即チヘルウイム(創三ノ廿四)セラフイム(以賽六ノ一至八)
 能力(以弗一ノ廿一、羅八ノ卅八)寶座執政、主制、權柄(哥羅一ノ十六、以弗一
 ノ廿一、三十)神使長(帖前四ノ十六、猶大九)及ヒ神使(彼前三ノ廿二、羅八ノ
 卅八)等ノ名稱ヲ記シ而シテ此神使ノ九階級ノ名稱ノ外ハ一モ記スル所
 ナシ

(乙)然レモ其ノ首トシテ基ツク所ハ聖傳ニアリ、聖傳ニシテコシイアレオパギ
 トハ此傳ハ直ニ其師タル聖使徒パウエルノ口ヨリ出タルト爲シテ曰ク
 『神ノ言ハ天ノ悉クノ能力階級ヲ稱スルニ九ツノ截然相異ナルノ名稱
 ヲ以テシテ而シテ吾ガ聖神師ハ之ヲ三品ツ、ノ三級ニ分テリ』此外此ノ如
 ク神使ヲ九品ニ分ツコト若クハ少クモ神使ノ九品ノ名稱ヲ枚擧スルコ